
履修要項

2026

佛教大学

在学中保存

『履修要項』（本冊子）は 卒業時まで使用します 在学中は必ず保存のこと

在学中、本冊子に掲載する内容に変更が生じた場合は、佛教大学ホームページ『履修要項』にてお知らせします。

学籍について

学籍異動や学費、学生生活に関することは『学生生活ハンドブック』をご確認ください。



学生への 連絡方法

学生の皆さんに周知を要する学修上の連絡事項は、すべてB-netに掲出します。

一旦、掲出したものについてはすべての学生へ連絡したものととして取り扱います。

定期的にB-netを確認し、見落としのないように注意してください。見落としによる不利益は学生自身の責任とします。

※B-netの詳細は、次頁を確認してください。

※一部、学内掲示板でもお知らせします。設置場所は以下の通りです。

●学内掲示板一覧



掲示内容	1号館北側	1号館(2階)	6号館中通路	6号館東側	7号館中通路(北)	7号館中通路(南)	各研究室棟(8・10・11号館、二条キャンパス1号館3～6階)	二条キャンパス1号館(1階)事務室前	二条キャンパス1号館(2階)
履修関係	○	○	—	—	—	—	—	○	—
進路・就職	○	○	—	—	—	—	—	—	○
学生生活	○	○	—	—	—	—	—	○	○
大学行事	○	○	—	—	—	—	—	○	○
その他	—	関係領域ごとに掲示	学生専用	学生専用	書道展示	—	学部・学科の連絡専用	事務室からの連絡	学部・学科・事務室からの連絡

履修に関する問い合わせ

必ず本人が学生支援課カウンター窓口にて問い合わせてください。本人以外からの問い合わせや、本人であっても電話での問い合わせには一切お答えできません。

B-net Portal について

B-net Portal とは（略称 :B-net）

大学が発信するお知らせの確認や各種申請の手続きなどを行うことができるポータルサイトです。

B-netにはWeb版とスマートフォンアプリ版(UNIPA)があります。

ログイン方法について

1. 以下のとおり B-net にアクセスしてください。

【Web 版】

<https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/>

または、佛教大学ホームページ (<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>) トップページ（ホーム画面）下部にある「ポータルサイト B-net」をクリックしてください。

※スマートフォン用サイトもあります。詳しくは、上記 B-net ログイン画面よりご確認ください。

2. ログイン画面からユーザー ID とパスワードを入力してください。

※ ユーザー ID およびパスワードについては、入学時に配付する「アカウント・パスワード通知」にて確認してください。

ホーム画面

ホーム画面では、大学からのお知らせ、休補講・教室変更、教務情報などの掲示、各種利用マニュアルなどが確認できます。

（掲示例：落とし物連絡・奨学金手続き案内・履修登録期間開始・教室変更・就職ガイダンスなど）

個人情報の照会、変更申請

大学（B-net）に登録されている、本人、保証人情報などを確認することができます。また、登録情報（住所や電話番号など）に変更が生じた場合、「ホーム画面＞情報照会＞学籍情報変更申請」より変更することができます。

授業情報

授業に関する各種情報を確認することができます。

開講科目の開講曜日・講時や「シラバス照会」では、授業の概要、到達目標、成績評価の基準、テキストなどが確認できます。

※シラバスについての詳細については『履修要項』p.27 を確認してください。

資格・成績

「希望資格登録」では、取得希望する教育職員免許状・諸資格を登録できます。登録をすることで、事務手続きや履修指導をうけられます。

「成績照会」では、自身が学修した授業科目の成績や現在の修得単位数等を確認することができます。

Web 申請

学籍異動や傷害・事故報告、学内奨学金をはじめとした各種申請ができます。

事務取扱時間および電話番号

主な **学生対応窓口** の事務取扱時間および電話番号は以下のとおりです。

※授業日や行事日以外で事務の取扱いを休止する場合は B-net でお知らせします。

窓口	場所	電話番号	取扱時間
学生支援課	1号館2階	075-493-9009	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00 土曜 / 9:00~13:00
免許・資格課		075-493-9092 (免許関連)	
		075-493-9016 (資格関連)	
二条キャンパス事務課	二条キャンパス 1号館1階	075-366-5660	
情報システム課	1号館2階	075-493-9003	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00
社会連携課		075-493-9002	
国際交流課		075-493-9017	
進路就職課		075-493-9058	平日 / 9:00~17:00 土曜 / 9:00~13:00
生涯学習部 (通信教育課程) 事務局	1号館1階	075-491-0239(代)	木曜日および通信教育課程の学事行事的ない 土曜日・日曜日・祝日は事務取扱休止日。 詳細は通信教育課程HP参照。

※変更となる場合は、B-net にてお知らせします。

目次

佛教大学を知る	3
---------	---

I. 各学部の教育目標

仏教学部	10
文学部	12
歴史学部	14
教育学部	16
社会学部	18
社会福祉学部	20

II. 履修一般事項

履修にあたって	25
<small>授業科目の区分について / 必修科目・選択科目・自由科目の分類について / 単位 / セメスター制 / シラバス / 科目ナンバリング (学部) / カリキュラムマップ (学部) / カリキュラムツリー (学部)</small>	
履修登録	30
<small>履修登録 / 履修登録の流れ / 履修登録の留意事項 / 履修登録の手続き / 履修登録状況の確認 / 履修登録の完了 / 履修取消し制度</small>	
授業	36
<small>授業時間 / 集中講義・実習 / 休講 / 補講 / 授業欠席 / 公欠</small>	
試験	38
<small>試験の種類 / 定期試験について / 教室試験 / リポート試験 / 追試験について</small>	
緊急時における授業・試験の取り扱い	43
<small>休講および定期試験休止 / 休講の解除および定期試験休止の解除 / その他の事項</small>	
学校感染症罹患により 欠席した授業・試験の取り扱い	44
<small>欠席の連絡方法について</small>	
成績と単位認定	45
<small>成績 / 成績の確認 / 成績に関する調査申請 (成績疑義) について / 単位互換制度の単位認定 / 通信教育課程との併修履修による単位認定 / 他の大学・短期大学で修得した単位の認定 / GPA 制度</small>	
卒業論文・卒業研究・卒業レポート	49
<small>各学部学科の卒業論文・卒業研究・卒業レポート</small>	
卒業	50
<small>卒業所要単位と要件 / 卒業所要単位充足者発表 / 再試験 (卒業)</small>	

III. 教育課程

【共通教養科目】	55
<small>外国語科目履修の注意点 / 共通教養科目 履修科目表</small>	
【専門科目】	
仏教学部 仏教学科	58
文学部 日本文学科	69
中国学科	79
英米学科	90
歴史学部 歴史学科	99
歴史文化学科	108
教育学部 教育学科	117
幼児教育学科	128
臨床心理学科	136
社会学部 現代社会学科	145
公共政策学科	152
社会福祉学部 社会福祉学科	159
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	168
短期海外語学研修	169
派遣留学・交換留学	170
通信教育課程との併修履修制度 (「免許併修」)	171

IV. 規程	173
--------	-----

佛教大学を知る

- ・ 佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的
- ・ 学章
- ・ ロゴマーク
- ・ 学歌
- ・ 公式マスコットキャラクター



佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第1条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

学則第1条

「本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

仏教精神

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

佛教大学の教育方針

人材養成の目的

佛教大学は、学則第1条に定める使命を果たすために、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、社会で実際に活動するために必要な基礎的な知識や素養、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し、生涯にわたって学び続けながら周囲の人々と協力し、主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成します。

教育研究上の目的

佛教大学は、学則第1条に基づき、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。

（仏教精神）

D1 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる

（知識・理解・汎用的技能）

D2 社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる

①多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えることができる

②文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考えることができる

③ICTを活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる

④自己理解を深め、職業観を持ち、自らのキャリアを決定することができる

D3 専攻する学問分野における専門的な知識や技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる

⑤専門領域に必要な基礎的な知識や視点を習得している

⑥専門領域の深い知識や技能を習得している

⑦情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる

⑧社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる

（態度・志向性）

D4 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、専攻する学問分野で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

（学びと成長への内発的動機）

D5 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

<教育課程の編成方針>

佛教大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、共通教養科目、専門教育科目、その他の必要な科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（担当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

(1) 仏教精神

仏教精神に基づいた4つの力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合し、活用できるようにするために、共通教養科目の内に仏教・自校教育科目群を配置します。また、必要に応じて、専門科目の内に仏教精神涵養科目を配置するとともに、実践や実習、ボランティアなどの機会を提供します。

(2) 知識・理解×汎用的技能

A【主に共通教養で習得】

社会人として必要な教養や、専攻する学問分野の理解に必要な基礎的知識および技能を身につけ、また活用することができるようにするため、共通教養科目を提供します。共通教養科目は、グローバル科目群、データサイエンス科目群、初年次教育科目群、キャリアスタディ科目群、プロジェクト科目群、自己形成科目群によって構成します。

- ①グローバル科目群は、多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えられるようにするために、語学・国際教養・海外研修で構成する
- ②データサイエンス科目群は、ICTを活用することにより、多様な情報を収集・分析し、情報を効果的に活用できるようにするために、必修科目のICTリテラシーのほか、データサイエンスや統計学、プログラミングの基礎を学ぶ科目で構成する
- ③初年次教育科目群は、初年次学生が大学生として基本的な資質・能力を修得し、キャリアに対する意識を養うため、「スタディ・スキルズ」「キャリア・スキルズ」等の科目で構成する。また、各学部学科において、専門学習への導入を目指し、「アカデミック・スキルズ」を提供する
- ④キャリアスタディ科目群は、社会人基礎力修得の必要性を理解するとともに、現代社会に即した幅広い職業観を養い、自己理解を深めながら、学習生活・大学生活やキャリア意識をもつことを目指し、社会人基礎力をより実践的に習得する「マイファーストキャリア」「ライフ・キャリアデザイン」「キャリア形成とマネジメント」などの科目で構成する
- ⑤プロジェクト科目群は、主にPBL手法を用いながら、課題解決に取り組み、社会に内在する諸問題を知り、考え、協力しながら行動する力を養うために、プロジェクト科目を置く
- ⑥自己形成科目群は、文化、自然、社会に関する知識および基礎的な考察する力を養うため、「文化と芸術」「地域と社会」「人間と自然」に関係する科目で構成する

B【主に専門で習得】

所属する学部・学科において、専攻する学問分野における専門的な知識・技能を身につけ、社会において活用することができるようにするため、専門科目を学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目に区分し、体系的に編成します。

- ①専攻する学問分野に必要な基礎的知識や視点を習得するために、学部ごとに学部基幹科目を提供する
- ②専攻する学問分野に関する専門的な知識や技能を習得するために、学科ごとに学科基礎科目を提供する
- ③専攻する学問分野に関するより高度な知識や技能を習得し、知識や情報を分析し、論理的に表現することができるよう、学科ごとにコースや領域に即した学科専攻科目を提供する
- ④専攻する学問分野に関連した幅広い知識や技能を習得し、社会における諸問題の把握や解決に必要な情報の収集・分析、論理的な思考や表現に資する力を養うために学科ごとに関連科目を提供する

(3) 態度・志向性

共通教養科目、専門科目ともに、アクティブ・ラーニング、PBL、グループワーク、演習・実習など、多彩な学習方法を組み込んだ科目を提供することにより、社会の一員としての意識や他者との協調・協働などの態度や志向性を身につけ、社会に貢献しようとする意志を涵養します。

(4) 学びと成長への内発的動機

共通教養科目の内に、自らの興味や関心をきっかけに学びの幅を広げ、また実際の社会問題と向き合い解決を目指すことによって、主体的に粘り強く学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することの重要性が体得できるよう、学部横断科目およびプロジェクト科目を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、ルーブリックなどの手法を用いながら論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

学章

本学が建学の理念の拠り所としている浄土宗を開かれた法然上人の生家の家紋であった杏葉に大学の文字を配したものです。

仏教の精神、浄土宗創建の理念に基づき、世界の福祉と文化の向上に貢献する人材の養成を旗印としています。



ロゴマーク

佛教大学の「佛」という漢字と、アルファベットの「B」がモチーフ。人と人が、手を差し伸べ互いを支え合い、つながる様子をイメージしています。

ボールドのゴシック体をベースにして、堂々と力強く成長していく姿を表現しています。



学歌

作詞:小西存祐
作曲:吉田恒三 (昭和11年4月制定)

一、高輝^{ひか}る千古の都

若草の萌出るところ
ここ鷹陵の吾等が学舎
ここ鷹陵の吾等が学舎
ここ鷹陵の吾等が学舎

二、礙^{さえ}られぬ光こめたり

黒谷の春のあけぼの
誰^たぞ開く報恩蔵^{ほうおんぞう}
誰^たぞ開く報恩蔵^{ほうおんぞう}
誰^たぞ開く報恩蔵^{ほうおんぞう}

三、仰ぎ見よ華頂の峰

その高き教ぞ栄ゆる
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじり}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじり}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじり}在^いませり

公式マスコットキャラクター

開学 100 周年記念事業の一環として、有志の学生グループが中心となり制作に取り組みました。学生たちの熱心な活動が実を結び、2010 年 10 月 23 日の創立記念日に公式マスコットキャラクターとして発表されました。また、ネーミングは 1,400 件を超える応募の中から「ぶったん」と決定しました。



ありがとうのうた「ありがとう—感謝—」

佛教大学開学 100 周年記念事業ありがとうプロジェクト企画

開学 100 周年の感謝の気持ちを表すために、ふだんなかなか言葉にできない「ありがとう」を伝えるきっかけとなるように、そのような想いで学生と教職員が一丸となり「ありがとう—感謝—」の楽曲がつけられました。



I. 各学部 of 教育目標

仏 教 学 部 P.10

文 学 部 P.12

歴 史 学 部 P.14

教 育 学 部 P.16

社 会 学 部 P.18

社会福祉学部 P.20



仏教学部仏教学科の教育方針

人材養成の目的

仏教学部仏教学科は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信したり、現代社会が抱える諸問題に対応することができる人材を養成します。

仏教学部仏教学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 ブツダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野について説明することができる
- D2 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用することができる
- D3 さまざまな言語で記述された資料を適切に読解して、問題解決に必要な情報を収集することができる
- D4 仏教史の概要を説明することができる
- D5 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができる
- D6 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用することができる
- D7 仏教の魅力を発信することができる

以上に示す仏教学部仏教学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

仏教学部仏教学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

仏教学部仏教学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、フィールドワークなどを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①ブツダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野を説明できるようになるために、学部基幹科目を提供する
- ②仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用できるようになるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」「基礎ゼミ」を提供する
- ③さまざまな言語で記述された資料を適切に読解し、情報を収集できるようになるために、学科基礎科目の中に「古文入門」「古文上級」「漢文入門」「漢文上級」「サンスクリット語入門」「サンスクリット語上級」「パーリ語」「チベット語」を提供する
- ④仏教史の概要を説明できるようになるために、学科専攻科目の中に共通科目群を提供する
- ⑤収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができるようになるために、学科専攻科目および関連科目を提供する。学科専攻科目には、論理的に表現できるようになるためのゼミ科目群、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析できるようになるための仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系科目群、および関連科目を提供する
- ⑥卒業後の進路に応じた各種の免許状・資格を取得することができるよう関連科目を提供する
- ⑦現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用できるようになるため、学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する
- ⑧仏教の魅力を発信することができるようになるために学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

文学部の教育方針

人材養成の目的

文学部は、大学の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、文学、文化および言語に関する領域に関わる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 社会のさまざまな事象について、建学の理念によって培われた倫理観に基づいて判断を下し、かつ修得した知識を活用して社会的責任を果たすことができる
- D2 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけている
- D3 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、テーマを設定して自らの見解をまとめることができる
- D4 選択した専門領域以外の関連領域について、基礎的な知識を身につけている
- D5 国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる一定の知識と能力を身につけている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

文学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。また、日本文学科、中国学科、英米学科それぞれの専門性に対応した教員免許状取得希望者のために関連する科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①日本、中国に代表される東アジア、および英米を中心とした英語圏の言語や文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけるため学部基幹科目に、世界の言語や文化の多様性を理解する基礎となる「中国語と中国文化」「英語と英米文化」「世界の言語と文化(朝鮮語)」「世界の言語と文化(ベトナム語)」「世界の言語と文化(フランス語)」「世界の言語と文化(ドイツ語)」を提供する
- ②言語や文化の知識や理解を深めるために各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する
- ③学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため、「アカデミック・スキルズ」および4年次に「卒業研究ゼミ」を設ける
- ④国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる知識と能力を身につけるために、長期の海外留学制度を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

歴史学部の教育方針

人材養成の目的

歴史学部は、建学の理念に基づき、過去から現代に至る人間の営みを見つめることを通して、豊かな「人間力」をもち、社会人として必要な教養や技能を身につけた人材を養成します。さらに、歴史学の学修を通して、時間的・空間的な多様性を理解し、自己とそれを取り巻く文化・社会を客観的に捉え、人間・社会・文化等の歴史的な事象についての幅広い知識と多様性への理解に裏打ちされた洞察力と判断力を備えた人材を養成します。

歴史学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会を支える広い教養を身につけている
- D2 過去を探る学術的な方法について理解している
- D3 歴史的な情報を史資料に基づき分析、解釈できる
- D4 個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在を理解する
- D5 形成した歴史像を自らの言葉で論理的に表現できる
- D6 時間的・空間的な多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
- D7 過去の社会や文化に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および歴史学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

歴史学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

歴史学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

教育課程（カリキュラム）は、学部に設けられた歴史、歴史文化それぞれの学科で学修する領域を考慮しながら編成します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習、研修（臨地研修・フィールドワーク）などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①過去を探る学術的な方法について基礎的な理解を目指し、各種概論を中心とした学部基幹科目を提供する
- ②歴史的な情報を史資料に基づき分析、解釈できる力を養うため、各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する
- ③課題を発見しようとする姿勢を養い、自らの見解を形成する力の要請を目指すため、2年生以降の各学年においてゼミ科目を提供する

学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため4年次に「卒業論文」の執筆を前提とした「卒業研究ゼミ」を提供します。

専門教育の学修内容を補完し、より幅の広い学修を促すため、多彩な関連科目を設定します。両学科の関連科目は過去の事象をさまざまな角度から考察する歴史学という学問の特性を考慮して互いに履修可能となるよう設定し、横断的な学修を担保します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ループリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

教育学部の教育方針

人材養成の目的

教育学部は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育・心理職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の発達成長や心の健康における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2** 教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3** 社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができる
- D4** 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りにより、それまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

教育学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

教育学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往環」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするために、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科ごとに学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」「臨床心理学基礎ゼミ」等の科目を提供する
- ③社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する
- ④社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する

社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習・実験やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実験・実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

社会学部の教育方針

人材養成の目的

社会学部は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、社会学または公共政策をはじめとする各専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を持ち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 社会学または公共政策学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ①社会学または公共政策の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②社会学または公共政策の領域の深い知識や技能を修得している
 - ③社会学または公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
 - ④社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる
- D2** 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる
- D3** 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

社会学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

社会学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

社会学または公共政策学の領域における専門的な知識・技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決のために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①社会学または公共政策学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得するために、学部基幹科目に「現代社会論」「公共性と社会」を提供する
- ②社会学または公共政策学の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」）を提供する
- ③社会学または公共政策学の領域の深い知識や技能を修得するため、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」）を提供する
- ④社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目（現代社会学科：「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、公共政策学科：「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」）を提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うPBL科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③プレゼンテーションによる評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

社会福祉学部社会福祉学科の教育方針

人材養成の目的

社会福祉学部社会福祉学科は、多様な人々と安心して暮らせる地域社会のために、相互理解や権利意識を持ち、福祉の歴史や原理を社会に活かす力を身につけるとともに、自分の価値を大切にしつつ、異なる価値観を持つ相手とも対話を重ね、社会の課題を新たな可能性の機会として捉えられる人材を養成します。

社会福祉学部社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会の様々な領域で活かすことができる
- ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができる
 - ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができる
 - ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに次の社会を展望できる
- D2** 自らの価値を大切にしながら、価値が相違する相手とも丁寧に対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができる
- ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができる
 - ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができる
 - ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができる
- D3** 誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができる

以上に示す社会福祉学部社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

社会福祉学部社会福祉学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

社会福祉学部社会福祉学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系的な教育課程（カリキュラム）として編成します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会のさまざまな領域で活かすことができるよう、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目等からなる専門教育課程を体系的に編成します。

- ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができるよう、学部基幹科目として「現代の社会問題とアクション」「福祉とケアの倫理」を提供する
- ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができるよう、学部基幹科目として「人権と福祉」、学科基礎科目として「社会保障論」を提供する
- ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに社会を展望できるよう、学科基礎科目として「社会福祉史」「社会福祉原論」を提供する

自らの価値を大切にすると同時に、価値が異なる相手とも丁寧な対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができるよう、社会福祉の実践に基づいた教育課程を提供します。

- ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができるよう、学科基礎科目として「地域共創演習」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する
- ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができるよう、学科基礎科目として「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」、学科専攻科目として「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する
- ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができるよう、学科基礎科目として「若者支援論」「ソーシャル・ビジネス論」、学科専攻科目として「地域共創演習」をそれぞれ提供する
- ④誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができるよう、学科基礎科目・学科専攻科目・関連科目において各資格・免許状に応じた科目を提供する

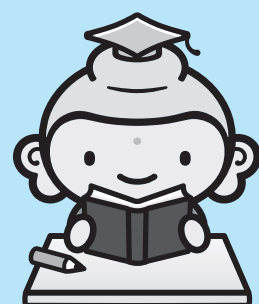
<学修成果の評価方針>

授業を通じて修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下の4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験または実習による評価
- ④授業への取り組み状況や授業内小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

Ⅱ. 履修一般事項

履修にあたって	P.25
履修登録	P.30
授業	P.36
試験	P.38
緊急時における授業・試験の取り扱い	P.43
学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い	P.44
成績と単位認定	P.45
卒業論文・卒業研究・卒業レポート	P.49
卒業	P.50

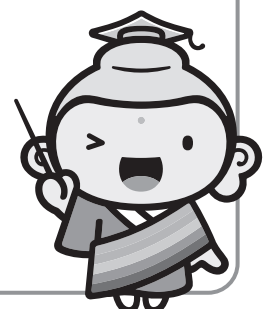




II章を読んで、履修のことについて大事なポイントを確認しましょう。

1. 科目分類には、必修科目、選択科目、() 科目) がある。…p.25 参照
2. 年間の履修登録上限は() 単位)。() 科目) は、履修登録上限に含まない。…pp.32-33 参照
3. 定期試験は() に記載がある授業で行われ、() 分間で実施される。…p.38 参照
4. 公欠の取り扱いについて、授業を欠席するという状況に変わりはなく、担当者(教員)に() を提出し、欠席分の振り返りを進める必要がある。…p.37 参照
5. 定期試験を実施する試験会場では() を机上の通路側におく必要がある。…p.39 参照

MEMO



対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

大学での履修をはじめるとあって、知っておかなければならない制度などがあります。以下をよく読み、履修にあってください。

授業科目の区分について

本学の授業科目は、社会人として必要な教養や知識・技能を身につけるために全学に開設している**共通教養科目**、各学部・学科における専門領域に関する知識・技能を修得し、問題把握力と問題解決力を涵養するための学びの本質を構成する**専門科目**に分けて開設しています。

《授業科目の区分》

系列区分	科目内容
共通教養科目	仏教・自校教育科目群 建学の理念である仏教精神に基づく4つの力 ①自分を客観的にとらえる力 ②目標に向かって継続し努力する力 ③周りの人を思いやる力 ④多様性を受け入れて協力する力を養います。
	グローバル科目群 多文化共生の第一歩として外国語を学び、異文化について理解することの意義を考え、大学における外国語学習に明確な動機付けを与える科目などがあります。
	データサイエンス科目群 数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、学ぶことや活用することの楽しさを実感できる科目を提供しています。社会にあふれるデータを読み解き、あらゆる学問や産業分野における課題発見・解決、新たな知見を引き出すことを目指します。 ※「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」対応
	初年次教育科目群 大学における基本的な読み・書き・思考の習得、1～2学年の早期から学生一人ひとりの職業観を育成し、自らのキャリアを決定できる力を養うとともに、社会にスムーズに移行して貢献できる力を付けることを目指します。
	キャリアスタディ科目群 「社会人基礎力・教養力」の養成を担う科目、「業種・業界研究」のきっかけを提供する科目、「職業体験」を実践する科目で構成し、社会人基礎力の養成・自己認識とキャリア形成を促します。
	プロジェクト科目群 PBL (Project Based Learning) 型の授業運営を取り入れ、自発性・創造性・知識の応用力・コミュニケーションスキルなど社会人基礎力の土台として必要とされる力を、他者との協働の中で総合的に学びます。
	自己形成科目群 学問知や社会的な知識を幅広く習得するとともに、知識の活用、探求のきっかけとなる科目群です。「文化と芸術を学ぶ」「地域と社会を学ぶ」「人間と自然を学ぶ」の3領域で構成されています。



専門科目	学部基幹科目	学部における学修の基幹を認識してもらうための科目群
	学科基礎科目	学科における専門教育の基礎となる科目群
	学科専攻科目	学科における専門教育の学びの中核となる科目群
	関連科目	学部・学科の専門教育に特に関連する知識や考え方を学修するための科目群

必修科目・選択科目・自由科目の分類について

すべての授業科目は以下のいずれかに分類されています。

必修科目	卒業要件に必要で、必ず履修しなければいけない科目
選択科目	卒業要件に含まれ、指定された科目群の中から選択して履修する科目
自由科目	卒業要件には含まれず、任意で履修する科目。履修登録単位上限には含まない

I 教育目標

II 履修一般

III 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV 規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

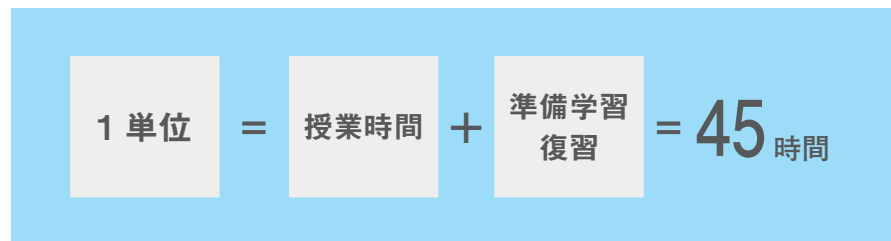
- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
 - 共通
 - 仏教
 - 日文
 - 中国
 - 英米
 - 歴史
 - 歴文
 - 教育
 - 幼教
 - 臨床
 - 現社
 - 公共
 - 社福
 - その他
- IV 規程

単 位

大学は、単位制となっています。各自履修登録した科目の授業を受講し、試験等を受け成績評価が合格となることによって、その授業科目に定められた単位の修得（単位認定）となります。

.....

国が定める基準の1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。



.....

【講義・講読および演習】については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める授業時間をもって1単位とする。

【実験・実習および実技】については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める授業時間をもって1単位とする。

本学では、教室等での授業時間を上記のとおり学則に定めています。

1学期あたり15週30時間の教室内における授業時間をもって単位計算の基本とし、計算上週1回の授業（1講義分）を2時間（実質90分）としますので、授業時間数と単位数については次表を基準とします。

ただし、演習・実習については科目により異なりますので、授業の週数はシラバスを参照してください。

《授業時間数と単位数》

授業科目	1週間当たりの授業時間	1学期の週数	修得単位数
講義・講読・演習	2時間（実質90分）	15週	2単位
		8週	1単位
外国語	2時間（実質90分）	15週	1単位
実験・実技・実習	2時間（実質90分）	15週	1単位

※教育実習等の学外で行われる実習（配属実習）は、上表の「実習」とは異なります。



ポイント!

本学では修得単位に関わらず**自動的に進級**します。修業年限は4年です。また、休学期間を除き、大学に8カ年を越えて在学することはできません。

セメスター制

セメスター（学期）制とは、15週（6ヶ月）を単位に1年を春学期と秋学期に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる制度です。

4年間は、合計8つの学期（第1セメスター～第8セメスター）に分けられることとなります。

この制度では、集中したカリキュラムが展開でき、履修登録の機会が年2回になるため、年度途中において興味をもった学問領域への学修計画の修正も可能となります。また、学期制を採用する諸外国との対応を図ることもできるなど、集中的かつ学際的な学修効果が高められます。

学年・学期・セメスターの関係は次表のとおりです。

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

シラバス

開講科目の授業テーマ・内容、到達目標や成績評価の基準、使用するテキストなど、授業に関する詳細な情報が書かれたものです。開講学期や曜日・講時、科目担当者も掲載されています。シラバスで科目の内容を必ず事前に確認し、学修計画を立ててください。シラバスはB-netより閲覧が可能です。

シラバスは、学期途中であってもやむを得ない事情により変更される場合があります。定期的に確認してください。

シラバスに掲載されている内容

科目の概要、授業のテーマ、授業の概要、授業の目的・ねらい、到達目標、毎回の授業のテーマ・内容、課題に対するフィードバック、授業時間外の学修についての具体的な指示、活用する授業方法、受講にあたっての留意事項、個人パソコンの持参、成績評価の基準、テキスト、参考文献 など

シラバス確認の際は以下の点に注意してください。

- ・B-netでは全ての科目のシラバス検索が可能です。したがって、履修できない科目やクラスも表示されます。
- ・テキストの購入前には最新のシラバスにて、使用テキストを確認してください。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

科目ナンバリング / カリキュラムマップ / カリキュラムツリー

学部ごとの「科目ナンバリング」・「カリキュラムマップ」・「カリキュラムツリー」表は以下のURL又はQRコードより確認してください。

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/course/numbering/>



科目ナンバリング (学部)

1. 科目ナンバリングとは

本学では、科目の属性や望ましい履修順序、授業形態や難易度を明示し、より順次的で段階的な学習計画を立てることを目的に全開講科目に科目ナンバリングを付与しています。

この科目ナンバリングの情報を参考に履修計画を立てることにより、どの科目をどの順で学ぶのがよいのか、またその科目がカリキュラム上どのように位置づけられ、どの程度の難易度なのかを理解できるので、4年間の学修計画がよりデザインし易くなります。

2. 科目ナンバリングの見方

(例) his05-3001-ocLE1 の場合、以下のような意味となります。

his 05 - 3 001 - oc LE 1
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
 歴史学科 学科専攻 第3セメス 通し番号 対面授業 講義科目 難易度1
 科目 ター推奨

① [科目所属学部・学科]

本学で開講している科目を開講している学部、または学科を示しています。

学部	コード	学科	コード
共通教養科目	gec	—	—
仏教学部	fbu	仏教学科	bud
文学部	fli	日本文学科	jal
		中国学科	chi
		英米学科	eng
歴史学部	fhi	歴史学科	his
		歴史文化学科	cul
教育学部	fed	教育学科	edu
		幼児教育学科	ear
		臨床心理学科	cli
社会学部	fso	現代社会学科	con
		公共政策学科	pub
社会福祉学部	fwe	社会福祉学科	wel
保健医療技術学部	fhm	理学療法学科	phy
		作業療法学科	occ
看護学部	fnu	看護学科	nur

② [科目区分]

その科目を開講するカリキュラムの中で、どの区分に配置されている科目かを示します。

区分	コード	区分	コード
共通教養科目	01	学科専攻科目	05
学部基幹科目	03	関連科目	06
学科基礎科目	04	自由科目	07

③ [履修推奨セメスター]

各学科のカリキュラムにおいて、履修を推奨するセメスターを示します。履修要項に示している履修開始セメスターとは異なる場合がありますので注意してください。

④ [ナンバー]

カリキュラム表の科目区分における通し番号です。

⑤ [授業形態]

対面授業や遠隔授業といった授業形態を示します。

授業形態	コード
対面授業	oc
遠隔授業(オンデマンド)	ol
遠隔授業(同時双方向)	in
対面授業と遠隔授業(オンデマンド)のハイブリッド	hb
対面授業と遠隔授業(同時双方向)が選択できるハイフレックス	hf
その他	ot

⑥ [授業方法]

各科目がどのような授業方法で実施されるのかを示しています。科目によっては、複数の授業方法を織り交ぜて実施している科目もありますが、その場合は、主な授業方法を示しています。

授業方法	教授法	コード
語学	講義法と演習を織り交ぜ、知識の定着とスピーキング、リスニング能力の向上を目指す教授法	LA
講義	主に教員が知識や情報の伝達を目的に講演する教授法	LE
講読	書物や論文を学問的に正確に読解し学ぶ教授法	RE
演習・実験・実技	ゼミ・実験・演習・フィールドワークなど、座学ではなくディスカッションや作業を通じて学ぶ教授法	AC
実習	免許・資格取得に関し、法令上規定された教育実習や病院実習、施設実習など、学外施設で学ぶ科目	PR
卒業論文	卒業論文・卒業研究・卒業レポート	GR

⑦ [難易度]

各科目のカリキュラム上の難易度、履修を推奨している学年の目安を示しています。この情報を参考に、体系的な履修計画を立ててください。ただし、基礎的な内容だからといって、単位修得が容易な訳ではありません。

難易度	基準	コード
基礎的な内容	基礎的な科目です。1・2年次に履修することを推奨します。専門科目を理解する上で基盤となる基礎知識を学ぶことができます。	1
標準的な内容	中級のレベルの科目です。2・3年次で履修することを推奨します。レベル1の科目で基礎をかためた上で履修することが理想的です。	2
高度な内容	発展的レベルの科目です。3・4年次で履修することを推奨します。4年次での卒業論文や卒業レポート、研究発表等に大きく関連する内容になります。また、4年間の学修成果となる(卒業論文や卒業レポート、研究発表)科目も含まれます。	3

カリキュラムマップ (学部)

本学が掲げるディプロマ・ポリシー (DP) と、カリキュラム内の授業科目との関連性を示すもので、学生が各 DP を修得するにあたり、どの科目を優先的に履修すべきかを示したマトリクス表です。

マークは授業科目と DP の関連性を表し、関連性の強い方から◎→○→△(強→弱)となります。

カリキュラムツリー (学部)

カリキュラムの体系的性を示し、授業科目相互の関係や学修の道筋等を表したチャート図です。カリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることによって、体系的な教育課程の実施や編成を可能とします。

I 教育目標

II 履修一般

III 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV 規程



注意!

履修登録をしていない科目は単位認定を受けられません。



ポイント!

履修取消し制度について

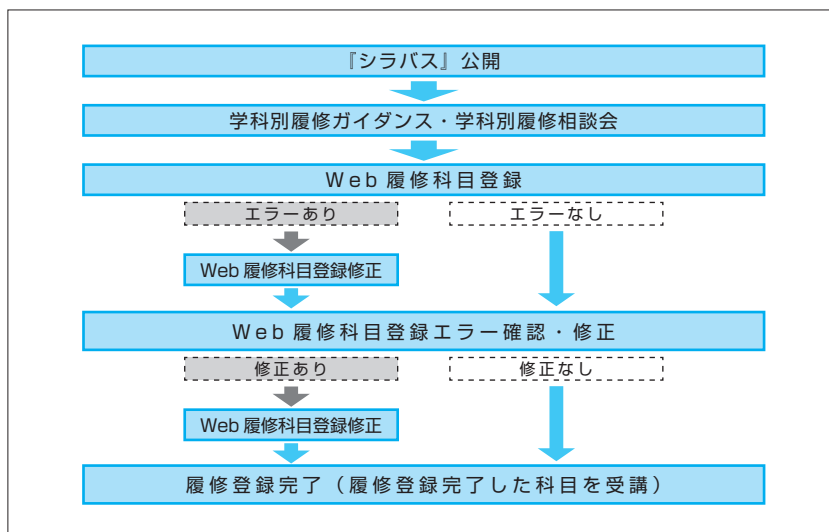
履修登録した科目を取消することができる制度があります。(p.35 参照)

履修登録

履修登録とは、自身の学修計画にもとづいた授業を受けるため、最初に行う手続きです。履修登録は、定められた期間および方法以外で行うことはできません。

したがって、オリエンテーション中のガイダンスには必ず出席し、学科の指導や指示事項、シラバスおよび本書の内容をもれなく確認することが大切です。特に、任意で選択する科目については、授業内容が自身にふさわしいもの（理解度含む）が、シラバスで必ず確認してください。なお、履修登録を行わないと授業を受けることができません。

履修登録の流れ



履修登録の流れ	オリエンテーション期間中の行事等	行事等の概要
学修の計画	「シラバス」公開	・「シラバス」をもとに学修計画を立てる
履修登録の手続き	学科別履修ガイダンス	・クラス指定表等の資料が配付される ・各学科からの注意事項等の説明がある
	学科別履修相談会	・学科の教員と個別の疑問や質問について対応相談できる
履修登録状況の確認	Web 履修科目登録	・学科別履修ガイダンスでの指導内容に基づき、自身で学修計画を修正する ・B-net で履修する科目の登録を行う
	Web 履修科目登録エラー確認・修正	・指定日時以降に B-net で履修登録した科目にエラーがないかを確認する ・エラー修正や科目変更は、期限までに B-net で履修科目登録修正を行う ・自身で登録した科目と相違なく、エラー表示もなければ履修登録完了!
履修登録の完了	———	・履修登録した授業に出席することができる ・授業教室は B-net で確認することができる

オリエンテーション期間中の行事日については、別途B-netにてお知らせします。秋学期のオリエンテーション期間中に実習等（公欠）の期間が含まれる場合は、別途指示される内容にしたがうようにしてください。ただし、公欠に該当しない理由でのオリエンテーション行事欠席については、一切認められません。したがって、欠席による不利益については、各自の責任となりますので、スケジュール管理には十分に注意してください。



履修登録の留意事項

履修登録を行う前には、学修計画が必要不可欠です。

履修登録する科目によってはクラス指定をはじめ、制限や条件があるものもあり、注意が必要です。以下は、履修登録に必要な基礎知識として、各事項を説明しています。卒業までの間違いのない学修計画のため、必ず理解するようにしてください。

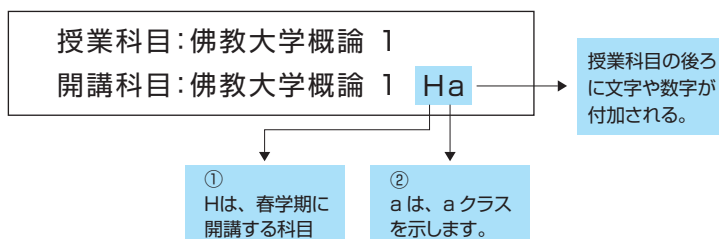
なお、講義の内容については、履修登録前にシラバスにて確認することが必要です。

開講科目と授業科目

学期中に、授業を受けている間の科目名称は、「開講科目」が用いられます。授業が終了し、単位を修得したものが成績表に記載されるのは「授業科目」となります。

.....

(凡例)



①	開講学期	付加される記号
	春 学 期	H
	秋 学 期	A
	集 中	S

開講科目には開講学期が必ず付加されますが、クラスは付加されない場合があります。

② クラスは、数字やアルファベット等があるので留意してください。

履修科目表

履修する科目（授業科目）を記載したものが「履修科目表」（p.56～）です。

履修科目表には、系列区分、**授業科目**、その科目の**単位数**（単位）、**科目の分類**（必修・選択・自由別）、**履修登録開始時期**（履修開始セメスター）、**GPA*の算出対象となるか**、そして**卒業するために必要な要件**（備考）が記載されています。

※ GPA 制度については、「GPA 制度」（p.47～）を参照

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程



注意！

第1学年では、「共通教養科目」について履修登録できる単位数に上限があります。



注意！

通年集中講義科目は春学期に履修登録を完了させること！

履修登録の手続き

履修登録上限単位数

年間の履修登録上限

年間の履修登録上限単位数は、以下のとおり定められています。また、各学期の履修登録上限単位数は、その2分の1です。

所属学部	年間登録上限
仏教学部・文学部・歴史学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部	44単位

第1学年次の履修登録上限

「共通教養科目」について履修登録できる単位数に上限があります。

学年	セメスター	共通教養科目		
		必修外国語	選択外国語※	自己形成科目群
1	第1セメスター	2単位	1 (2) 単位	4単位
	第2セメスター	2単位	1 (2) 単位	4単位

※選択外国語において2単位科目を履修登録する場合は、上限を2単位とします。

通年集中講義の履修登録取り扱い

- ・通年集中講義の履修登録は、春学期に行います。
- ・履修登録上限単位数の計算において、通年集中講義の単位数は、春学期（1セメスター）の履修登録上限単位数を超えて履修登録することができます。ただし、年間の履修登録上限単位数を超えることはできません。

卒業論文・卒業研究・卒業レポートの履修登録取り扱い

- ・「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業レポート」（以下、卒業論文等という）の履修登録は、第8セメスターに行います。履修登録を完了しないと単位認定が受けられません。
- ・第8セメスターにおいても1セメスター分の履修登録上限単位数を超えることはできません。卒業要件に卒業論文等を必要とする場合、それらの単位数を念頭に学修計画を立てることが必要です。
- ・第8セメスター開始時の未修得単位が当該学期の登録単位上限以上ある場合で、卒業論文等の提出を延期する場合は、卒業論文等を登録する必要はありません。卒業論文等を提出するセメスターのみに登録が必要です。

履修登録できる単位数の上限

学年	春学期登録上限	秋学期登録単位【上限22単位】	年間登録上限
1	22単位+通年集中講義単位	44単位-（春学期登録単位）	44単位
2	22単位+通年集中講義単位	44単位-（春学期登録単位）	44単位
3	22単位+通年集中講義単位	44単位-（春学期登録単位）	44単位
4	22単位+通年集中講義単位	44単位-（春学期登録単位+卒業論文等单位(※)）	44単位

※「卒業論文等单位」とは、

各学部における「卒業論文」、「卒業研究」または「卒業レポート」の単位のことをいう。
（詳細については、p.49「各学部学科の卒業論文・卒業研究・卒業レポート」を参照）

履修登録上限単位数に含めないもの

以下のものは、履修登録上限単位数の計算から除外します。

- ・自由科目
- ・共通教養科目「キャリア実習」「キャリア実習（教職）1・2」
- ・「大学コンソーシアム京都」における単位互換授業の単位
- ・短期海外語学研修によって認定される単位
- ・本学通信教育課程での併修履修科目の単位

抽選希望登録

「抽選対象科目」は、所定の期間に、抽選希望登録が必要です。抽選結果は履修登録時に画面に表示されます。

抽選結果により、定員に余裕がある場合は、追加で先着順にて受付します。

再履修について

再履修とは、履修登録を行ったが、単位修得できなかった（不合格）科目を再度履修登録することです。

クラス指定のある科目については、「再履修」と指定されている科目を履修登録してください。「再履修」についての指定がない科目を再履修する場合は、任意の科目を履修登録してください。

ただし、履修登録上限が設定されている**第1学年においては、春学期に不合格となった必修外国語を秋学期に再履修することはできません。第2学年以降での再履修となりますので注意してください。**



注意！

第1学年における必修外国語の単位修得できなかった科目の再履修は、**第2学年以降**となります。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

履修登録状況の確認

オリエンテーション期間中の「Web履修科目登録エラー確認・修正」指定期間に、履修登録を行った科目が正しく登録されているか、またエラー表示の有無の確認が必要です。

「Web履修科目登録エラー確認・修正」指定期間以外での修正はできませんので、各自責任を持って手続きを行ってください。

エラーがない／履修科目の変更がない場合

履修登録を行った科目が正しく登録されている場合、履修登録の完了となります。

エラーがある／履修科目の変更がある場合

正しく登録されていない場合のエラーおよび登録間違いについては、オリエンテーション期間中の「Web履修科目登録エラー確認・修正」指定期間に登録修正が必要です。

履修登録の完了

履修登録および登録修正によって履修登録を確定すると履修登録の完了となり、授業へ出席することができます。

したがって、正しく履修登録が完了していないと授業へ出席、課題提出、定期試験を受験しても履修者としてみなされず、単位認定も行われません。

※正しく履修登録が完了しているのか、必ずB-netの学生時間割表より確認してください。

履修取消し制度

「授業内容が想定していたものと異なっていた」、「授業についていけないだけの知識が不足していた」など、そのままでは単位を修得することが難しいと判断した場合、履修取消し期間内であれば、履修登録を取消することができます。

ただし、履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、**必修科目および自由科目は原則として履修取消しできません**。また、履修取消しができない授業科目を一部設定します（GPA算出の対象外となる諸資格科目等）。なお、履修登録後に当該セメスターに休学の申し出があった場合は、原則として当該セメスターの授業は、履修取消し扱いとします。

履修取消しの申請手続き

申請期間： 授業開始より7週目終了後から原則5日間

申請方法： 学生支援課より、B-netにてお知らせします。

※通年集中講義等、通常の授業期間に授業が行われない科目については、開講初日の翌日の正午までに学生支援課へ申し出てください。

【注意事項】

履修取消し期間以外の申請は原則認めませんが、病気等のやむを得ない事由で、履修取消しの申請ができなかった場合や、「実習科目」「卒業論文」「卒業研究」「卒業レポート」は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがあります。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I
教育
目標II
履修
一般III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

授業時間

授業は以下の時間帯で行います。

講時	1	2	3	4	5	6
時間	9:00 } 10:30	10:40 } 12:10	12:50 } 14:20	14:30 } 16:00	16:10 } 17:40	17:50 } 19:20

集中講義・実習

B-netの「学生時間割表」にて示される「集中講義」「実習」は特定の曜日講時で実施されない科目です。以下のいずれかに該当します。

1. 通年集中講義科目 (S)

表記方法	科目名 + S
開講時期	通年 ※授業カレンダーに記載されている通年集中講義期間(9月上旬)で多くは開講される。ただし、科目によっては異なるので、シラバス等必ず確認すること。
履修登録時期	春学期科目の履修登録と同じタイミング ※1
単位認定時期	秋学期科目の単位認定と同じタイミング

※1「履修登録できる単位数の上限(p.33)」にある「通年集中講義単位」は、Sが付された科目を指します。

2. 個別の日程で行われる講義 (H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※一定の連続した期間や、不規則な日程で開講される。詳細な日程については、シラバスやB-netで通知されるので確認すること。
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

3. 遠隔授業 (H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※オンデマンド型の遠隔授業
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

4. 卒業論文/卒業研究/卒業レポート (H・A) ※対象学科のみ

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期
履修登録時期	4年生8セメスターで、各学期の履修登録と同じタイミング ※4年生ゼミとは別に履修登録が必要です。
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

休 講

本学または担当者（教員）にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがあります。休講になる科目については、B-netの「休補講・教室変更」にて連絡します。

休講掲示がなく、20分経過しても授業が行われない場合は、必ず学生支援課に連絡し、その指示にしたがってください。なお、**自動的に休講とはなりません。**

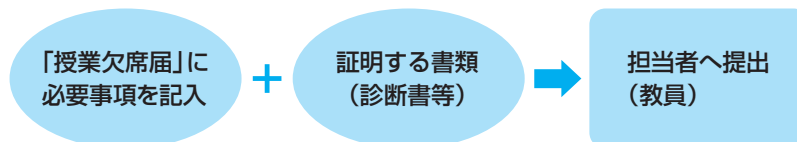
補 講

補講とは、休講により授業日数が不足する場合や授業が予定の範囲まで終了しなかった場合に、それを補うために行う授業です。実施する場合は、所定の補講日（授業カレンダー参照）に行い、詳細はB-netにてお知らせします。

授業欠席

病気または事故等により授業欠席した場合は、所定の「授業欠席届」（巻末にあるものを複写して使用、またはB-netよりダウンロードして印刷）に必要事項を記入し、欠席事由を証明する書類（診断書等）を添えて、担当者（教員）へ届け出てください。

なお、「授業欠席届」は公欠として取り扱われるものではありません。



※学校感染症罹患時の取扱い（p.44）をあわせて確認してください。

公 欠

公欠とは、カリキュラム上必要とされる実習等によって、やむを得ず授業を欠席しなければならない場合に適用されるものです。

しかし、公欠は出席としての扱いを保証されるものではありません。授業を欠席するという状況には変わりないので、**各自で担当者（教員）に授業欠席届を提出**のうえ、欠席した授業の振り返りを進めることはもちろん、担当者（教員）から課された学修にも必ず取り組みましょう。

下記に、該当する事由で期間中に授業を欠席する場合は、公欠として取り扱います。ただし、本学の当該免許・資格取得課程受講者に限ります。

介護等体験

教育実習

ソーシャルワーク実習

精神保健福祉援助実習

伝宗伝戒道場入行

図書館実習

博物館実習

保育実習

心理実習

社会教育実習

なお、インターンシップ・課外活動・就職活動・ボランティア等は、公欠として取り扱いません。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程



注意!

試験実施時間は、通常授業の時間と異なります。

試験の種類

定期試験

教室試験(筆記試験等)やレポート試験があります。

追試験

正当な事由で定期試験を受験できなかった場合、実施される試験です。

※定期試験に合格しなかった場合の救済措置として実施する試験ではありません。

※受験を希望する場合は、手続き等 (p.42) が必要です。

定期試験について

定期試験は、「シラバス」に定期試験(教室 or 課題)の記載がある授業においてセメスターごとに行われます。定期試験の実施方法には、教室試験(筆記試験等)、レポート試験があります。

また、定期試験の実施方法は定期試験期間の開始1ヶ月前頃に、時間割は開始1週間前頃にB-netにてお知らせします。

原則として、授業の曜日・講時と同一の曜日・時限で実施されますが、授業時間割とは異なる曜日・時限で実施される場合がありますので注意してください。

受験資格

次の事項に該当する場合は、受験資格がありません。

- 1 学生証または仮学生証を携帯していない場合
- 2 履修登録していない場合
- 3 科目の総授業日数の3分の1以上欠席した場合
- 4 学費未納の場合

教室試験

1. 定期試験時間

定期試験は、以下の時間帯に60分間で行います。

講時	1	2	3	4	5	6
時間	9:00 } 10:30	10:40 } 12:10	12:50 } 14:20	14:30 } 16:00	16:10 } 17:40	17:50 } 19:20



注意！

不正行為厳禁！

たった一つの不正行為でも、当該学期に履修登録した全ての科目が無効となる場合があります。

2. 受験上の注意

- 1 試験会場（教室）は当日、B-netで確認してください。
- 2 試験会場では必ず「学生証」を机上の通路側においてください。
携帯していない場合は、試験開始前に学生支援課で「仮学生証」の発行を受けてください。
ただし、「仮学生証」は発行日のみ有効（当日返却が必須）で、毎回手数料（300円 現金のみ）が必要です。
- 3 試験会場では、所持しているスマートフォン等通信機器の電源を切り、カバンの中に片付けてください。時計としての代用はできません。
- 4 試験開始後30分（30分00秒）以降退出することができます。
- 5 試験会場では、試験監督者の指示にしたがってください。
- 6 試験の遅刻は、20分（20分59秒）を経過すると、いかなる理由があっても入室できません。
- 7 次の場合は不正行為とみなし、学則により処分を行い当該学期に履修登録した科目の一部もしくは、全てがN評価（無効・評価対象外）となります。
 - a) 私語や態度について注意を与えても改めないとき。
 - b) 許可なくして物品や教科書・ノートを貸借したとき。
 - c) 許可された以外のものを参照したとき。
 - d) 身代わり受験をおこなったとき。または、おこなわせたとき。
 - e) その他、試験監督者の指示に直ちにしがわかないとき。

参照条件について

定期試験の受験に際して、自筆ノート、テキスト、参考文献等の持ち込み等が許可または指示される場合があります。それらについては「参照条件」として定期試験前に発表されます。

各々の注意点を下記のとおり認識しておく必要があります。万一、認識を誤ると不正行為とみなされるので充分注意してください。

「自筆ノート」とは？

- OK!** : 自分で書いたノートのことです。
- NG!** : 他人のノートをコピーしたもの、資料やコピーを貼り付けたノート、パソコン等で作成されたノート、または自分で書いたノートのコピー等も含め一切認められません。

「テキスト・参考文献」とは？

- OK!** : シラバスに記載されたもの（担当教員によって指定されたもの）。
- NG!** : シラバスに記載のないもの。
自身の判断による指定外のもの。

※参照条件の発表後、不明点がある場合は、試験実施までに直接担当教員に確認してください。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

レポート提出票は
卒業レポート提出時に
使用するもので、
B-net_履修関連_
レポート提出票より
ダウンロード
できます。

レポート試験

レポート試験の課題・提出期限等は定期試験期間の開始2週間前頃までにGoogle Classroom（以下、Classroom）に掲出されます。

レポート（卒業レポートのみ対象）の提出方法は①Classroomでの提出、②担当者（教員）に直接提出、③事務局に提出のいずれかとなります。出題時の指示に従い、期限内に提出してください。

Google Classroom とは

ClassroomはGoogle社のオンライン授業システムです。「Gmail」や「Googleドライブ」などと連携しており、課題の提出や質問といった機能を備えたツールです。佛教大学のアカウントでログインしてください。


B-net「お気に入り」からマニュアルをダウンロードできますので、事前に確認しておいてください。

事務局に提出の場合のレポート提出要領（卒業レポートのみ対象）


レポート提出先が事務局と指示されている場合、下記の要領にしたがってください。

- 1 特に指定のない場合は、A4版で作成する。
- 2 レポート提出票（上部）・受付票（下部）に必要な事項を記入する。
(黒色ペン書き)
- 3 提出票上部2カ所をホッチキス留めする。
- 4 各自でキリトリ線に沿って、上部・下部を切り離し、両方とも受付に提出する。
- 5 レポート提出時に、受付印を押印し、レポート受付票（本人控）を返却しますので、成績確定時まで保管する。

※ホッチキス、ハサミ、筆記具の貸し出しは一切しません。提出する際は、事前に提出可能な状態にしておいてください。


佛教大学レポート提出票


課 題			
科目名			
レポート№	担当者	先住	受付 印
所 属	学部 研究科	学科 専攻	
学籍番号	氏 名		

キリトリ  キリトリ

提出の際は、この受付票（本人控）を切り離してから、一緒に提出してください。受付印を押して返却します。

提出方法

1. ペンにて必要事項を記入する。
2. レポートと提出票（上部）をホッチキスでとめる。
3. キリトリ線に沿って、レポート表紙と受付票（下部）を切り離す。
4. レポート受付票は、成績が確定するまで大切に保管すること。


レポート受付票（本人控）

課 題			
科目名			
レポート№	担当者	先住	受付 印
所 属	学部 研究科	学科 専攻	
学籍番号	氏 名		

記入欄はすべてペン書（鉛筆記入では提出不可）

レポート作成に当たっては以下の内容を熟読すること。
 添字媒体・Webサイト等に公開された著作物を引用であることを明記せずに無断使用してはいけません。
 なお、盗用・剽窃行為（他人の著作や論文を盗んで、自分のものとして発表すること）が発覚した場合、学則により、処分（当該学期の全履修科目の成績が不合格または特に悪質な場合は学期に基づく懲戒）の対象となることがあります。処分対象は提供した者、および提供を受けた者双方となります。

レポート作成時の注意事項

レポート作成にあたって、活字媒体・Webサイト・生成AI等に公開された著作物を引用であることを明記せずに無断使用をしてはいけません。なお、盗用・剽窃行為（他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること）が発覚した場合、学則により、処分（当該学期の全履修科目の成績が不合格または特に悪質な場合は学則に基づく懲戒）の対象となることがあります。処分対象は提供した者、および提供を受けた者双方となります。

I
教育
目標II
履修
一般III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

追試験について

正当な事由で定期試験（対面試験）を受験できなかった場合、願い出により欠席の妥当性が承認された場合に限り、追試験を受験することができます。

なお、寝過ごし、交通機関への乗り遅れ、自転車・バイク等の故障等自己の責任による事由、および自己判断による自宅療養等により医師の診断書等がない場合は、追試験受験許可事由とはなりません。

また、受験資格は定期試験の受験資格に準じます。正当な事由と手続き方法は次のとおりです。

1. 追試験受験許可事由

事 由	添付する書類	受験許可対象期間
公欠に該当する 実習等	添付書類不要	実習期間および実習地への往復に要すると判断される期間
交通機関の遅延	当該の交通機関が発行した遅延証明書を添付	遅延した当日限り
病気又は傷病	安静加療を要し、登校不能な状態である旨を明記した医師の診断書を添付	診断書に記載された期間
忌引き	3親等までの親族に限る。死亡に関する証明書（会葬礼状等日時が明示されたもの）を添付	7日以内とする（3親等の場合は3日）。帰省等のための往復に要する期間を含む
自己の責任によらない不慮の事故または災害	公共機関が発行する事故証明書または罹災証明書を添付	必要として認める期間
進路に関する試験 ※任意参加のセミナー等は不可	就職先・進学先等の証明書（受験票の写し等日時が明示されたもの）を添付	必要として認める期間
その他	本学がやむを得ないと認める場合は、指定する証明書を添付	必要として認める期間

2. 手続き

- 1 欠席した当該科目試験終了後、指定された期日以内に、指定された方法（詳細は B-net にてお知らせ）にて必要事項を入力し、証明する書類（診断書等）を添えて、試験欠席届を申請してください。
- 2 学生支援課より指定された日時に受験の可否確認をしてください。
- 3 受験を許可され追試験を受験する場合は、受験手数料（1科目 500円）の納入が必要です。ただし、公欠もしくは、学校感染症罹患（p.44）による欠席（診断書提出必須）に該当する場合の受験手数料と手続き日の来校は不要です。
- 4 追試験日は「学年暦」により定められています。その日に受験できない場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失います。



注意!

警報は特別警報、
暴風警報が対象です。

交通機関の不通、特別警報もしくは暴風警報発令時における授業および定期試験の取り扱いは、次のとおりです。

休講および定期試験休止

次の1～3のいずれかの状況が発生した場合は、ただちに休講および定期試験の休止とします。

- 1 交通機関の不通の場合（aまたはbのいずれかの条件を満たす場合とします）
 - a) 京都市営バスと地下鉄が同時に全路線・全区間で不通
 - b) 下表の4交通機関（JR・阪急・京阪・近鉄）のうち、2交通機関の指定区間において、全てまたは一部が不通

交通機関	指定区間(路線)
J R ※JRの指定区間（5路線）において複数路線が不通となった場合でも、1交通機関とする。	京都～米原（琵琶湖線）
	京都～大阪（京都線）
	京都～堅田（湖西線）
	京都～奈良（奈良線）
	京都～園部（嵯峨野線）
阪 急	京都河原町～大阪梅田（京都線）
京 阪	出町柳～淀屋橋（京阪本線）
近 鉄	京都～奈良（京都線・奈良線）

- 2 京都府南部（南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれか）に特別警報もしくは暴風警報（大雨・洪水・大雪警報は対象外）が発表された場合
- 3 その他の状況において、休講および定期試験を休止することが適切であると学長が認めた場合

休講の解除および定期試験休止の解除

交通機関の運行再開および特別警報、暴風警報解除の場合は、下表のとおり取り扱います。

運行再開または警報解除の時刻	授業・定期試験の取り扱い
午前 6 時30分まで	1 講時から実施
午前10時00分まで	3 講時から実施
午前10時01分以降	終日休講 / 休止

その他の事項

- 1 授業中もしくは定期試験の実施中に、特別警報、暴風警報等が発表された場合は、その都度、警報の緊急性および交通機関の運行状況等を考慮の上、休講および定期試験の休止の実施時刻を指示します。
- 2 上記以外で、自身の居住地域に係る交通機関の不通および特別警報もしくは暴風警報等が発表された場合は自身の判断で安全確保に努め、欠席については、後日「授業欠席届」を担当者（教員）へ届け出てください。
- 3 「特別警報」が発表された場合、ただちに命を守る行動をとってください。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い

学校保健安全法施行規則第18条・19条に基づき、下表の学校感染症に罹患した場合は、医師の指示に従い静養に努めてください。

治癒後、医師の診断書等を学生支援課へ提出し受理された場合、公欠と同様の扱いと証明できる「欠席事由確認証（感染症）」が交付されます。

但し第3種、その他の感染症に関しては、医師より登校禁止を指示された場合に限りです。

分類	感染症の種類
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ、指定感染症
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日はしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎（はやり目）、急性出血性結膜炎、その他の感染症 [溶連菌感染症（しょうこう熱）、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑（りんご病）、ヘルパンギーナ（夏かぜ）、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症など]

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、第1種の感染症とみなす。

欠席の連絡方法について

静養を要する期間に出席できなかった授業

「授業欠席届」（p.37参照）に「欠席事由確認証（感染症）」、診断書等を添えて、当該の開講科目担当教員に提出してください。

静養を要する期間に出席できなかった試験（定期試験）

「試験欠席届」（p.42参照）に「欠席事由確認証（感染症）」、診断書等を添えて、学生支援課に提出し、追試験の手続きを行ってください（この場合追試験受験手数料と手続き日の来校は不要です）。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

**ポイント!****「成績証明書」**

大学が対外的に発行するもので、就職先または他の研究機関等への提出等に使用するものです。

成 績

成績評価は、シラバスに記載された成績評価の基準に基づいて行われます。評価は以下の通りです。

「成績証明書」には合格科目のみが記載され、評価はS、A、B、C、認定のみが記載されます。

なお、単位認定は学期末となります。

点数	成績通知書の表示	成績証明書の表示	評価の基準	判定
100~90	S	S	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている	合格
89~80	A	A	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている	
79~70	B	B	不十分な点があるが、到達目標を相応に達成している	
69~60	C	C	到達目標の最低限は満たしている	
59~0	D	表示されない	到達目標を達成できていない 単位を与えるためにはさらに学修が必要である	不合格
未受験	X		定期試験未受験、レポート試験未提出、などの場合	
評価対象外	N		評価対象外などの場合	
認定	認定	認定	※入学前に修得した単位が認定されたもの、および入学後に他大学等において修得したもの	合格
履修取消	—	表示されない		

成績の確認

成績は、次学期オリエンテーション1週間前を目途にB-netにて確認することができます（成績の開示日は、B-netにてお知らせします）。なお、春学期に履修登録を行う通年集中講義科目の成績確認は、秋学期の扱いとなります。

成績に関する調査申請（成績疑義）について

開示された成績について正当でないと考えられる場合、調査依頼を申請することができます。

申請について

申請期間・方法については、B-netにてお知らせします。

※注意事項※

申請によって**成績が変更されることを保証するものではありません。**

申請前には、自身に過失がないか、本当に成績に疑問があるのか以下の点などを十分に確認してください。

I
教育
目標II
履修
一般III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

佛教大学以外で
単位を修得
できる制度

申請に対して、よくある担当者からの回答

- ・ 授業に出席していない(全体の1/3以上欠席している)。
 - ・ 提出された課題が、ほとんど引用(書籍、インターネットからコピー&ペースト等)で作成されていた。
 - ・ 提出された課題が、他人のものを一部又は全て複写。
 - ・ 授業中に指示した課題が提出されていない。
 - ・ 試験の答案が授業中の指示事項に従っていない。
- 以上の点、十分留意してください。

単位互換制度の単位認定

(財)大学コンソーシアム京都「単位互換制度」において修得した単位は、8単位を上限として、共通教養科目の単位として認定します。

ただし、**第4学年次において修得した単位は、卒業所要単位として認定することはできません。**「単位互換制度」については、p.168を参照してください。

通信教育課程との併修履修による単位認定

「免許併修」の場合、通信教育課程で修得した単位は、通学課程の自由科目として認定します(卒業要件には算入できません)。認定の時期は学期末となります。

「免許併修」については、p.171を参照してください。

他の大学・短期大学で修得した単位の認定

他の大学・短期大学に在籍(卒業・中退不問)し、単位の修得がある場合、それらが本学の単位として認定される場合があります。

該当する学生は、以前に在籍していた大学・短期大学の成績証明書を取り寄せ、学生支援課まで申し出てください。

なお、単位の認定にともない、履修方法が通常と異なる場合があります。オリエンテーション中に所属学科および学生支援課の指導を必ず受けてください。

GPA 制度

GPA (Grade Point Average) 制度とは、科目ごとの成績評価からそれぞれのグレードポイント (GP) を求め、単位あたりの平均値を算出したものです。学期ごとおよび在籍期間中の通算のGPAを成績通知書、成績証明書に記載します。

このGPA制度の導入によって、学期ごとの学修成果と推移がより明確となり、さらに細やかな学習指導への活用と、学習意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的として導入しています。

本学の成績評価とグレードポイント (GP) との関係は次のとおりです。

点数	成績評価	GP
100~90	S	4
89~80	A	3
79~70	B	2
69~60	C	1
59~0	D	0
未受験	X	0
評価対象外	N	0
認定	認定	対象外
履修取消	—	対象外

GPA (Grade Point Average) の算出方法

履修した科目の成績評価を上記の GP に置き換え算出します。算出方法については次のとおりです。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{全学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{全学期の履修科目の総単位数}}$$

※計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

GPA 算出科目と算出除外科目について

履修登録したすべての科目をGPAの算出対象科目とします。ただし、次にあげる①から⑤に該当する場合、GPA 算出除外科目とします。

- ①履修取消しを申請した科目
- ②「履修科目表」の「GPA 対象」欄に「×」の記載がある科目
- ③自由科目（卒業要件対象外）
- ④入学及び編入学前、又は転学部転学科前に修得し、各学部学科で単位認定された科目
※転学部転学科した学生で卒業要件として成績移行した科目は算出対象科目となります
- ⑤他大学等で履修（単位互換協定に基づく授業科目含む）し、各学部学科で単位認定された科目

なお、GPA算出対象科目は不合格となった場合でも、算出対象となります。したがって、自らの履修（履修登録を含む）に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

学修ポートフォリオについて

本学では、学生一人ひとりが自らの学修を主体的に振り返り、今後の学びにつなげていくことを目的として、「学修ポートフォリオ」を活用しています。

学修ポートフォリオとは、授業科目の履修状況や学修成果、自己の振り返りなどを記録・蓄積し、自身の成長過程を可視化するための仕組みです。これにより、これまでの学びを整理し、自身の強みや課題を認識するとともに、今後の学修計画や進路を主体的に考えるようにすることができます。

また、学修ポートフォリオは、教員との面談や指導の際に活用し、一人ひとりの状況に応じた学修支援を行うための重要な資料となります。大学生活を通じて学修ポートフォリオを継続的に活用し、自己の成長を振り返りながら、充実した学びの実現に向けて活用してください。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

各学部学科の卒業論文・卒業研究・卒業レポート

卒業（学士の学位を取得）するためには、所属学科卒業所要単位の修得が必要です。

学科により「卒業論文」（6単位）または「卒業研究」・「卒業レポート」（4単位）の提出を必要とする場合や、所定科目の履修（単位修得）により「卒業論文」または「卒業研究」・「卒業レポート」を必要としない場合がありますので、各学部学科の詳細を十分に確認してください。

.....

「卒業論文」および「卒業研究」・「卒業レポート」作成についての詳細は、指導教員の指示を必ず受けてください。また各学部学科の詳細を確認してください。

〈各学部学科の一覧〉

学部	学科	卒業論文	卒業研究	卒業レポート	所定科目の履修
仏教学部	仏教学科	必修	—	—	—
文学部	日本文学科	選択可	選択可	—	—
	中国学科	選択可	選択可	—	—
	英米学科	必修	—	—	—
歴史学部	歴史学科	必修	—	—	—
	歴史文化学科	必修	—	—	—
教育学部	教育学科	必修	—	—	—
	幼児教育学科	必修	—	—	—
	臨床心理学科	必修	—	—	—
社会学部	現代社会学科	—	—	必修	—
	公共政策学科	—	—	必修	—
社会福祉学部	社会福祉学科	—	—	選択可	選択可

I 教育目標

II 履修一般

III 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV 規程

卒業所要単位と要件

本学が定める基準上、大学を卒業（学士の取得）するためには、4年以上在学し（休学期間を除く）、卒業要件に定められた合計124単位を修得しなければなりません。

卒業に必要な科目の系列区分は以下のようなイメージです。

共通教養科目	30 単位 まで	卒業所要 単位 124 単位 以上
専門科目	94 単位 以上	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学部基幹科目 ・学科基礎科目 ・学科専攻科目 ・関連科目（選択科目） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許や資格の 取得に関わる科目 ・関連科目（自由科目） 	卒業所要単位には 含まない

ただし、学科ごとに詳細が異なりますので、必ず自身の学科の卒業所要単位と要件を確認し、履修計画を立ててください。



注意!

卒業可否、成績に関する問い合わせは、窓口(対面)以外できません。本人、保証人に関わらず電話での問い合わせには、一切答えられません。

卒業所要単位充足者発表

卒業所要単位充足者発表は、各学部教授会で、卒業が認められた学生(卒業所要単位充足者)を発表します。

該当者は、卒業式において卒業証書・学位記が授与され、所定の学士の学位を取得することになります。

なお、取得予定の教育職員免許状・資格の単位が充足されていない場合であっても、卒業所要単位が充足した場合は、卒業となります。

卒業に係わる日程、手続きの詳細については、下表のとおりB-netにて発表します。

卒業する月	詳細のお知らせ時期(予定)
9月	6月中旬
3月	12月中旬



詳細のお知らせ(予定内容)

1. 発表日時

具体的な日時をB-netにてお知らせします。

2. 発表方法

B-netでの発表

※発表は、卒業単位充足者の学籍番号のみの表示とします。

3. 単位を充足した場合

- ・卒業証書授与式へ出席してください。
 - ※式典当日の欠席は、事前に窓口へ申し出てください。
 - ・「進路決定届」未提出者は、卒業証書授与式までに進路就職課へ提出が必要です。
 - ・教育職員免許状および資格課程においては、課程受講料の納入が必要です。
- 指定期間に納入できない場合は、教員免許状・資格証書を卒業日にお渡しできません。

4. 単位を充足しなかった場合

発表時に別途指定する会場にて説明を受けてください。

※再試験が許可され、受験を希望する場合は次頁を確認してください。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程



注意！

指導日時については、
B-net でお知らせします。
再試験を受験するため
は、手続きが必要です！

再試験（卒業）

再試験とは、最終学年における3月または、9月卒業予定者で当該年度に履修登録した授業科目の内、4科目以内を合格すれば卒業の要件を充たす場合にのみ、学部教授会の議に基づき実施される試験です。ただし、次の各号に該当する科目は、再試験の対象となりません。

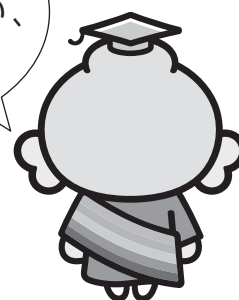
- (1) 卒業論文・卒業研究・卒業レポート
- (2) 定期試験を受験しなかった科目（評価：X）
- (3) 出席不良等により評価対象外となった科目（評価：N）

なお、該当者への通知は行いません。卒業所要単位充足者発表時に各自指導を受け、所定の手続きを行ってください。手続きには1科目5,000円を受験手数料が必要となります。

また、所定の手続きを行わない場合、再試験を受験しなかった場合は、いかなる理由においても当該科目の受験資格を失い、不合格となり、卒業することができません。

再試験の可否発表は、B-netにてお知らせします。また、電話、メール等でのお問い合わせにも答えられませんので、この時期の帰省、旅行、合宿等の日程調整には十分留意してください。

再試験を受け
なくても良い、
学修計画を！



Ⅲ. 教育課程

共通教養科目 P.55

専門科目 P.58

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」 P.168

短期海外語学研修 P.169

派遣留学・交換留学 P.170

通信教育課程との併修履修制度（「免許併修」） P.171

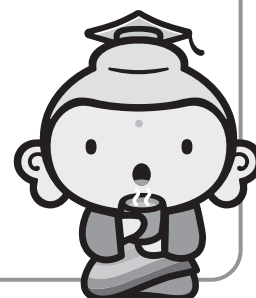




Ⅲ章を読んで、科目の特性などについて大事なポイントを確認しましょう。

1. 卒業をするには、卒業所要単位を充足させる必要がある。
合計（ 単位）以上必要で、共通教養科目は（ 単位）まで卒業所要単位として含む。…各学科の卒業所要単位と要件頁参照
2. 「卒業論文」「卒業研究」「卒業レポート」は、大学生活における集大成です！
提出期限は（ ）をみて（ ）へ提出する。
…各学科の卒業論文・卒業研究・卒業レポート頁参照

MEMO



対象学部 仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部

外国語科目履修の注意点

【必修外国語】

「英語」または「中国語」または「韓国語」

「英語」・「中国語」・「韓国語」の中から1語種を選択し、指定された科目を8科目8単位修得すること。

※第1学年の春学期開始後での語種の変更は、第2学年以降のみ可能です。第1学年の秋学期に語種の変更はできません。

「日本語」（留学生のみ）

「日本語」を履修する場合は、指定された科目を8科目8単位修得すること。

必修外国語科目が不合格(単位未修得)となった場合の履修登録(再履修)

「英語」および「中国語」は、第2学年以降に任意（再履修）のクラスを登録すること。

「韓国語」は、オリエンテーション中の指示に従うこと。

「日本語」は、任意の開講科目を履修登録すること。

【選択外国語】

選択外国語の指定科目（文学部・歴史学部）

文学部および歴史学部は「必修外国語」とは別の1語種を選択し、選択した語種のうちそれぞれ以下のとおり科目を選択し2科目2単位修得すること。

「英語」	「中国語」	「韓国語」
「General English 1」 「General English 2」	「初級中国語 1」 「初級中国語 2」	「初級韓国語 1」 「初級韓国語 2」
「ドイツ語」	「フランス語」	「ベトナム語」
「初級ドイツ語 1」 「初級ドイツ語 2」	「初級フランス語 1」 「初級フランス語 2」	「初級ベトナム語 1」 「初級ベトナム語 2」

※上記の学部以外は、任意で選択履修すること。

対象学部 仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部

※各学科の専門科目の「卒業所要単位と要件」を併せて確認すること。

共通教養科目 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目の名称	単位数	必修/選択		履修開始 セメスター	GPA 対象	卒業所要単位		
			必修	選択			小計	中計	大計
仏教・自校教育科目群	ブッダと法然	2	必		1		2単位	2単位	
	佛敎大学の理念と歴史	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
必修 外国語	英語	IntensiveReading1	1		選	1	1語種から 8単位 ※「日本語」は 留学生のみ 履修可	小計を 満たし 8単位以上	※卒業所要単位 には30単位 までしか算入 できません
		IntensiveReading2	1		選	2			
		IntegratedCommunicationSkills1	1		選	1			
		IntegratedCommunicationSkills2	1		選	2			
		IntegratedCommunicationSkills3	1		選	3			
		IntegratedCommunicationSkills4	1		選	4			
		IntermediateReading1	1		選	3			
		IntermediateReading2	1		選	4			
	中国語	中国語1	1		選	1			
		中国語2	1		選	1			
		中国語3	1		選	2			
		中国語4	1		選	2			
		中国語5	1		選	3			
		中国語6	1		選	3			
		中国語7	1		選	4			
		中国語8	1		選	4			
	韓国語	韓国語1	1		選	1			
		韓国語2	1		選	1			
		韓国語3	1		選	2			
		韓国語4	1		選	2			
		韓国語5	1		選	3			
		韓国語6	1		選	3			
		韓国語7	1		選	4			
		韓国語8	1		選	4			
	日本語	日本語1	1		選	1			
		日本語2	1		選	1			
		日本語3	1		選	2			
		日本語4	1		選	2			
		日本語5	1		選	3			
		日本語6	1		選	3			
		日本語7	1		選	4			
		日本語8	1		選	4			
選択 外国語	英語	GeneralEnglish1	1		選	1	*0単位以上		
		GeneralEnglish2	1		選	1			
		CommunicationSeminar1	2		選	1			
		CommunicationSeminar2	2		選	1			
		EnglishLecture1	2		選	1			
		EnglishLecture2	2		選	1			
		初級英語会話1	1		選	1			
		初級英語会話2	1		選	1			
	Skill-building (TOEIC500) 1	1		選	1				
	Skill-building (TOEIC500) 2	1		選	1				
	Skill-building (TOEIC600) 1	1		選	1				
	Skill-building (TOEIC600) 2	1		選	1				
	中国語	初級中国語1	1		選	1			
		初級中国語2	1		選	1			
	韓国語	初級韓国語1	1		選	1			
		初級韓国語2	1		選	1			
ドイツ語	初級ドイツ語1	1		選	1				
	初級ドイツ語2	1		選	1				
	中級ドイツ語	1		選	1				
	初級フランス語1	1		選	1				
フランス語	初級フランス語2	1		選	1				
	中級フランス語	1		選	1				
ベトナム語	初級ベトナム語1	1		選	1				
	初級ベトナム語2	1		選	1				
国際教養	異文化への扉 —多文化共生のための外国語—	2		選	1				
	地球人になろう —グローバルバリエーションと文化—	2		選	1				
	英語圏の暮らし	2		選	1				
	アジアの暮らし	2		選	1				
	日本事情	2		選	1				

※文学部および歴史学部は「必修外国語」とは別の1語種を選択し、選択した語種のうちそれぞれ以下のとおり履修すること。
 ※「英語」選択者は「General English 1・2」の2科目2単位を履修すること。
 「中国語」選択者は「初級中国語 1・2」の2科目2単位を履修すること。
 「韓国語」選択者は「初級韓国語 1・2」の2科目2単位を履修すること。
 「ドイツ語」選択者は「初級ドイツ語 1・2」の2科目2単位を履修すること。
 「フランス語」選択者は「初級フランス語1・2」の2科目2単位を履修すること。
 「ベトナム語」選択者は「初級ベトナム語1・2」の2科目2単位を履修すること。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

共通教養科目 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目の名称	単位数	必修/選択		履修開始 セメスター	GPA 対象	卒業所要単位			
			必修	選択			小計	中計	大計	
グローバル科目群	海外研修	海外語学研修 (英語) A	2		選	1	×	0単位以上	0単位以上	
		海外語学研修 (英語) B	2		選	1	×			
		海外語学研修 (英語) C	2		選	1	×			
		海外語学研修 (英語) D	2		選	1	×			
		海外語学研修 (英語) E	2		選	1	×			
		海外語学研修 (英語) F	1		選	1	×			
		海外語学研修 (英語) G	1		選	1	×			
		海外語学研修 (中国語) A	2		選	1	×			
		海外語学研修 (中国語) B	2		選	1	×			
		海外語学研修 (中国語) C	2		選	1	×			
		海外語学研修 (中国語) D	1		選	1	×			
		海外語学研修 (中国語) E	1		選	1	×			
		海外語学研修 (韓国語) A	2		選	1	×			
		海外語学研修 (韓国語) B	2		選	1	×			
		海外語学研修 (韓国語) C	2		選	1	×			
		海外語学研修 (韓国語) D	1		選	1	×			
		海外語学研修 (韓国語) E	1		選	1	×			
		海外語学研修 (ベトナム語) A	2		選	1	×			
		海外語学研修 (ベトナム語) B	2		選	1	×			
		海外語学研修 (ベトナム語) C	2		選	1	×			
海外語学研修 (ベトナム語) D	1		選	1	×					
海外語学研修 (ベトナム語) E	1		選	1	×					
データサイエンス科目群		ICTリテラシー	2	必		1		2単位	小計を 満たし 2単位以上	
		データサイエンスの基礎を学ぶ	2		選	2		0単位以上		
		データサイエンスの基礎を実践する	1		選	2				
		統計学の基礎を学ぶ	2		選	1				
		プログラミングを学ぶ	2		選	1				
スタディ・スキルズ	2	必		1						
初年次教育科目群		キャリア・スキルズ1	1	必		1		2単位	小計を 満たし 4単位以上	
		キャリア・スキルズ2	1	必		2		1単位		
		数学の基礎とその活用	2		選	1		0単位以上		
		生体の科学Ⅰ (生物・化学)	2		選	1				
		生体の科学Ⅱ (物理)	1		選	1				
マイファーストキャリア	2		選	1						
ライフ・キャリアデザイン	2		選	1						
キャリアスタディ科目群		キャリア形成とマネジメント	2		選	1		0単位以上	0単位以上	※卒業所要単位 には30単位 までしか算入 できません
		自己表現とコミュニケーション	2		選	3				
		職業世界を知る	2		選	3				
		キャリア実習	2		選	3				
		キャリア実習 (教職) 1	4		選	3				
		キャリア実習 (教職) 2	4		選	5				
		プロジェクト科目群		プロジェクトA	2		選			
プロジェクトB	2			選	3					
自己形成科目群	文化と芸術を学ぶ	日本の仏教芸術とその鑑賞	2		選	1		0単位以上	6単位以上	
		ことばと文学	2		選	1				
		仏教の人間観と死生観	2		選	1				
		東洋と西洋における思想・哲学・宗教	2		選	1				
		前近代の世界・日本	2		選	1				
		近現代の世界・日本	2		選	1				
		世界の民族文化	2		選	1				
		世界の中の日本文化・京都文化	2		選	1				
		日本国憲法	2		選	1				
		世界と日本の政治	2		選	1				
	地域と社会を学ぶ	くらしの中の経済	2		選	1		0単位以上		
		個人と社会の関係を考える	2		選	1				
		世界のニュースから見る日本	2		選	1				
		福祉と社会	2		選	1				
		情報・メディアと社会	2		選	1				
		教育事情を知る	2		選	1				
		文化の中から考える多文化共生	2		選	1				
		数学の言葉で世界を観る	2		選	1				
		宇宙を考える	2		選	1				
		生物の世界	2		選	1				
人間と自然を学ぶ	自然と地理	2		選	1		0単位以上			
	生命を考える	2		選	1					
	エコロジーを考える	2		選	1					
	心の世界を考える	2		選	1					
	人間の仕組みと活動	2		選	1					
	病と人間の歩み	2		選	1					
	スポーツ理論	1		選	1					
	スポーツ実技	1		選	1					
	大学コンソーシアム	2		選	1	×				

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

仏教学部 仏教学科

仏教学科の教育方針

人材養成の目的

仏教学科は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信したり、現代社会が抱える諸問題に対応することができる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 ブッタと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野について説明することができる
- D2 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用することができる
- D3 さまざまな言語で記述された資料を適切に読解して、問題解決に必要な情報を収集することができる
- D4 仏教史の概要を説明することができる
- D5 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができる
- D6 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用することができる
- D7 仏教の魅力を発信することができる

以上に示す仏教学部仏教学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

仏教学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

学科専攻科目には、ゼミ、共通、現代社会と仏教、仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系の各科目群を提供します。仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系は、自身が志向する研究領域に従って選択します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどの

ツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期、配当セメスターなどを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、フィールドワークなどを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①ブッダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野を説明できるようになるために、学部基幹科目を提供する
- ②仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用できるようになるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」「基礎ゼミ」を提供する
- ③さまざまな言語で記述された資料を適切に読解し、情報を収集できるようになるために、学科基礎科目の中に「古文入門」「古文上級」「漢文入門」「漢文上級」「サンスクリット語入門」「サンスクリット語上級」「パーリ語」「チベット語」を提供する
- ④仏教史の概要を説明できるようになるために、学科専攻科目の中に共通科目群を提供する
- ⑤収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができるようになるために、学科専攻科目および関連科目を提供する。学科専攻科目には、論理的に表現できるようになるためのゼミ科目群、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析できるようになるための仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系科目群、および関連科目を提供する
- ⑥卒業後の進路に応じた各種の免許状・資格を取得することができるよう関連科目を提供する
- ⑦現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用できるようになるため、学科専攻科目に現代社会と仏教科科目群、および関連科目を提供する
- ⑧仏教の魅力を発信することができるようになるために学科専攻科目に現代社会と仏教科科目群、および関連科目を提供する

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

仏教学科の教育内容

仏教学科では学問の領域と性格に応じて、①思想・歴史コース②芸術・文学コース③僧侶養成コースの3コースを設定し、以下に示すようなカリキュラムを設定しています。(僧侶養成コース以外は中途のコース変更が可能です。)

1年生

【共通教養科目】

建学の精神に基づく科目、人間力の基盤をなす教養やリテラシーに関する科目、語学に関する科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な語学力の獲得を目指します。

- ・ 建学の精神に基づく科目 「ブツダと法然」
- ・ 教養やリテラシーに関する科目 「自己形成科目群」
「データサイエンス科目群」
「初年次教育科目群」
- ・ 語学に関する科目 「必修外国語」(英語)

【専門科目(学部基幹科目)】

仏教および仏教に関連する領域を学ぶための基礎的知識を修得します。春学期開講の「ブツダの生涯と教え」「仏教学の基礎」は必修です。これらの科目で、仏教の開祖であるブツダの生涯と教え、および仏教を学ぶための基礎的知識を修得します。

秋学期開講の「法然の生涯と教え」は必修です。ブツダとならんで建学の理念に関わる、浄土宗の開祖である法然の生涯と思想について学びます。

コース別の望ましい選択科目は次のとおりです。

- 思想・歴史コース：「浄土学の基礎」
- 僧侶養成コース：「浄土学の基礎」
- 文学・芸術コース：「仏教文化学の基礎」

「浄土学」とは法然と浄土宗の教えの背景となる浄土教の思想のこと、「仏教文化」とは仏教の思想や信仰を背景とした文化現象全般のことで、それらについて学ぶための専門的知識を修得します。

【専門科目(学科基礎科目)】

「アカデミック・スキルズ」は必修です。大学での学びについて理解・修得します。「初年次教育科目群」とあわせ、4年間の学びの基礎をつくります。

仏教を研究するためには、仏典に使用されている諸言語が読解できなければなりません。仏教学科では5種類の言語について8科目を開講しています。それらのうち3科目6単位以上を履修する必要があります。

1年次に履修可能な言語は「古文」と「漢文」および「サンスクリット語」の入門・上級です。インドやチベットの仏教に興味がある人は、受講しておくべき科目です。「古文入門」では日本の古文について、「漢文入門」では漢文について、それぞれの基礎知識を修得します。「古文上級」「漢文上級」では、入門で修得した基礎知識を使って実際に資料を読解していく訓練をします。

【専門科目（学科専攻科目）】

学科専攻科目のうち歴史科目が履修可能です。

仏教はインド・中国・日本やチベット・東南アジア、朝鮮半島などアジアの諸地域に伝わり、それぞれ展開していきました。地域ごとの仏教の歴史についての基礎知識を修得します。単なる年表の暗記ではなく、各地域で起こった事象や活躍した人物など、自分の興味関心を発見する意志を持って受講する必要があります。

1年次に履修可能な科目は「インド」「中国」「日本」「チベット・東南アジア」の各仏教史と「宗教史」です。「日本」はとくに平安時代以前と鎌倉時代以降に分けられています。

2年生**【共通教養科目】**

人間力の基盤をなす教養やリテラシーに関する科目、語学に関する科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な語学力の獲得を目指します。

- ・教養やリテラシーに関する科目 「自己形成科目群」
- ・語学に関する科目 「必修外国語」（英語）

【専門科目（学部基幹科目）】

「仏教研究への道案内」は必修です。専任教員全員から、それぞれの研究領域についての紹介があります。自らの興味・関心を具体化していくための講義です。

「パーリ語」「チベット語」が履修可能となります。初期仏教や東南アジアの仏教について研究する場合は「パーリ語」を、チベット仏教や大乘仏教を研究する場合は「チベット語」を履修することを推奨します。

【専門科目（学科基礎科目）】

「基礎ゼミ」は必修です。仏教研究を進めていくために必要な研究技能を修得します。具体的には、辞典・目録・索引・年表・地図その他の種類と使用方法についての知識を修得します。また講義の終盤には、3年生以降で何を研究していくのかを問う調査を実施します。

【専門科目（学科専攻科目）】

全てのコース共通の選択科目として、「浄土教史」「浄土宗史」が履修可能となります。それぞれ朝鮮半島の仏教史、法然が浄土宗を開宗するまでの浄土教の歴史、浄土宗開宗以後の歴史についての基礎知識を修得します。とくに浄土宗教師（僧侶）資格取得を目指す人は「浄土教史」「浄土宗史」のうちいずれかの修得が必要です。

また研究科目と講読科目が履修可能となります。研究科目はそれぞれの領域に関する専門的な研究事例・動向についての講義、講読科目は履修した語学科目や研究科目をふまえ、各領域における典籍を実際に読解していく講義です。

3年生から履修可能となる演習科目も含め、各領域において研究・講読・演習がセットになっています。自分の興味・関心に沿った領域をセットで履修していくことを推奨します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

領域については、「インド仏教1（初期）」のように授業科目名の後ろの（ ）内に示す場合があります。

初期・部派	大乘仏教が成立するまでの仏教全般と、東南アジアに伝わった仏教
大乘・チベット	大乘仏教と、チベットに伝わった仏教
中国	中国仏教、朝鮮半島の仏教を含む
日本	日本仏教
仏教文化	仏教を背景とした、文学や異文化交流という文化現象について
仏教美術	仏教を背景とした、美術（絵画や彫刻）という文化現象について
浄土学	浄土教全般について
浄土宗学	法然を中心とした浄土宗の教えについて

【専門科目（関連科目）】

仏教に関わる周辺領域、「仏教哲学」や「伝統文化演習」などの科目が履修できます。

3年生

【共通教養科目】

基礎的な教養や専門科目を修得した上で、さらに教養やリテラシーに関する科目を履修し、幅広い教養の獲得を目指します。

・教養やリテラシーに関する科目 「自己形成科目群」

【専門科目（学科専攻科目）】

「予備ゼミ」は必修です。基礎ゼミで実施した調査に基づきクラス分けをします。漠然とした興味・関心を絞り込み、卒業論文のテーマとして具体化していきます。

すべての研究科目・講読科目に加え、発展研究、特別研究科目が履修可能となります。発展研究、特別研究科目とは、研究科目・講読科目で修得した知識を基盤にして、一定のテーマのもと受講生が一人ずつ卒業論文の作成と同様の作業（問題点の指摘、先行研究の収集と評価、資料の読解と考察、考察の結果と今後の課題の提示など）を行って、その結果を発表し、また発表に基づいて討論をする形式の授業です。

学科専攻科目はゼミと歴史科目を除き、領域ごとに研究・講読・発展研究、特別研究科目がセットになっています。自分の興味・関心に沿った領域をセットで履修していくことを推奨します。

自身が選択したコースの発展研究、特別研究科目については、4科目8単位以上が必須となります。

4年生

【共通教養科目】

基礎的な教養や専門科目を修得した上で、さらに教養やリテラシーに関する科目を履修し、幅広い教養の獲得を目指します。

・教養やリテラシーに関する科目 「自己形成科目群」

【専門科目（学科専攻科目）】

「卒論ゼミ」は必修です。「予備ゼミ」で具体化したテーマをもとに、指導教員（ゼミ教員）の指導を受けたり、ゼミでの発表と討論を通じて、「卒業論文」を作成していきます。

仏教学部では、卒業論文の提出と審査（口頭試問）の合格が、卒業要件となっています。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位						
	仏教・自校教育科目群						
	■必修科目の 2 単位			2 単位	小計を満たし 2 単位以上		
	・ブツと法然		2 単位				
	□任意で選択の科目			0 単位以上			
	グローバル科目群						
	■「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位						
	・IntensiveReading1				1 語種から 8 単位		
	・IntensiveReading2						
	・IntegratedCommunicationSkills1						
	・IntegratedCommunicationSkills2						
	・IntegratedCommunicationSkills3						
	・IntegratedCommunicationSkills4						
	・IntermediateReading1						
	・IntermediateReading2						
	・中国語 1				8 単位		
	・中国語 2						
	・中国語 3						
	・中国語 4						
	・中国語 5						
	・中国語 6						
	・中国語 7						
	・中国語 8						
・韓国語 1				8 単位			
・韓国語 2							
・韓国語 3							
・韓国語 4							
・韓国語 5							
・韓国語 6							
・韓国語 7							
・韓国語 8							
□「選択外国語」科目			0 単位以上	0 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
□「国際教養」科目			0 単位以上	0 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
□「海外研修」科目			0 単位以上	0 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
データサイエンス科目群							
■必修科目の 2 単位			2 単位	小計を満たし 2 単位以上			
・ICT リテラシー		2 単位					
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
初年次教育科目群							
■必修科目の 4 単位			4 単位	小計を満たし 4 単位以上			
・スタディ・スキルズ		2 単位					
・キャリア・スキルズ 1		1 単位					
・キャリア・スキルズ 2		1 単位					
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
キャリアスタディ科目群							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
プロジェクト科目群							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
自己形成科目群							
■文化と芸術を学ぶ			0 単位以上	6 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上				
■地域と社会を学ぶ			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
■人間と自然を学ぶ			0 単位以上	0 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上				
スポーツ							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
大学コンソーシアム							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
専門 科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基礎科目						
	■必修科目の 8 単位			8 単位	小計を満たし 94 単位以上		
	・ブツの生涯と教え		2 単位				
	・法然の生涯と教え		2 単位				
	・仏教研究への道案内		2 単位				
	・仏教学の基礎		2 単位				
	■任意で選択の科目			2 単位以上			
	学科基礎科目						
	■必修科目の 4 単位			4 単位	小計を満たし 94 単位以上		
	・アカデミック・スキルズ		2 単位				
	・基礎ゼミ		2 単位				
	■任意で選択の科目			6 単位以上			
	学科専攻科目						
■必修科目の 10 単位			10 単位	小計を満たし 94 単位以上			
I. 「現代社会と仏教」			2 単位	①または②から 2 単位以上を含む 4 単位以上			
選択科目			2 単位				
① 仏教文庫の歴史		2 単位					
② 仏教と文化財		2 単位					
■任意で選択の科目			2 単位以上				
II. 「仏教学系」、III. 「文化（思想・文学・美術）系」、IV. 「備前養成系」より選択したコース			1 8 単位以上				
III. 仏教学系			8 単位以上				
IV. 備前養成系			8 単位以上				
■任意で選択の科目			10 単位以上				
関連科目							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			

専門科目については次頁参照

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

系列区分	卒業所要単位修得に必要な要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目						
	■必修科目の 8 単位						
	・フツダの生涯と教え	2単位		8単位			
	・法然の生涯と教え	2単位					
	・仏教研究への道案内	2単位					
	・仏教学の基礎	2単位					
	■任意で選択の科目				2単位以上		
	学科基礎科目						
	■必修科目の 4 単位						
・アカデミック・スキルズ	2単位		4単位				
・基礎ゼミ	2単位						
■任意で選択の科目				6単位以上			
学科専攻科目							
■全てのコースにおいて履修が必要な 14 単位							
・予備ゼミ 1	2単位		14単位				
・予備ゼミ 2	2単位						
・卒論ゼミ 1	2単位						
・卒論ゼミ 2	2単位						
・卒業論文	6単位						
■学科専攻科目「共通」の選択科目を任意で選択				8単位以上			
I. 「現代社会と仏教」							
選択科目							
① 仏教文献の歴史	2単位		①または②から 2単位以上を含 み、4単位以上				
② 仏教と文化財	2単位						
■任意で選択の科目					2単位以上		
II. 「仏教学系」、III. 「文化（思想・文学・美術）系」、IV. 「僧侶養成系」より選択したコース							
II. 仏教学系	IIからIVの 選択した コースから		18単位以上				
III. 文化（思想・文学・美術）系	8単位以上						
IV. 僧侶養成系	8単位以上						
■任意で選択の科目					10単位以上		
関連科目							
□任意で選択の科目				0単位以上	0単位以上		
				小計を 満たし 64 単位 以上	小計・ 中計を 満たし 94 単位 以上	小計・ 中計・ 大計を 満たし 124 単位 以上	

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

仏教学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修 必修	選択 選択	自由別 自由	履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
学部 基幹科目	ブッダの生涯と教え	2	必			1		必修科目4科目8単位および選択科目のうち1科目2単位以上、合計5科目10単位以上を履修すること。
	法然の生涯と教え	2	必			2		
	仏教研究への道案内	2	必			3		
	仏教学の基礎	2	必			1		
	浄土学の基礎	2		選		2		
	仏教文化学の基礎	2		選		2		
学科 基礎科目	アカデミック・スキルズ	2	必			2		必修科目2科目4単位および選択科目のうち3科目6単位以上、合計5科目10単位以上を履修すること。
	基礎ゼミ	2	必			4		
	古文入門	2		選		1		
	古文上級	2		選		2		
	漢文入門	2		選		1		
	漢文上級	2		選		2		
	サンスクリット語入門	2		選		1		
	サンスクリット語上級	2		選		2		
	パーリ語	2		選		3		
	チベット語	2		選		4		
ゼミ	予備ゼミ1	2	必			5		必修科目5科目14単位を履修すること。
	予備ゼミ2	2	必			6		
	卒論ゼミ1	2	必			7		
	卒論ゼミ2	2	必			8		
	卒業論文	6	必			8		
共通	宗教史	2		選		1		4科目8単位以上を履修すること。
	日本仏教史 (古代・中世)	2		選		1		
	日本仏教史 (近世・近代)	2		選		2		
	中国仏教史	2		選		2		
	インド仏教史	2		選		1		
	アジア仏教史 (チベット)	2		選		2		
	アジア仏教史 (韓国)	2		選		2		
	浄土教史	2		選		3		
	浄土宗史	2		選		4		
	仏教文献の歴史	2		選		3		
現代 社会と 仏教	仏教と文化財	2		選		4		2科目4単位以上を履修すること。ただし、「仏教文献の歴史」と「仏教と文化財」から1科目2単位以上、履修すること。
	仏教フィールドワーク	2		選		3		
	仏蹟研修1 (国内)	2		選		1		
	仏蹟研修2 (海外)	2		選		1		
	仏教キャリア実習	2		選		3		
	仏教と社会貢献	2		選		3		
	プロジェクト研究	2		選		4		
	インド仏教1 (初期)	2		選		4		
	インド仏教2 (部派)	2		選		3		
	インド仏教3 (中観)	2		選		5		
インド仏教4 (唯識)	2		選		5			
中国仏教1 (訳経時代)	2		選		3		選択したコースから4科目8単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。	
中国仏教2 (隋唐時代)	2		選		4			
中国仏教発展研究	2		選		3			
日本仏教1 (古代・中世)	2		選		3			
日本仏教2 (近世・近代)	2		選		4			
日本仏教文化1 (古代・中世)	2		選		3			
日本仏教文化2 (近世・近代)	2		選		4			
日本仏教発展研究	2		選		5			
仏教美術1 (東アジア)	2		選		3			
仏教美術2 (日本)	2		選		4			
仏教特別研究	2		選		6			
仏教と文学	2		選		3			
文化 (思想・ 文学・ 美術) 系	浄土三部経研究1 (無量寿経)	2		選		3		浄土学系
	浄土三部経研究2 (観経・阿弥陀経)	2		選		4		
	浄土学1 (中国浄土教)	2		選		3		
	浄土宗学1 (中国浄土教)	2		選		4		
	選択集研究1	2		選		4		
	選択集研究2	2		選		5		
	法然門流研究	2		選		4		
	浄土学2 (日本浄土教)	2		選		4		
	浄土宗学2 (日本浄土教)	2		選		5		
	浄土学発展研究	2		選		5		
浄土宗学発展研究	2		選		6			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

仏教学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	哲学概論	2		選		2		
	仏教哲学 (インド)	2		選		3		
	仏教哲学 (中国・日本)	2		選		4		
	倫理学概論	2		選		1		
	宗教学概論	2		選		1		
	仏教と現代社会の諸問題	2		選		2		
	人権同和教育 (仏教と人権)	2		選		2		
	伝統文化演習 (茶道)	2		選		3		
	伝統文化演習 (華道)	2		選		3		
	伝統文化演習 (書道・悉曇)	2		選		4		
	伝統文化演習 (儀礼・音楽)	2		選		4		
	宗派仏教	2		選		4		
	開教概論1 (歴史と基礎知識)	2		選		3		
	開教概論2 (方法と実践)	2		選		4		
	開教英語	2		選		3		
	宗教法制	2		選		3		
	仏教福祉論	2		選		3		
	日本史概論	2		選		1		
	東洋史概論	2		選		1		
	西洋史概論	2		選		1		
	日本史特論	2		選		2		
	人文地理学1	2		選		3		
	人文地理学2	2		選		4		
	自然地理学1	2		選		3		
	自然地理学2	2		選		4		
	地誌学1	2		選		3		
	地誌学2	2		選		4		
	法律学概論1	2		選		1		
	法律学概論2	2		選		2		
	国際政治学	2		選		1		
	法式実習1	1			自	1	×	自由科目で修得した単位は卒業所要単位には算入できません。
	法式実習2	1			自	2	×	
	法務実習 (初級) 1	2			自	1	×	
	法務実習 (初級) 2	2			自	2	×	
	日常勤行式の解説	2			自	1	×	
	伝道学1 (念仏講話)	2			自	3	×	
伝道学2	2			自	4	×		
詠唱1	1			自	3	×		
詠唱2	1			自	3	×		
伝書1	2			自	4	×		
伝書2	2			自	5	×		
円頓戒1	2			自	4	×		
円頓戒2	2			自	5	×		
法務実習 (中級) 1	1			自	4	×		
法務実習 (中級) 2	1			自	4	×		
法務実習 (上級) 1	1			自	6	×		
法務実習 (上級) 2	1			自	6	×		
法務実習 (特級)	1			自	7	×		

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

仏教学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒論ゼミ1」の履修登録ができません。
- ・第4学年第8セメスターの履修登録時に「卒論ゼミ1」の単位を修得済みでない「卒業論文」の履修登録ができません。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
仏教学科	横書き	400字詰 原稿用紙	40枚程度	A4判縦 (左綴じ)	14枚程度 1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	400字詰 原稿用紙	40枚程度	A4判横 (上綴じ)	14枚程度 1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

- ・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作成】・正本と副本の2部作成が必要です。

〈正本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。

2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。

〈副本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。

2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

- ・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。

・正本は卒業式当日に返却します。

文学部 日本文学科

日本文学科の教育方針

人材養成の目的

日本文学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、日本語学・日本語教育・文学に関する専門的な知識・教養、および書道文化に関する専門的な知識・技能を備えた人材を養成するとともに、日本文学・日本文化に対する理解に基づき、広く社会に貢献でき、また日本の文化と異文化を相対的に把握し、国際社会の中で協調性を保ちつつ活躍できる人材の養成を目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 日本語学・日本語教育・文学についての専門的な知識・教養、あるいは書道文化についての専門的な知識・技術を社会の幅広い分野で役立てる力を備えている
- D2 日本以外も含めたさまざまな地域の歴史や文化と、文芸の関わりについて、知識と見識を備えている
- D3 口頭あるいは文章によって、適切な日本語を用い、的確に自己表現する力、他者の言葉を理解し、お互いを分かり合う力を備えている
- D4 身につけた専門知識を生かして主体的に問題の発見と解決を行い、その結果を社会に向けて発信することができる
- D5 日本の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D6 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（担当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供し、加えて、日本文学科独自のキャリア教育科目である「日文キャリアプログラム」を職業別五分野にわたって展開するなど特徴的な教育課程を編成しています。

<教育課程実施の方針>

- ①日本語学・日本語教育・文学および書道文化について、専門的な知識・教養・技術を社会に役立てる力を、各自の興味・関心に応じて体系的に修得するために、学科基礎科目の中に「日本文学初学び」等の科目を設ける
- ②公正な議論を通じて相互の立場を主張し合い、理解し合い、一致点を見出していくための姿勢と技能を実践的に養成するため、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」等の演習科目などを設ける
- ③日本の文化に対する高度な理解に基づき、異文化理解を含めた広い分野へと導く段階的な学修プログラムを提供する。日本以外も含めたさまざまな地域の歴史や文化と、文芸の関わりについて、実践的な活動を通じて理解する、学科専攻科目の中に「比較文学」「日本文学情報処理」「日本文学講読」等の科目を設ける
- ④専門的知識や教養を現代社会に有機的に接続させ、実践的な技能を磨くために、学科専攻科目の中に「専門ゼミ」、「卒業研究ゼミ」等のゼミ科目を設ける

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会に貢献することができるようにするため、「文献学入門（版本）」「文献学入門（写本）」「卒業研究ゼミ」等の多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、「日本文学講読」「日本語学講読」「書道文化作品研究」「日本語教授法」等の科目を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

日本文学科の教育内容

1年生

共通教養科目で建学の精神に基づく科目や、学力の基盤を養うためリテラシーに関する科目、語学関連科目等を受講し、幅広い教養の獲得を目指します。基礎学力を身につける「アカデミック・スキルズ」（秋学期）および「スタディ・スキルズ」は必修科目で、日本文学科で今後学んでいくための基礎的能力を養います。そのほか、「日本文学初学び」で日本文学科における専門領域に触れ、「文献学入門（版本）」「文献学入門（写本）」では、古典文学の原典に接触する喜びを感じるとともに、その意義を学習します。

2年生

専門分野ゼミでの履修を開始します。「日文実践演習1」「日文実践演習2」では、日本文学科での学習のためには不可欠な文献資料を精読するための基本的なスキルと能力を修得し、3年生以降、各専門ゼミで本格的な専門領域での研究を始めるための基盤を形成します。また、学科専攻科目での履修が本格化します。卒業までに40単位以上履修することにより、日本文学科での多様な専門領域に触れ、視野を広げます。

3年生

卒業論文（卒業研究）作成を視野に入れた上で、学生の関心に応じて「専門ゼミ」の履修が始まります。3年生では専門領域で研究論文を提出するために必要な課題を発見し、先行論文を蒐集し批判的に検討する能力を養います。また、卒業を視野に入れ、キャリア形成をはかるべく「キャリアプログラム」を受講します。更に、2年生に引き続き、日本文学科での多様な専門領域に触れ、専門知識を発展させます。

4年生

これまでに培ってきた論理的思考力、課題発見能力、幅広い教養、深い専門知識をもとに「卒業研究ゼミ」で教員から指導を受けながら、卒業論文（卒業研究）を仕上げます。また、研究成果を発表する経験を通じて、社会で活躍するために不可欠なプレゼンテーションやコミュニケーション能力を養成します。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位				
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計	
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位							
	仏教・自校教育科目群							
	■必修科目の 2 単位				2 単位		小計を満たし 2 単位以上	
	・ブツと法然			2 単位				
	□任意で選択の科目				0 単位以上			
	グローバル科目群							
	■「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位						小計を満たし 10 単位以上	
	・IntensiveReading1			8 単位		1 語種から 8 単位		
	・IntensiveReading2							
	・IntegratedCommunicationSkills1							
	・IntegratedCommunicationSkills2							
	・IntegratedCommunicationSkills3							
	・IntegratedCommunicationSkills4							
	・IntermediateReading1			8 単位				
	・IntermediateReading2							
	・中国語 1							
	・中国語 2							
	・中国語 3							
	・中国語 4							
	・中国語 5							
・中国語 6								
・中国語 7								
・中国語 8								
・韓国語 1			8 単位					
・韓国語 2								
・韓国語 3								
・韓国語 4								
・韓国語 5								
・韓国語 6								
・韓国語 7								
・韓国語 8								
□「選択外国語」科目 科目の選択については pp.55-56 を必ず参照のこと				1 語種から 2 単位	※ 必修外国語 とは別語種			
□任意で選択の科目			2 単位					
□「国際教養」科目				0 単位以上				
□任意で選択の科目				0 単位以上				
□「海外研修」科目				0 単位以上				
□任意で選択の科目				0 単位以上				
データサイエンス科目群								
■必修科目の 2 単位				2 単位		小計を満たし 2 単位以上		
・ICT リテラシー			2 単位					
□任意で選択の科目				0 単位以上				
初年次教育科目群								
■必修科目の 4 単位				4 単位		小計を満たし 4 単位以上		
・スタディ・スキルズ			2 単位					
・キャリア・スキルズ 1			1 単位					
・キャリア・スキルズ 2			1 単位					
□任意で選択の科目				0 単位以上				
キャリアスタディ科目群								
□任意で選択の科目				0 単位以上		0 単位以上		
プロジェクト科目群								
□任意で選択の科目				0 単位以上		0 単位以上		
自己形成科目群								
■文化と芸術を学ぶ				0 単位以上		6 単位以上		
□任意で選択の科目				0 単位以上				
■地域と社会を学ぶ				0 単位以上				
□任意で選択の科目				0 単位以上				
■人間と自然を学ぶ				0 単位以上				
□任意で選択の科目				0 単位以上				
スポーツ								
□任意で選択の科目				0 単位以上		0 単位以上		
大学コンソーシアム								
□任意で選択の科目				0 単位以上		0 単位以上		
専門 科目	専門科目より 34 単位以上							
	学部基礎科目							
	■選択科目から 2 単位				2 単位		小計を 満たし 6 単位 以上	
	・英語と英米文化			2 単位				
	■選択科目から 4 単位				4 単位 以上			
	・世界の言語と文化（朝鮮語）			2 単位				
	・世界の言語と文化（ベトナム語）			2 単位				
	・世界の言語と文化（フランス語）			2 単位				
	・世界の言語と文化（ドイツ語）			2 単位				
	学部基礎科目							
	■必修科目の 3 単位				3 単位		小計・ 中計を 満たし 124 単位 以上	
	学科学							
	■「日本文学演習 1」			2 単位		1 2 単位		
	・日本文学演習 2			2 単位				
	・専門ゼミ 1			2 単位				
・専門ゼミ 2			2 単位					
・卒業研究ゼミ 1			2 単位					
・卒業研究ゼミ 2			2 単位					
■「卒業論文」「卒業研究」のいずれか			6 単位	4 単位以上				
・卒業論文			6 単位					
・卒業研究			4 単位					
□任意で選択の科目				2 2 単位以上				
関連科目								
□任意で選択の科目				0 単位以上		0 単位以上		
専門科目については次頁参照								

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

共通教養科目

専門科目

小計・中計を満たし
30 単位
※卒業所要単位には 30 単位までしか算入できません。
科目は pp.56-57 参照

小計・中計・大計を満たし
124 単位以上

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目						
	■選択科目から 2 単位			2 単位	小計を 満たし 6 単位 以上	小計・ 中計を 満たし 94 単位 以上	小計・ 中計・ 大計を 満たし 124 単位 以上
	・中国語と中国文化		2 単位				
	・英語と英米文化		2 単位				
	■選択科目から 4 単位			4 単位 以上			
	・世界の言語と文化 (朝鮮語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (ベトナム語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (フランス語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (ドイツ語)		2 単位				
学科基礎科目			8 単位				
■必修科目の 8 単位			8 単位				
・アカデミック・スキルズ		2 単位					
・日本文学初学び		2 単位					
・文献学入門 (版本)		2 単位					
・文献学入門 (写本)		2 単位					
■任意で選択の科目			10 単位以上				
学科専攻科目			12 単位				
■必修科目の 12 単位			12 単位				
・日文実践演習 1		2 単位					
・日文実践演習 2		2 単位					
・専門ゼミ 1		2 単位					
・専門ゼミ 2		2 単位					
・卒業研究ゼミ 1		2 単位					
・卒業研究ゼミ 2		2 単位					
■「卒業論文」「卒業研究」のいずれか			4 単位以上				
・卒業論文		6 単位					
・卒業研究		4 単位					
■任意で選択の科目			22 単位以上				
関連科目			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

日本文学科 履修科目表 (1/2)

系列区分		授業科目	単位	必修・選択・自由別	履修開始	GPA	備考		
				必修 選択 自由	セメスター	対象			
学部 基幹科目	A群	中国語と中国文化	2	選	1		「中国語と中国文化」または「英語と英米文化」のいずれか1科目2単位および「世界の言語と文化（朝鮮語）」・「世界の言語と文化（ベトナム語）」・「世界の言語と文化（フランス語）」・「世界の言語と文化（ドイツ語）」のうち2科目4単位以上、合計3科目6単位以上を履修すること。		
		英語と英米文化	2	選	1				
	B群	世界の言語と文化（朝鮮語）	2	選	1		必修科目4科目8単位および選択科目のうち5科目10単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。		
		世界の言語と文化（ベトナム語）	2	選	1				
		世界の言語と文化（フランス語）	2	選	1				
		世界の言語と文化（ドイツ語）	2	選	1				
学 科 基 礎 科 目		アカデミック・スキルズ	2	必	2		必修科目4科目8単位および選択科目のうち5科目10単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。		
		漢文基礎	2	選	3				
		書道1	2	選	1				
		書道2	2	選	2				
		日本文学概論1	2	選	1				
		日本文学概論2	2	選	2				
		日本文学史1	2	選	3				
		日本文学史2	2	選	4				
		日本語学概論1	2	選	3				
		日本語学概論2	2	選	4				
		京都と文学（古典）	2	選	1				
		京都と文学（近・現代）	2	選	2				
		日本文学初学び	2	必	1				
		文献学入門（版本）	2	必	1				
		文献学入門（写本）	2	必	2				
		文学概論1	2	選	3				
		文学概論2	2	選	4				
		古典文法1	2	選	1				
		古典文法2	2	選	2				
		中国書道史	2	選	3				
		日本書道史	2	選	4				
		書道文化入門	2	選	1				
		ことばと表現（古典）	2	選	1				
		ことばと表現（近・現代）	2	選	2				
	専 門 科 目	共通	漢文学1	2	選	3			必修科目6科目12単位および卒業論文または卒業研究のいずれかを選択したうえで、卒業論文選択者は選択科目のうち11科目22単位以上、卒業研究選択者は選択科目のうち12科目24単位以上、合計40単位以上を履修すること。
			漢文学2	2	選	4			
			日文実践演習1	2	必	3			
日文実践演習2			2	必	4				
専門ゼミ1			2	必	5				
専門ゼミ2			2	必	6				
卒業研究ゼミ1			2	必	7				
卒業研究ゼミ2			2	必	8				
卒業論文			6	選	8				
卒業研究			4	選	8				
日本文学情報処理			2	選	2				
比較文学			2	選	3				
学 科 専 攻 科 目			日 本 文 学 系	日本文学講読（上代）	2	選	2		
				日本文学講読（中古）	2	選	2		
				日本文学講読（中世）	2	選	2		
	日本文学講読（近世）	2		選	2				
	日本文学講読（近・現代）	2		選	2				
	日本文学作品研究（上代）	2		選	2				
	日本文学作品研究（中古）	2		選	2				
	日本文学作品研究（中世）	2		選	2				
	日本文学作品研究（近世）	2		選	2				
	日本文学作品研究（近・現代）	2		選	2				
	日本文学特講（上代）	2		選	3				
	日本文学特講（中古）	2		選	3				
	日本文学特講（中世）	2		選	3				
	日本文学特講（近世）	2		選	3				
	日本文学特講（近・現代）	2		選	3				
	日本文学特殊研究（上代）	2		選	3				
	日本文学特殊研究（中古）	2		選	3				
	日本文学特殊研究（中世）	2		選	3				
日本文学特殊研究（近世）	2	選	3						
日本文学特殊研究（近・現代）	2	選	3						
日 本 語 学 系	日本語学講読	2	選	2					
	日本語学作品研究	2	選	2					
	日本語学特講	2	選	3					
	日本語学特殊研究	2	選	3					

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

日本文学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	書道文化系	書道文化作品研究	2	選		2		
		書道文化特講	2	選		3		
		書論	2	選		3		
	日本語教育系	日本語教育教材・教具法	2	選		3		
		日本語教授法1	2	選		3		
		日本語教授法2	2	選		4		
		日本語教育教壇実習1	1	選		5		
		日本語教育教壇実習2	1	選		6		
		日本語教育文法1	2	選		3		
		日本語教育文法2	2	選		4		
	関 連 科 目	言語学概論1	2	選		3		
		言語学概論2	2	選		4		
		書誌学	2	選		3		
		美術史1	2	選		3		
		美術史2	2	選		4		
		日文キャリアプログラム (国語科教員系)	2	選		5		
		日文キャリアプログラム (文芸創作系)	2	選		5		
		日文キャリアプログラム (書道創作系)	2	選		5		
	日文キャリアプログラム (日本語教員系)	2	選		5			
日文キャリアプログラム (出版情報系)	2	選		5				

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

日本文学科 卒業論文・卒業研究提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」または「卒業研究」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。

卒業論文・卒業研究題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式			
日本文学科	横書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判縦 (左綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字：10.5ポイント 余白(mm)：上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判横 (上綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字：10.5ポイント 余白(mm)：上30・下30・左30・右30 外字手書き可

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

〈正 本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。

〈副 本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の6単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。

・正本は卒業式当日に返却します。

卒業研究 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式			
日本文学科	横書き	400字詰 原稿用紙	30枚程度	A4判縦 (左綴じ)	10枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	400字詰 原稿用紙	30枚程度	A4判横 (上綴じ)	10枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した研究を指定表紙にてとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。

【提 出】・「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

卒業研究 口頭試問

提出された研究に対しては、主査(指導教員)による15分程度の口頭試問を行います。口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業研究の4単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、指導教員より直接お知らせします。

・正本は卒業式当日に返却します。

文学部 中国学科

中国学科の教育方針

人材養成の目的

中国学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、中国語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域に関わる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができる
- D2** 中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけている
- D3** 海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力を、国際交流の場において役立てることができる
- D4** 以下のうち、いずれか一つの力を身につけている
- ①コミュニケーション系を選択した場合は、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけている
 - ②文献読解系を選択した場合は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できる
- D5** 中国語圏以外も含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて、知識と見識を備えている
- D6** 中国語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D7** 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

中国学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義・聴読・閲読・演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

3年次からはコミュニケーション系、文献系、共通の3つの体系に分かれた科目群を提供します。コミュニケーション系では主に中国語ネイティブの教員から中国語の自然な発話を学ぶ科目を提供するほか、文献系では古典ないしは現代の文献から中国を体系的に理解できるような科目を提供します。

またコースに関係なく、2年次秋学期と3年次春学期には、吉林大学への中国語現地研修を行い、HSK（漢語水平考試）を受ける機会を提供しています。

＜教育課程実施の方針＞

- ①専門領域の学修の基盤となる中国語能力を修得するために、学科基礎科目に「中国語入門」「中国語聴解」「中国語基礎演習」を提供する
- ②中国語に関する知識と中国の社会や文化に対する理解を有し、相互理解の立場に立ったコミュニケーションができるようになるために、「中国語概論」「中国思想史」「漢語聴説実践」を提供する
- ③中国語圏に関する幅広い知識をベースに、国際交流に関わるさまざまな問題に対処する能力を身につけるために、コミュニケーション系と文献系からなる二つの学修領域を設定する
- ④コミュニケーション系では、主として中国語の実践的運用能力の修得を目指し、中・上級程度の中国語運用能力と表現力を身につけるために、学科専攻科目に「漢語会話演習」「漢語表現法演習」を提供する
- ⑤文献系では、主として中国の言語、文学、思想、文化に対する理解力の修得を目指すために、学科専攻科目に「漢語現代文献演習」「漢語古典文献演習」を提供する
- ⑥文献系では設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証が記述できるように、学科専攻科目として「卒業研究ゼミ」および「卒業論文」「卒業研究」を提供する。コミュニケーション系では、中国語のプレゼンテーション能力の育成のために、学科専攻科目として「漢語表現法演習（演講）」および「卒業研究ゼミ」「卒業論文」「卒業研究」を提供する
- ⑦海外研修や留学の経験によって培われた自主性と異文化への理解力をつけるために、2年次秋学期と3年次春学期に吉林大学への中国語現地研修を行なうほか、HSK（漢語水平考試）を受ける機会を提供する

中国語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力をつけるために、学科基礎科目と学科専攻科目に「中国語現地研修」、関連科目に「異文化理解『中国』」「日中比較文化研究」を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ会同活動する意志と能力を養うために、各学年にゼミに対応する科目「入門ゼミ」「中国学科発展ゼミ」「卒業予備ゼミ」「卒業研究ゼミ」を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

中国学科の教育内容

1年生

共通教養科目より、建学の精神に基づく科目や、人間力の基盤を成すリテラシー関連の科目、(中国語以外の)語学系科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な語学力の獲得を目指します。それと同時に、中国学科で学ぶためには、中国語の基礎力と、中国語に関する知識とを身に付ける必要がありますので、「中国語1～6」(共通教養科目)、「中国語入門1・2」(学科基礎科目)、「中国語概論1・2」(学科基礎科目)などを履修します。また、中国の基本的事項について知り、アカデミックスキルを修得するための「入門ゼミ」、「アカデミック・スキルズ」(ともに学科基礎科目)や「スタディ・スキルズ」(共通教養科目)を受講し、専門分野を学ぶための4年間の基礎をつくります。なお、中国現地で中国語の実践力を養成し、実際の中国を経験するために設けられた語学研修制度が各種ありますが、そのうちの1つである「短期海外語学研修」には、第1年次より参加することが可能です(複数回参加することができます)。卒業までに一度はリアルな中国に身を置き、自らの中国語能力を伸ばす機会を持つことが学科の方針ですので、積極的に参加して下さい。

2年生

専門科目の履修が本格的に始まります。学修を進めながら、将来、コミュニケーション系に進むか、文献系(現代・古典)に進むか、考え始める必要があります。第1年次に引き続き(「中国語1～6」を履修した場合は)「中国語7・8」(共通教養科目、必修)や、様々な共通教養科目を履修しつつ、一方では学科基礎科目として、必修の「中国学科発展ゼミ」を受講し、中国語能力の基礎を固めると同時に、専門分野の研究を推進するための初歩的な力を身に付けます。その他、学科基礎科目(必修)には「中国語聴解1・2」「中国語基礎演習1・2」「中国思想史1・2」などがあります。学科基礎科目(選択)について言えば、「中国古典文学史1・2」、「中国現代文学史1・2」は、どちらかの組み合わせで1セットを履修せねばなりません。さらに、興味に応じて「漢語聴説実践」「現代名作導読」「古典名作導読」のうちの1科目以上を必ず履修してください。「中国文学研究基礎1・2」「中国思想研究基礎1・2」は、2科目4単位以上を履修する必要があります。その他、「中国

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

近現代史」「中国語作文」「HSK演習（基礎）」などの科目がありますので、自分の関心や必要性に応じて選択履修して下さい。なお、吉林大学への留学を希望する人は、2年生秋（第4セメスター）から「中国語現地研修A」に参加することができます（参加には条件があります）。

3年生

コミュニケーション系か、あるいは文献系（現代・古典）かを選び、学科専攻科目より選択して履修します。コミュニケーション系を選んだ人は「漢語会話演習（〇〇級）1・2」から3科目6単位、「漢語表現法演習（〇〇）1・2」から3科目6単位、合計6科目12単位以上を選択履修します。文献系を選んだ人は「漢語現代文献演習（〇〇）1・2」「漢語古典文献演習（〇〇）1・2」から6科目12単位以上を選択履修します。また、「高級漢語聴説」「高級漢語閲読（現代）」「高級漢語閲読（古典）」のうちの1科目以上を必ず履修してください。さらに全員「卒業予備ゼミ」（第6セメスター）を履修し、第4年次にコミュニケーション系か、あるいは文献系かの、いずれに所属するかを最終的に決定します（第5セメスターで実施する「中国語実力テスト」の結果によっては、希望する系の「卒業予備ゼミ」に所属できないことがあります）。その他、「中国語情報処理演習」「HSK演習（発展）」などの科目がありますので、自分の関心や必要性に応じて選択履修して下さい。なお、吉林大学への留学を希望する人は、3年生春（第5セメスター）に「中国語現地研修B」に参加することができます（参加には条件があります）。

4年生

コミュニケーション系、文献系ともに、これまでに培ってきた中国語運用能力、文献読解能力、幅広い教養、課題発見能力、論理的思考力等を基に、「卒業研究ゼミ1・2」で担当教員より指導を受けながら、「卒業研究」または「卒業論文」を執筆します。「卒業研究」「卒業論文」に優劣はありませんが、その取り組み方の方向性が異なりますので、いずれを選ぶかは、ゼミの指導教員とよく相談して決めてください。コミュニケーション系の人は、「卒業研究ゼミ1・2」で、自らの研究を進めると同時に、中国語運用能力、中国語プレゼンテーション能力を鍛え高めるという課題があります。文献系の人は、設定したテーマについて調査した結果をまとめ、これについて自らの解釈や論証を明確に記述できるようになることを目指します。なお、「卒業研究」を執筆する際の言語ですが、コミュニケーション系を選んだ人は中国語で書くのがルールです（中国語で400字詰原稿用紙10枚程度）。文献系を選んだ人は、日本語・中国語、どちらの言語で書いてもかまいません（日本語で400字詰原稿用紙30枚程度、または中国語で同用紙10枚程度）。コミュニケーション系、文献系、どちらの系でも「卒業論文」を選択した場合は、日本語で400字詰原稿用紙50枚程度を執筆します。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位						
	仏教・自校教育科目群						
	<input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・ブツタと法然			2単位	2単位		小計を満たし 2単位以上
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	グローバル科目群						
	<input checked="" type="checkbox"/> 「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位						
	・IntensiveReading1 ・IntensiveReading2 ・IntegratedCommunicationSkills1 ・IntegratedCommunicationSkills2 ・IntegratedCommunicationSkills3 ・IntegratedCommunicationSkills4 ・IntermediateReading1 ・IntermediateReading2			8単位			
	・中国語1 ・中国語2 ・中国語3 ・中国語4 ・中国語5 ・中国語6 ・中国語7 ・中国語8			8単位	1語種から 8単位		小計を満たし 10単位以上
	・韓国語1 ・韓国語2 ・韓国語3 ・韓国語4 ・韓国語5 ・韓国語6 ・韓国語7 ・韓国語8			8単位			
	<input type="checkbox"/> 「選択外国語」科目 科目の選択については pp.55-56 を必ず参照のこと				1語種から 2単位		
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目			2単位			
	<input type="checkbox"/> 「国際教養」科目				0単位以上		
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	<input type="checkbox"/> 「海外研修」科目				0単位以上		
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	※卒業所要 単位には 30単位ま でしか算 入できま せん。 科目は pp.56-57参照					小計・ 中計を 満たし 30単位	小計・ 中計・ 大計を 満たし 124単位 以上
	データサイエンス科目群						
	<input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・ICT リテラシー			2単位	2単位		小計を満たし 2単位以上
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	初年次教育科目群						
	<input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 4 単位 ・スタディ・スキルズ ・キャリア・スキルズ1 ・キャリア・スキルズ2			2単位 1単位 1単位	4単位		小計を満たし 4単位以上
	<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		
	キャリアスタディ科目群						
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
プロジェクト科目群							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
自己形成科目群							
<input checked="" type="checkbox"/> 文化と芸術を学ぶ							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域と社会を学ぶ							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
<input checked="" type="checkbox"/> 人間と自然を学ぶ							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
スポーツ							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
大学コンソーシアム							
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目				0単位以上		0単位以上	
専門 科目	専門科目については次頁参照						

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
 - 共通
 - 仏教
 - 日文
 - 中国
 - 英米
 - 歴史
 - 歴史文
 - 教育
 - 幼教
 - 臨床
 - 現社
 - 公共
 - 福祉
 - その他
- IV 規程

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目より 94 単位以上	学部基礎科目						
	■必修科目の 2 単位			2 単位			小計を 満たし 6 単位 以上
	・英語と英米文化	2 単位					
	■選択科目から 4 単位			4 単位 以上			
	・世界の言語と文化 (朝鮮語)	2 単位					
	・世界の言語と文化 (ベトナム語)	2 単位					
	・世界の言語と文化 (フランス語)	2 単位					
	・世界の言語と文化 (ドイツ語)	2 単位					
	学科基礎科目						
	■必修科目の 26 単位			26 単位			小計を 満たし 40 単位 以上
・入門ゼミ	2 単位						
・アカデミック・スキルズ	2 単位						
・中国語聴解 1	2 単位						
・中国語聴解 2	2 単位						
・中国語入門 1	2 単位						
・中国語入門 2	2 単位						
・中国語概論 1	2 単位						
・中国語概論 2	2 単位						
・中国語基礎演習 1	2 単位						
・中国語基礎演習 2	2 単位						
・中国思想史 1	2 単位						
・中国思想史 2	2 単位						
・中国学科発展ゼミ	2 単位						
■①または②の 4 単位			①または ②の4単位				
①の選択科目							
・中国古典文学史 1	2 単位						
・中国古典文学史 2	2 単位						
②の選択科目							
・中国現代文学史 1	2 単位						
・中国現代文学史 2	2 単位						
■選択科目から 2 単位			2 単位 以上				
・漢語聴説実践	2 単位						
・現代名作導読	2 単位						
・古典名作導読	2 単位						
■選択科目から 4 単位			4 単位 以上				
・中国文学研究基礎 1	2 単位						
・中国文学研究基礎 2	2 単位						
・中国思想研究基礎 1	2 単位						
・中国思想研究基礎 2	2 単位						
□任意で選択の科目			0 単位以上				
学科専攻科目							
①または②のいずれかの同系から 12 単位以上						小計・ 中計を 満たし 94 単位 以上	
①コミュニケーション系			6 単位 以上				
・漢語会話演習 (HSK 5 級) 1							
・漢語会話演習 (HSK 5 級) 2							
・漢語会話演習 (中検 2 級) 1							
・漢語会話演習 (中検 2 級) 2							
・漢語会話演習 (HSK 6 級) 1							
・漢語会話演習 (HSK 6 級) 2							
・漢語表現法演習 (演講) 1							
・漢語表現法演習 (演講) 2							
・漢語表現法演習 (聴力) 1							
・漢語表現法演習 (聴力) 2							
・漢語表現法演習 (会話) 1							
・漢語表現法演習 (会話) 2							
②文献系			12 単位 以上				
・漢語現代文献演習 (文学) 1							
・漢語現代文献演習 (文学) 2							
・漢語現代文献演習 (思想) 1							
・漢語現代文献演習 (思想) 2							
・漢語現代文献演習 (文化) 1							
・漢語現代文献演習 (文化) 2							
・漢語現代文献演習 (時事) 1							
・漢語現代文献演習 (時事) 2							
・漢語古典文献演習 (文学) 1							
・漢語古典文献演習 (文学) 2							
・漢語古典文献演習 (思想) 1							
・漢語古典文献演習 (思想) 2							
・漢語古典文献演習 (文化) 1							
・漢語古典文献演習 (文化) 2							
・漢語古典文献演習 (散文) 1							
・漢語古典文献演習 (散文) 2							
各系 (①・②) ともに履修が必要な選択科目							
■必修科目の 6 単位			6 単位				
・卒業予備ゼミ	2 単位						
・卒業研究ゼミ 1	2 単位						
・卒業研究ゼミ 2	2 単位						
■選択科目から 2 単位			2 単位 以上				
・高級漢語聴説	2 単位						
・高級漢語開読 (現代)	2 単位						
・高級漢語開読 (古典)	2 単位						
■選択科目から 4 単位以上			4 単位 以上				
・卒業論文	6 単位						
・卒業研究	4 単位						
□任意で選択の科目			0 単位以上				
関連科目							
□任意で選択の科目			0 単位以上			小計・ 中計・ 大計を 満たし 124 単位 以上	

I 教育目標

II 履修一般

III 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV 規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

規程

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

中国学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考	
			必修	選択	自由				
学部 基幹科目	A群	中国語と中国文化	2		選	1		必修科目1科目2単位および「世界の言語と文化(朝鮮語)」・「世界の言語と文化(ベトナム語)」・「世界の言語と文化(フランス語)」・「世界の言語と文化(ドイツ語)」のうち2科目4単位以上、合計3科目6単位以上を履修すること。 なお、「中国語と中国文化」は履修できない。 必修科目13科目26単位および以下を含み、合計40単位以上を履修すること。 ・「中国古典文学史1」と「中国古典文学史2」または「中国現代文学史1」と「中国現代文学史2」のいずれか2科目を1セットとして4単位を履修すること。 ・「漢語聴説実践」・「現代名作導読」・「古典名作導読」のうち1科目2単位以上を履修すること。 ・「中国文学研究基礎1・2」「中国思想研究基礎1・2」のうち2科目4単位以上を履修すること。	
		英語と英米文化	2	必		1			
		世界の言語と文化(朝鮮語)	2		選	1			
	B群	世界の言語と文化(ベトナム語)	2		選	1			
		世界の言語と文化(フランス語)	2		選	1			
		世界の言語と文化(ドイツ語)	2		選	1			
	学 科 基 礎 科 目	入門ゼミ	2	必			1		
		アカデミック・スキルズ	2	必			2		
		中国語聴解1	2	必			3		
		中国語聴解2	2	必			4		
		中国語入門1	2	必			1		
		中国語入門2	2	必			1		
		中国語概論1	2	必			2		
		中国語概論2	2	必			2		
		中国語基礎演習1	2	必			3		
		中国語基礎演習2	2	必			4		
		中国思想史1	2	必			3		
		中国思想史2	2	必			4		
		中国学科発展ゼミ	2	必			3		
		中国古典文学史1	2		選		3		
		中国古典文学史2	2		選		4		
		中国現代文学史1	2		選		3		
		中国現代文学史2	2		選		4		
		中国近現代史	2		選		3		
		漢語聴説実践	2		選		4		
		現代名作導読	2		選		4		
		古典名作導読	2		選		4		
		中国文学研究基礎1	2		選		3		
		中国文学研究基礎2	2		選		3		
	中国思想研究基礎1	2		選		4			
	中国思想研究基礎2	2		選		4			
	中国語作文	2		選		4			
	HSK演習(基礎)	2		選		4			
中国語現地研修A	2		選		4	×			
専 門 科 目	コミュニケーション系	A群	漢語会話演習(HSK5級)1	2		選	5	「コミュニケーション系」または「文献系」のいずれかを選択したうえで、以下のとおり履修すること。 ・「コミュニケーション系」選択者は漢語会話演習のうち3科目6単位、漢語表現法演習のうち3科目6単位、合計12単位以上および共通科目の必修科目3科目6単位、「高級漢語聴説」・「高級漢語聴説」・「高級漢語聴説(現代)」・「高級漢語聴説(古典)」のうち1科目2単位以上を含み、「卒業論文」または「卒業研究」を選択履修したうえで、合計26単位以上を履修すること。 ・「文献系」選択者は6科目12単位以上および共通科目の必修科目3科目6単位、「高級漢語聴説」・「高級漢語聴説(現代)」・「高級漢語聴説(古典)」のうち1科目2単位以上を含み、「卒業論文」または「卒業研究」を選択履修したうえで、合計26単位以上を履修すること。	
			漢語会話演習(HSK5級)2	2		選	5		
			漢語会話演習(中検2級)1	2		選	5		
			漢語会話演習(中検2級)2	2		選	5		
			漢語会話演習(HSK6級)1	2		選	5		
			漢語会話演習(HSK6級)2	2		選	5		
			漢語表現法演習(演講)1	2		選	7		
			漢語表現法演習(演講)2	2		選	8		
			漢語表現法演習(聴力)1	2		選	5		
			漢語表現法演習(聴力)2	2		選	5		
		漢語表現法演習(会話)1	2		選	5			
		漢語表現法演習(会話)2	2		選	5			
	文 献 系		漢語現代文献演習(文学)1	2		選	5		
			漢語現代文献演習(文学)2	2		選	5		
			漢語現代文献演習(思想)1	2		選	5		
			漢語現代文献演習(思想)2	2		選	5		
			漢語現代文献演習(文化)1	2		選	5		
			漢語現代文献演習(文化)2	2		選	5		
			漢語現代文献演習(時事)1	2		選	5		
			漢語現代文献演習(時事)2	2		選	5		
		漢語古典文献演習(文学)1	2		選	5			
		漢語古典文献演習(文学)2	2		選	5			
	漢語古典文献演習(思想)1	2		選	5				
	漢語古典文献演習(思想)2	2		選	5				
	漢語古典文献演習(文化)1	2		選	5				
	漢語古典文献演習(文化)2	2		選	5				
	漢語古典文献演習(散文)1	2		選	5				
	漢語古典文献演習(散文)2	2		選	5				

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 福祉
- その他
- IV 規程

中国学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
学科 専攻科目	共通	高級漢語聴説	2		選	5		
		高級漢語閲読 (現代)	2		選	5		
		高級漢語閲読 (古典)	2		選	5		
		中国語情報処理演習	2		選	6		
		HSK演習 (発展)	2		選	5		
		中国語現地研修B	2		選	5	×	
		卒業予備ゼミ	2	必		6		
		卒業研究ゼミ1	2	必		7		
		卒業研究ゼミ2	2	必		8		
		卒業論文	6		選	8		
		卒業研究	4		選	8		
		専 門 科 目	関 連 科 目	中国語学研究1	2		選	3
中国語学研究2	2				選	3		
異文化理解「中国」1	2				選	3		
異文化理解「中国」2	2				選	4		
日中比較文化研究1	2				選	3		
日中比較文化研究2	2				選	3		
中国文化研究1	2				選	3		
中国文化研究2	2				選	3		
東北アジア史	2				選	4		
東洋文化史	2				選	3		
西洋文化史	2				選	4		
東洋史特講 (古代) 1	2				選	3		
東洋史特講 (古代) 2	2				選	4		
東洋史特講 (中世・近世) 1	2				選	3		
東洋史特講 (中世・近世) 2	2				選	4		
東洋史特講 (近代・現代) 1	2				選	3		
東洋史特講 (近代・現代) 2	2				選	4		
書道1	2				選	1		
書道2	2				選	2		
漢文学1	2				選	3		
漢文学2	2				選	4		
漢文講読	2				選	2		
仏教と文学	2				選	3		
言語学概論1	2				選	3		
言語学概論2	2				選	4		
日本語学概論1	2				選	3		
日本語学概論2	2				選	4		
古典文法1	2				選	1		
古典文法2	2				選	2		
日本文学史1	2				選	3		
日本文学史2	2				選	4		
文学概論1	2				選	3		
文学概論2	2				選	4		
中国仏教史	2		選	2				
浄土教史	2		選	3				

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
 - 共通
 - 仏教
 - 日文
 - 中国
 - 英米
 - 歴史
 - 歴史文
 - 教育
 - 幼教
 - 臨床
 - 現社
 - 公共
 - 社福
 - その他
- IV 規程

中国学科 卒業論文・卒業研究提出までの手続き

履修登録

<コミュニケーション系>

第4学年第8セメスターにおいて「卒業研究」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。

<文献系>

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」または「卒業研究」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。

卒業論文・卒業研究題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き		ワープロ使用時の用紙書式		
中国学科	横書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判縦 (左綴じ)	20枚程度	1,050字(35字×30行)/1枚 文字:12ポイント 余白(mm):上30・下30・左40・右20 外字作成すること(手書き不可)
	縦書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判横 (上綴じ)	20枚程度	1,050字(35字×30行)/1枚 文字:12ポイント 余白(mm):上40・下20・左30・右30 外字作成すること(手書き不可)

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正 本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副 本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の6単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。

・正本は卒業式当日に返却します。

卒業研究 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き		ワープロ使用時の用紙書式		
中国学科	横書き (日本語)	400字詰 原稿用紙	30枚程度	A4判縦 (左綴じ)	12枚程度	1,050字(35字×30行)/1枚 文字:12ポイント 余白(mm):上30・下30・左40・右20 外字作成すること(手書き不可)
	縦書き (日本語)	400字詰 原稿用紙	30枚程度	A4判横 (上綴じ)	12枚程度	1,050字(35字×30行)/1枚 文字:12ポイント 余白(mm):上40・下20・左30・右30 外字作成すること(手書き不可)
	横書き (中国語)	400字詰 原稿用紙	10枚程度	A4判縦 (左綴じ)	4枚程度	1,050字(35字×30行)/1枚 文字:12ポイント 余白(mm):上30・下30・左40・右20 外字作成すること(手書き不可)

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した研究を指定表紙にてとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。

【提 出】・「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

卒業研究 口頭試問

提出された研究に対しては、主査(指導教員)による15分程度の口頭試問を行います。口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業研究の4単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、指導教員より直接お知らせします。

・正本は卒業式当日に返却します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

文学部 英米学科

英米学科の教育方針

人材養成の目的

英米学科は、大学および文学部の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、英語圏に関する文学、文化および言語に関連する領域に関わる知識を活用して、国際交流に携わるとともに、現代社会を取り巻く諸問題と向き合い、英語を使ってその解決に積極的に取り組むことのできる人材の養成を目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 国際社会において通用する英語の運用能力と、異文化に対する柔軟な理解力を備えている
- D2 英語圏の文化についての専門的な知識を有し、異なった文化を理解し受け入れる包容力を持ち、それらを応用して、問題を解決しようという前向きな姿勢を身につけている
- D3 英語と英語圏文化についての知識と理解力を諸外国とのさまざまな分野での交流に役立てることができる
- D4 文化、社会、歴史、政治などの最新の話題について、英語を使って自分の考えを表現することができる
- D5 文献検索の方法を熟知し、テキストの精緻な読解と分析を行い、そこから得られた独自の考えを英語によって表現できる
- D6 英語圏以外も含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて、知識と見識を備えている
- D7 英語圏の文化と異文化を相対的に把握でき、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を備えている
- D8 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力をもっている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

英米学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリ

キュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また、積み上げ学習が必要な科目に関しては、段階的な構成となっており、学科での学びの中心となる学科専攻科目は「英語文化系」と「英語コミュニケーション系」の二つの科目群に分かれており、学生のニーズに応えられるカリキュラムを提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①国際社会において通用する英語の運用能力と、異文化に対する柔軟な理解力を身につけるために、学科基礎科目の中に「English Conversation」「English Listening Skills」「English Writing」「英文法」を提供する
- ②英語圏の文化についての専門的な知識を有しさまざまな問題を解決できるようになるために、学科基礎科目の中に「英語文学論」「英語演習」を提供する
- ③英語と英語圏文化についての知識と理解力を諸外国とのさまざまな分野での交流に役立てることができるようになるために、学科基礎科目の中に「Advanced Conversation」を提供する
- ④文化、社会、歴史、政治などの最新の話題について、英語を使って自分の考えを表現する力を身につけるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」を、そして学科専攻科目の中に「Academic Reading」「Academic Writing」を提供する
- ⑤文献検索の方法を熟知し、テキストの精緻な読解と分析を行い、そこから得られた独自の考えを英語によって表現できるようになるために、学科専攻科目の中に「卒業研究予備ゼミ」「卒業研究ゼミ」「卒業論文」を提供する
- ⑥英語圏以外も含めたさまざまな地域の言語と文化の関わりについて知識と見識を身につけるために、学部基幹科目の中に「中国語と中国文化」を、学科基礎科目の中に「英語学概論」を提供する

英語圏の文化と異文化を相対的に把握し、国際社会の中で相互理解をすすめながら他者と協働し社会貢献する力を身につけるために学科専攻科目の中に「Study Abroad」を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、修得した多様な能力を統合し、他者と協働しつつ活動する意志と能力を身につけるために、学科専攻科目の中に「Study Abroad Project」を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③授業内のプレゼンテーション等による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

英米学科の教育内容

1年生

共通教養科目で建学の精神に基づく科目を履修しつつ、幅広く教養に触れて主体的に考察する力を身につけることを目指します。それと同時に英語力を向上させ、専門的な内容を受容しかつ発信するための基礎の定着が重視されます。英語力の面では、「English Writing」でアウトプットの能力を鍛え、ネイティブ・スピーカーの教員が担当する「English Conversation」では音声面の能力向上をはかります。こうして教養を身に付けつつ英語自体の基礎能力を底上げしていくことで、留学プログラムへの準備をしていきます。また「スタディ・スキルズ」や「アカデミック・スキルズ」を通じて、専門科目への接し方の基礎も学びます。このように英語力の基礎固めをしつつ、1年生の期間内にTOEFLなどの語学試験を受験します。その試験成績と学業成績などに加えて、留学先の希望調査を勘案して、留学先が決定されます。

2年生

1年生時と同じく、英作文やリスニングを通じて、留学に対応できる英語の基礎力向上に重きがおかれます。それと同時に、留学先で日本や京都の歴史や文化について説明できることを目指して、「Japanese Studies」や「Kyoto Studies」が学科専攻科目で開講されます。これら英語力の基礎固めと並行して、英語という言語自体について深く考えることができるように「英文法」や「英語演習」も学科基礎科目で提供されます。こうして第3セメスターまでに留学への準備をしたのち、いよいよ第4セメスターには実際に留学（次ページ参照）に行くこととなります。留学は、授業や毎日のやりとりで生の英語に触れるだけでなく、直に海外の生活習慣に親しむチャンスでもあります。これにより、血の通った英語力を鍛えることを目指します。また、留学延長を希望して、なおかつそれに合致した英語力や学力を有していると判定された場合には、第5セメスターまで留学することも可能です。

3年生

留学で培った英語力をさらに向上させつつ、英語圏の文化や文学ならびに英語学などについての専門的な内容を学んでいきます。英語力の面では、読み書きに関しては「Academic Reading」や「Academic Writing」を通じて、より高度でまとまりのある英文に対処できる能力を伸ばしていきます。また音声に関しては「Advanced Conversation」を通じて、より中身の濃い会話ができる力を涵養します。これと同時に専門性の面では、「Advanced Grammar」で英語そのものへのさらなる深い知識を身につけると同時に、「英語圏言語文化論」や

「英語文学研究」、またネイティブ・スピーカーの担当する「Academic Seminar (Advanced)」などで英語圏の文化や文学等についての専門性を高めます。第6セメスターでは「卒業研究予備ゼミ」が開講され、4年生での卒業論文作成に向けて、文献の読みこみや意見を発信する力に磨きをかけていきます。

4年生

これまでに培った英語力、論理的思考力、課題発見能力や教養の総決算として、卒業論文執筆に取り組みます。それに際して、「卒業研究ゼミ」で文献の精査の仕方やプレゼンテーション能力をさらに練磨し、アカデミック・ライティングの基礎を踏まえた卒業論文の完成を目指します。

英語研修（留学）について

英米学科では、第4セメスター（2年生秋学期）に、全員英語研修（現地留学もしくはオンライン）への参加が必修となります。これにより総合的な英語力の向上、実用的な英語運用力の習得、英語圏文化の実体験等を通して異文化理解を図ります。

【研修期間】 第4セメスター（2年生秋学期）

現地留学の場合：10週間から16週間の間

オンライン研修の場合：オリエンテーション等で別途案内します。

【研修先】 ①現地留学の場合、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、マルタにある本学が指定する大学もしくは大学附属英語学校。なお留学先は学内選考により決定（希望調査・英語力・面接・学業成績などによる）

②オンライン研修の場合、自宅で受講

【研修内容】 ①語学力に応じて附属英語学校の提供する英語クラスを受講

②留学先の指定する条件（TOEFLスコア等）を満たせば大学正規課程も受講可能

【単位認定】 上限16単位（事前事後学習を含む）

●留学の延長について

大学正規課程を受講する場合に限り、第5セメスター（3年生春学期）の留学延長も可能です

※参加費用を含め、詳細はオリエンテーション等で案内します。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位				
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計	
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位							
	仏教・自校教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・ブツと法然 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			2単位	2単位	小計を満たし 2単位以上		
	グローバル科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位 ・IntensiveReading1 ・IntensiveReading2 ・IntegratedCommunicationSkills1 ・IntegratedCommunicationSkills2 ・IntegratedCommunicationSkills3 ・IntegratedCommunicationSkills4 ・IntermediateReading1 ・IntermediateReading2 ・中国語1 ・中国語2 ・中国語3 ・中国語4 ・中国語5 ・中国語6 ・中国語7 ・中国語8 ・韓国語1 ・韓国語2 ・韓国語3 ・韓国語4 ・韓国語5 ・韓国語6 ・韓国語7 ・韓国語8			8単位	1語種から 8単位	小計を満たし 10単位以上		
	<input type="checkbox"/> 「選択外国語」科目 科目の選択については pp.55-56 を必ず参照のこと 1語種から <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 2単位 ※ 必修外国語とは別語種			2単位	2単位			
	<input type="checkbox"/> 「国際教養」科目 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	<input type="checkbox"/> 「海外研修」科目 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	データサイエンス科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・ICT リテラシー 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			2単位	2単位	小計を満たし 2単位以上		
	初年次教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 4 単位 ・スタディ・スキルズ 2単位 ・キャリア・スキルズ1 1単位 ・キャリア・スキルズ2 1単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			4単位	4単位	小計を満たし 4単位以上		
	キャリアスタディ科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	プロジェクト科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	自己形成科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 文化と芸術を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 地域と社会を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 人間と自然を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上	6単位以上		
	スポーツ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	大学コンソーシアム <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			0単位以上	0単位以上			
	専門 科目	専門科目より 34 単位以上						
		学部基幹科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・中国語と中国文化 2単位 <input checked="" type="checkbox"/> 選択科目から 4 単位 ・世界の言語と文化（朝鮮語） 2単位 ・世界の言語と文化（ベトナム語） 2単位 ・世界の言語と文化（フランス語） 2単位 ・世界の言語と文化（ドイツ語） 2単位			2単位	4単位以上	小計を 満たし 6 単位 以上	
		学部基礎科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 28 単位 ・アカデミック・スキルズ 2単位 ・English Conversation 1 1単位 ・English Conversation 2 1単位 ・English Conversation 3 1単位 ・English Conversation 4 1単位 ・English Listening Skills 1 1単位 ・English Listening Skills 2 1単位			28単位	28単位	小計を 満たし 34 単位 以上	
		・英語演習 1 2単位 ・英語演習 2 2単位 ・Advanced Conversation 1 2単位 ・Advanced Conversation 2 2単位			8単位	8単位		
		学部専攻科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 24 単位 ・Study Abroad 1 2単位 ・Study Abroad Project 1 2単位 ・Academic Reading 1 2単位 ・Academic Reading 2 2単位 ・Academic Writing 1 2単位 ・Academic Writing 2 2単位 ・卒業研究準備ゼミ 2単位 ・卒業研究ゼミ 1 2単位 ・卒業研究ゼミ 2 2単位 ・卒業論文 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 36単位以上			24単位	24単位	小計を 満たし 60 単位 以上	
		・小計・中計を満たし 30単位 ※卒業所要単位には 30単位までしか算入できません。 科目は pp.56-57参照						小計・中計・大計を満たし 124 単位以上
		<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; display: inline-block;"> 専門科目については次頁参照 </div>						

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目						
	■必修科目の 2 単位			2 単位	小計を 満たし 6 単位 以上		
	・中国語と中国文化		2 単位				
	■選択科目から 4 単位			4 単位 以上			
	・世界の言語と文化 (朝鮮語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (ベトナム語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (フランス語)		2 単位				
	・世界の言語と文化 (ドイツ語)		2 単位				
	学科基礎科目						
	■必修科目の 28 単位			28 単位	小計を 満たし 28 単位 以上		
	・アカデミック・スキルズ		2 単位				
	・English Conversation 1		1 単位				
	・English Conversation 2		1 単位				
	・English Conversation 3		1 単位				
・English Conversation 4		1 単位					
・English Listening Skills 1		1 単位					
・English Listening Skills 2		1 単位					
・English Listening Skills 3		1 単位					
・English Writing 1		1 単位					
・English Writing 2		1 単位					
・English Writing 3		1 単位					
・英語学概論		2 単位					
・英語文学論 1		2 単位					
・英語文学論 2		2 単位					
・英文法		2 単位					
・英語演習 1		2 単位					
・英語演習 2		2 単位					
・Advanced Conversation 1		2 単位					
・Advanced Conversation 2		2 単位					
学科専攻科目							
■必修科目の 24 単位			24 単位	小計を 満たし 60 単位 以上			
Study Abroad 1		2 単位					
Study Abroad Project 1		2 単位					
Academic Reading 1		2 単位					
Academic Reading 2		2 単位					
Academic Writing 1		2 単位					
Academic Writing 2		2 単位					
卒業研究予備ゼミ		2 単位					
卒業研究ゼミ 1		2 単位					
卒業研究ゼミ 2		2 単位					
卒業論文		6 単位					
■任意で選択の科目							36 単位以上

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

英米学科 履修科目表 (1/2)

系列区分		授業科目	単位	必修	選択	自由別	履修開始	GPA	備考			
				必修	選択	自由	セメスター	対象				
I 教育 目標	学部 基幹 科目	A群	中国語と中国文化	2	必		1		必修科目1科目2単位および「世界の言語と文化(朝鮮語)」・「世界の言語と文化(ベトナム語)」・「世界の言語と文化(フランス語)」・「世界の言語と文化(ドイツ語)」のうち2科目4単位以上、合計3科目6単位以上を履修すること。なお、「英語と英米文化」は履修できない。			
		英語と英米文化	2	選		1						
		B群	世界の言語と文化(朝鮮語)	2	選		1					
		世界の言語と文化(ベトナム語)	2	選		1						
		世界の言語と文化(フランス語)	2	選		1						
		世界の言語と文化(ドイツ語)	2	選		1						
	II 履修 一般	学 科 基 礎 目	アカデミック・スキルズ	2	必			2		19科目28単位を履修すること。		
			English Conversation 1	1	必			1				
			English Conversation 2	1	必			1				
			English Conversation 3	1	必			3				
			English Conversation 4	1	必			3				
			English Listening Skills 1	1	必			1				
			English Listening Skills 2	1	必			1				
			English Listening Skills 3	1	必			3				
			English Writing 1	1	必			1				
			English Writing 2	1	必			1				
			English Writing 3	1	必			3				
			英語学概論	2	必			1				
			英語文学論1	2	必			1				
英語文学論2			2	必			1					
英文法			2	必			3					
英語演習1			2	必			3					
英語演習2			2	必			3					
Advanced Conversation 1			2	必			5					
Advanced Conversation 2			2	必			5					
専 門 科 目		共 通	Study Abroad 1	2	必			3		必修科目10科目24単位および選択科目のうち36単位以上、合計60単位以上を履修すること。		
			Study Abroad Project 1	2	必			4				
			Academic Reading 1	2	必			5				
			Academic Reading 2	2	必			5				
			Academic Writing 1	2	必			5				
			Academic Writing 2	2	必			5				
			卒業研究予備ゼミ	2	必			6				
			卒業研究ゼミ1	2	必			7				
			卒業研究ゼミ2	2	必			8				
			卒業論文	6	必			8				
			III 教育 課程	英 語 文 化 系	言語学概論	2		選			3	
					英語学研究	2		選			3	
					英語文学研究1	2		選			3	
					英語文学研究2	2		選			3	
英語圏文化の理解	2				選		3					
英語圏言語文化論	2				選		5					
英語圏社会文化論	2				選		5					
西洋言語文化論	2				選		3					
西洋社会文化論	2				選		3					
IV 規 程	英 語 コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン 系	EAP (English for Academic Purposes) 1			2		選		1			
		EAP (English for Academic Purposes) 2			2		選		3			
		Kyoto Studies			2		選		3			
		Japanese Studies			2		選		3			
		フランス語コミュニケーション(初級)			2		選		3			
		フランス語コミュニケーション(中級)			2		選		3			
		Intensive English 1			1		選		4			
		Intensive English 2			1		選		4			
		Intensive English 3			1		選		4			
		Intensive English 4			1		選		4			
		Intensive Speaking 1	1		選		4					
		Intensive Speaking 2	1		選		4					
		Intensive Speaking 3	1		選		4					
		Intensive Speaking 4	1		選		4					
Intensive Listening 1	1		選		4							
Intensive Listening 2	1		選		4							
Intensive Writing 1	1		選		4							
Intensive Writing 2	1		選		4							
Academic Lecture 1	2		選		4							

英米学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン 系 英 語 教 職 系	Academic Lecture 2	2	選		4		
		Academic Lecture 3	2	選		4		
		Academic Lecture 4	2	選		4		
		Academic Lecture (Advanced) 1	2	選		5		
		Academic Lecture (Advanced) 2	2	選		5		
		Academic Lecture (Advanced) 3	2	選		5		
		Academic Lecture (Advanced) 4	2	選		5		
		Academic Seminar 1	2	選		4		
		Academic Seminar 2	2	選		4		
		Academic Seminar 3	2	選		4		
		Academic Seminar 4	2	選		4		
		Academic Seminar (Advanced) 1	2	選		5		
		Academic Seminar (Advanced) 2	2	選		5		
		Academic Seminar (Advanced) 3	2	選		5		
		Academic Seminar (Advanced) 4	2	選		5		
		Advanced TOEIC	2	選		5		
		Advanced TOEFL	2	選		5		
		Business Communication	2	選		5		
		通訳演習	2	選		5		
		Advanced Grammar	2	選		5		
		Media English	2	選		5		
		Study Abroad 2	2	選		5		
		Study Abroad Project 2	2	選		5		
		英語教育入門	2	選		1		
		英語科教職論	2	選		5		
		英語科教職演習	2	選		5		

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

英米学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

卒業予定セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
英米学科	横書き (英文)	不可	A4判縦 (左綴じ)	本文と注で 15枚かつ 4,500語 程度	60打×25行/1枚 文字:12ポイントの半角 フォントはTimes New Roman 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字作成すること(手書き不可)

- ・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入
- ・Chapterではなく、Sectionで構成することとし、Sectionごとの改ページはしない
- ・文献リスト、図表、言語分析用の資料、その他指導教員が除外すべきと判断する資料は、指定の枚数・語数には含めない

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正 本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副 本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

- ・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の6単位を修得することができません。

- ・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。
- ・正本は卒業式当日に返却します。

歴史学部 歴史学科

歴史学科の教育方針

人材養成の目的

歴史学科は、歴史学の学修を通じて、地域社会や国際社会の課題を理解し、その解決に向けて取り組むことができる人材を養成します。特に歴史の時間的・空間的多様性を重視した教育研究活動を通じて涵養した力により社会に貢献していくことを目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会とを支える広い教養を身につけている
- D2 文献史学の基礎的方法について理解している
- D3 歴史的な情報を文献史料に基づき分析、解釈できる
- D4 個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在を理解する
- D5 形成した歴史像を自らの言葉で論理的に表現できる
- D6 時間的空間的な多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
- D7 歴史事象に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および歴史学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

歴史学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。教育課程（カリキュラム）は、歴史学の専門性に即して学科専攻科目の一部を日本史、東洋史、西洋史の各領域に区分し、それぞれの領域の特性に即して編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（担当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、研修（フィールドワーク）などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①文献史学の基礎的な方法について理解し、歴史的な情報を文献史料に基づき分析、解釈できる力を段階的に養うため講読や演習を提供する
- ②個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在、および時間的空間的な多様性を理解することを目指して特講を提供する
- ③2年生以降の専門科目の履修は、日本史、東洋史、西洋史いずれかの領域の専門的な知識や技能の習得、進化を図るとともに、異なる領域の専攻科目を副専攻として学修することにより、多角的な視点からの理解を促す

幅広い教養と高度な能力の修得を目指して関連科目を提供します。専門的な学修内容を補完し、史資料や文献の高度な読解、分析方法を学ぶ科目のほか、実践的な力を養う関連科目として「フィールドワーク入門」「ワークショップ実習」、さまざまな文化に触れる関連科目として「日本史臨地研修」「外国史臨地研修」などを提供します。

関連科目において、京都の歴史や文化を集中的に学ぶ京都学プログラム（「京都学入門」「京都の暮らし」「京都の飲食文化」「京都の衣服」「京都の祭り」「京都学演習」）、GIS 学術士の資格認定を目指し、「地理情報学」「地理情報システム演習」など体系的で効果的な学修を目的にしたプログラム科目群を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ループリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

歴史学科の教育内容

歴史学科では、歴史の地域的な特性に応じて日本史・東洋史・西洋史の三つの領域を設定し、以下に示すようなカリキュラムを設定しています。

1年生

- 共通教養科目の履修を通じて、歴史に限らず社会人として必要な基礎的な教養（知識や考え方）および技能の習得に努めてください。なお、自己形成科目群には、文化と芸術を学ぶ科目、地域と社会を学ぶ科目、人間と自然を学ぶ科目があります。
- 初年次には歴史学科の学びの中核となる文献史学に関する基礎的知識の習得を目指す歴史学概論、日本史概論・日本史特論、東洋史概論・東洋史特論、西洋史概論・西洋史特論のほか、大学における学術的な作法や考え方を学ぶ「アカデミック・スキルズ」が設定されています。「スタディ・スキルズ」（共通教養科目）による実践的な学びとともに、大学での学修の基礎を養ってください。

2年生・3年生

- 2年次以降は、それぞれの領域の学びを中心とした専門的な学修が始まります。各学年に設定された「歴史学研究法ゼミ」（2年）、「発展研究ゼミ」（3年）により、学修内容の定着、実践的な力への深化を図りながら、専門的な学修を進めてください。

日本史領域：日本列島で展開した政治・社会・文化などの歴史や、その展開のなかで関わりのあった周辺地域と日本との関係の歴史について文献をもとに考えます。

東洋史領域：中国大陸や朝鮮半島における政治・社会・文化などの歴史や、日本も含めた東アジア諸国の関係・交流の歴史について文献をもとに考えます。

西洋史領域：ヨーロッパやアメリカにおける政治・社会・文化などの歴史や、大航海時代以降に西洋世界が影響を与えた地域との関係や交流の歴史について文献をもとに考えます。

- 自らが選択した領域（主専攻）について、文献史料を読解・分析する力を段階的に養うことを目的にした「講読」や「演習」、専門領域の知識や研究方法を学ぶ「特講」科目が設定されています。
- 「講読」は学修の内容に応じて基礎史料講読（西洋史領域選択者は西洋史基礎英語文献演習、または西洋史基礎演習）、史料講読（西洋史領域選択者は西洋史演習）からなり、史料の読解・分析にかかわる力を段階的に学びます。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

○多角的な視点を養うねらいから、異なる領域に関する最低限の知識や技能の習得を目指し、選択した領域以外の一つの領域（副専攻）についても、基礎史料講読（基礎英語文献演習）、「特講」科目を履修します。

より高度な学修を目指す方のために、発展科目を設定していますので、大学院への進学を検討する方やさらに学修を深めたい方は履修して下さい。

○幅広い教養と高度な能力の習得を目指し、自らの興味や関心に従い選択履修できる「関連科目」が設定されています。専門学修が進むなかで自らの学修の進展に応じて、あるいは卒業後のキャリアを見据えて高度で実践的な学修を進めて下さい。

4年生

○大学での学修の集大成として、「卒業研究ゼミ」での学修を中心にしながら、自らが設定した課題に取り組み「卒業論文」を執筆します。「卒業論文」は複数の教員による審査によって、学修の総括とともに学部および学科のディプロマ・ポリシーに記した諸事項の習得を確認します。

その他

○各学年で、自らの学修を振り返り、卒業後のキャリアを見据えることを目指したキャリア教育が設定されています。

○キャリアへの対応として、「教育職員免許状」、「博物館学芸員資格」、「図書館司書」、「学校図書館司書教諭」、「GIS学術士」などの免許・資格にかかわる科目が設定されています。履修には一定の基準が設けられていますので、専門科目の学修を確実に進めることが必要です。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目より 94 単位以上	学部基幹科目						
	■必修科目の 10 単位			10単位	小計を 満たし 12 単位 以上		
	・歴史学概論	2単位					
	・歴史文化概論	2単位					
	・日本史概論	2単位					
	・東洋史概論	2単位					
	・西洋史概論	2単位					
	■任意で選択の科目		2単位以上				
	学科基礎科目						
	■必修科目の 12 単位			12単位	小計を 満たし 20 単位 以上		
・アカデミック・スキルズ	2単位						
・歴史学研究法ゼミ 1	2単位						
・歴史学研究法ゼミ 2	2単位						
・日本史特論	2単位						
・東洋史特論	2単位						
・西洋史特論	2単位						
■任意で選択の科目		8単位以上					
学科専攻科目							
■全ての領域において履修が必要な 14 単位			14単位				
・発展研究ゼミ 1	2単位						
・発展研究ゼミ 2	2単位						
・卒業研究ゼミ 1	2単位						
・卒業研究ゼミ 2	2単位						
・卒業論文	6単位						
①日本史領域			4単位 以上				
・日本史基礎史料講読 (古代・中世)	2単位						
・日本史基礎史料講読 (近世)							
・日本史基礎史料講読 (近代・現代)							
・日本史史料講読 (古代・中世) 1							
・日本史史料講読 (古代・中世) 2							
・日本史史料講読 (近世) 1							
・日本史史料講読 (近世) 2							
・日本史史料講読 (近代・現代) 1							
・日本史史料講読 (近代・現代) 2							
・日本史特講 (古代・中世) 1							
・日本史特講 (古代・中世) 2							
・日本史特講 (近世) 1							
・日本史特講 (近世) 2							
・日本史特講 (近代・現代) 1							
・日本史特講 (近代・現代) 2							
・日本史特講 (宗教・文化) 1							
・日本史特講 (宗教・文化) 2							
②東洋史領域			4単位 以上				
・東洋史基礎史料講読	2単位						
・東洋史史料講読 (前近代) 1							
・東洋史史料講読 (前近代) 2							
・東洋史史料講読 (近現代) 1							
・東洋史史料講読 (近現代) 2							
・東洋史特講 (古代) 1							
・東洋史特講 (古代) 2							
・東洋史特講 (中世・近世) 1							
・東洋史特講 (中世・近世) 2							
・東洋史特講 (近代・現代) 1							
・東洋史特講 (近代・現代) 2							
③西洋史領域			4単位 以上				
西洋史基礎英語文獻演習	2単位						
西洋史基礎演習	以上						
西洋史演習 (前近代) 1							
西洋史演習 (前近代) 2							
西洋史演習 (近現代) 1							
西洋史演習 (近現代) 2							
西洋史特講 (前近代) 1							
西洋史特講 (前近代) 2							
西洋史特講 (近現代) 1							
西洋史特講 (近現代) 2							
西洋史特講 (エリア) 1							
西洋史特講 (エリア) 2							
■選択科目を任意で選択							
・選択した領域以外の「特講」	4単位以上						
□発展		0単位以上					
関連科目							
■任意で選択の科目		8単位以上		8単位以上			
				小計・ 中計を 満たし 94 単位 以上	小計・ 中計・ 大計を 満たし 124 単位 以上		

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

専門科目

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

歴史学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別	履修開始	GPA	備考	
			必修 選択 自由	セメスター	対象		
専門科目	学部基礎科目	歴史学概論	2 必	1		必修科目5科目10単位および選択科目のうち1科目2単位以上、合計6科目12単位以上を履修すること。	
		外国の歴史と文化	2 選	2			
		歴史学とコンピュータ	2 選	2			
		歴史文化概論	2 必	3			
		日本史概論	2 必	1			
		東洋史概論	2 必	1			
		西洋史概論	2 必	1			
	歴史地理学	2 選	2				
	学科基礎科目	アカデミック・スキルズ	2 必	2			必修科目6科目12単位および選択科目のうち4科目8単位以上、合計10科目20単位以上を履修すること。
		歴史学研究法ゼミ1	2 必	3			
		歴史学研究法ゼミ2	2 必	4			
		日本史特論	2 必	2			
		東洋史特論	2 必	2			
		西洋史特論	2 必	2			
		日本文化史	2 選	4			
		東洋文化史	2 選	3			
		西洋文化史	2 選	4			
		日本思想史	2 選	3			
		東洋思想史	2 選	4			
		西洋思想史	2 選	3			
		東北アジア史	2 選	4			
	社会経済史	2 選	3				
	交渉・交流史	2 選	4				
	専門科目	共通	発展研究ゼミ1	2 必	5		5科目14単位を履修すること。
			発展研究ゼミ2	2 必	6		
			卒業研究ゼミ1	2 必	7		
			卒業研究ゼミ2	2 必	8		
			卒業論文	6 必	8		
		日本史領域	日本史基礎史料講読 (古代・中世)	2 選	3	「日本史領域」・「東洋史領域」・「西洋史領域」のうち1領域を選択したうえで、以下のとおり履修すること。 ・「日本史領域」もしくは「東洋史領域」の選択者は、基礎史料講読1科目2単位以上、史料講読のうち2科目4単位以上、特講のうち2科目4単位以上および異なる領域の特講のうち2科目4単位以上を含み、合計10科目20単位以上を履修すること。 ・「西洋史領域」の選択者は、基礎英語文献演習もしくは基礎演習を1科目2単位以上、演習のうち2科目4単位以上、特講のうち2科目4単位以上および異なる領域の特講のうち2科目4単位以上を含み、合計10科目20単位以上を履修すること。	
			日本史基礎史料講読 (近世)	2 選	3		
			日本史基礎史料講読 (近代・現代)	2 選	3		
			日本史史料講読 (古代・中世) 1	2 選	4		
			日本史史料講読 (古代・中世) 2	2 選	5		
			日本史史料講読 (近世) 1	2 選	4		
			日本史史料講読 (近世) 2	2 選	5		
			日本史史料講読 (近代・現代) 1	2 選	4		
日本史史料講読 (近代・現代) 2			2 選	5			
日本史特講 (古代・中世) 1			2 選	3			
日本史特講 (古代・中世) 2			2 選	4			
日本史特講 (近世) 1			2 選	3			
日本史特講 (近世) 2			2 選	4			
日本史特講 (近代・現代) 1			2 選	3			
日本史特講 (近代・現代) 2			2 選	4			
日本史特講 (宗教・文化) 1		2 選	3				
日本史特講 (宗教・文化) 2		2 選	4				
東洋史領域		東洋史基礎史料講読	2 選	3			
		東洋史史料講読 (前近代) 1	2 選	4			
		東洋史史料講読 (前近代) 2	2 選	5			
		東洋史史料講読 (近現代) 1	2 選	4			
		東洋史史料講読 (近現代) 2	2 選	5			
		東洋史特講 (古代) 1	2 選	3			
		東洋史特講 (古代) 2	2 選	4			
		東洋史特講 (中世・近世) 1	2 選	3			
	東洋史特講 (中世・近世) 2	2 選	4				
	東洋史特講 (近代・現代) 1	2 選	3				
東洋史特講 (近代・現代) 2	2 選	4					
西洋史領域	西洋史基礎英語文献演習	2 選	3				
	西洋史基礎演習	2 選	3				
	西洋史演習 (前近代) 1	2 選	4				
	西洋史演習 (前近代) 2	2 選	5				
	西洋史演習 (近現代) 1	2 選	4				
	西洋史演習 (近現代) 2	2 選	5				
	西洋史特講 (前近代) 1	2 選	3				
	西洋史特講 (前近代) 2	2 選	4				
	西洋史特講 (近現代) 1	2 選	3				
	西洋史特講 (近現代) 2	2 選	4				
西洋史特講 (エリア) 1	2 選	3					
西洋史特講 (エリア) 2	2 選	4					

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 福祉
- その他
- IV 規程

歴史学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修 必修	選択 選択	自由別 自由	履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
学 科 専 攻 科 目	日本史古文書演習1	2		選		6		
	日本史古文書演習2	2		選		7		
	東洋史発展史料講読1	2		選		6		
	東洋史発展史料講読2	2		選		7		
	西洋史史料講読(外書)1	2		選		6		
	西洋史史料講読(外書)2	2		選		7		
	歴史学フィールドワーク	2		選		5		
	歴史文化発展演習1	2		選		6		
	歴史文化発展演習2	2		選		7		
	京都学入門(京都学プログラム)	2		選		3		4科目8単位以上を履修すること。
京都の暮らし(京都学プログラム)	2		選		4			
京都の飲食文化(京都学プログラム)	2		選		4			
京都の衣服(京都学プログラム)	2		選		3			
京都の祭り(京都学プログラム)	2		選		3			
京都学演習(京都学プログラム)	2		選		5			
日本史古文書基礎演習1	2		選		4			
日本史古文書基礎演習2	2		選		5			
英語文献講読1	2		選		4			
英語文献講読2	2		選		5			
専 門 科 目	地域文化概論	2		選		4		
	民俗文化概論	2		選		4		
	芸術文化概論	2		選		4		
	史学史	2		選		3		
	政治文化史	2		選		4		
	考古学	2		選		4		
	民俗学	2		選		3		
	文化人類学	2		選		4		
	芸術史	2		選		3		
	文化財学特論	2		選		3		
	宗教文化	2		選		4		
	地誌学1	2		選		3		
	地誌学2	2		選		4		
	自然地理学1	2		選		3		
	自然地理学2	2		選		4		
	人文地理学1	2		選		3		
	人文地理学2	2		選		4		
	経済地理学	2		選		3		
	地理情報学	2		選		3		
	地理情報システム演習	2		選		4		
	フィールドワーク入門	2		選		2		
	日本史臨地研修	2		選		3		
	外国史臨地研修	2		選		3		
	ワークショップ実習	2		選		5		
	日本史古文書実習	2		選		6		
	法律学概論1	2		選		1		
	法律学概論2	2		選		2		
	国際政治学	2		選		1		
	哲学概論	2		選		2		
	宗教学概論	2		選		1		
倫理学概論	2		選		1			
博物館学Ⅰ	2		選		3			
生涯学習概論	2			自	2	×	自由科目で修得した単位は卒業所要単位には算入できません。	
博物館学Ⅱ	2			自	4	×		
博物館学Ⅲ	2			自	5	×		
博物館学Ⅳ	2			自	3	×		
博物館学Ⅴ	2			自	4	×		
博物館学Ⅵ	2			自	5	×		
博物館実習講義	1			自	6	×		
博物館実習Ⅰ	1			自	7	×		
博物館実習Ⅱ	1			自	7	×		
博物館実習Ⅲ	1			自	8	×		
視聴覚教育メディア論	2			自	3	×		

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

歴史学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8 Semesterにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7 Semesterの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。
- ・第4学年第8 Semesterの履修登録時に「卒業研究ゼミ1」の単位を修得済みでないと「卒業研究ゼミ2」の履修登録と「卒業論文」の履修登録ができません。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
歴史学科	横書き	400字詰 原稿用紙 50枚程度	A4判縦 (左綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	400字詰 原稿用紙 50枚程度	A4判横 (上綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

- ・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

- ・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

- ・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。
- ・正本は卒業式当日に返却します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

歴史学部 歴史文化学科

歴史文化学科の教育方針

人材養成の目的

歴史文化学科は、歴史学の学修を通じて、地域社会や国際社会の課題を理解し、その解決に向けて取り組むことができる人材を養成する。特に現場での学修や体験の成果を重視した教育研究活動を通じて涵養した力により社会に貢献していくことを目的とします。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会とを支える広い教養を身につけている
- D2 歴史や文化事象を探る基礎的方法について理解している
- D3 歴史や文化事象に関わる情報を様々な資料に基づき分析、解釈できる
- D4 歴史や文化事象に関わる多様な価値観の存在を理解する
- D5 解釈した歴史文化についての理解を自らの言葉で論理的に表現できる
- D6 歴史的な文化事象の多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している
- D7 歴史的な文化事象に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および歴史学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

歴史文化学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。教育課程（カリキュラム）は、学科専攻科目の一部を歴史的な文化事象の特性に応じて地域文化、民俗文化、芸術文化の各領域に区分し、それぞれの領域の特性を考慮しながら編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（担当セメスター）などを考

慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、研修（フィールドワーク）などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

- ①文化事象を探求するさまざまな方法について、基礎的な理解を促し、歴史文化に関するさまざまな情報を資料に基づき分析、解釈できる力を段階的に養うため講読や演習を提供する
- ②歴史や文化事象に関わる多様な価値観の存在、および価値観の多様性を理解することを旨とし、特講とともに複数のフィールドワーク科目を提供する
- ③2年生以降の専門科目の履修は、地域文化、民俗文化、芸術文化いずれかの領域の専門的な知識や技能の修得、進化を図るとともに、異なる領域の専攻科目を副専攻として学修することにより、多角的な視点からの理解を促す

幅広い教養と高度な能力の修得を目指して関連科目を提供します。専門的な学修内容を補完し、資料や文献の高度な読解、分析方法を学ぶ科目のほか、より実践的な力を養う関連科目として「ワークショップ実習」、さまざまな文化に触れる関連科目として「日本史臨地研修」「外国史臨地研修」などを提供します。

関連科目において、京都の歴史や文化を集中的に学ぶ京都学プログラム（「京都学入門」「京都の暮らし」「京都の飲食文化」「京都の衣服」「京都の祭り」「京都学演習」）、GIS 学術士の資格認定を目指し、「地理情報学」「地理情報システム演習」など体系的で効果的な学修を目的にしたプログラム科目群を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ルーブリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

歴史文化学科の教育内容

歴史文化学科では、歴史文化を理解する学問分野の性格に応じて地域文化・民俗文化・芸術文化の三つの領域を設定し、以下に示すようなカリキュラムを設定しています。

1年生

- 共通教養科目の履修を通じて、歴史に限らず社会人として必要な教養（知識や考え方）や技能の習得に努めてください。なお、自己形成科目群には、文化と芸術を学ぶ科目、地域と社会を学ぶ科目、人間と自然を学ぶ科目があります。
- 初年次には歴史文化にかかわる基礎的知識の習得を目指す地域文化概論・民俗文化概論・芸術文化概論のほか、歴史文化臨地研修などが設定されています。歴史文化を探るための幅広く多岐にわたる学問分野の基礎的な知識を養うとともに、現場で考える歴史文化学科の特徴の理解につとめてください。なお、歴史学に関する基礎的知識を、また、大学における学術的な作法や考え方を学ぶ「アカデミック・スキルズ」が設定されています。「スタディ・スキルズ」（共通教養科目）による実践的な学びとともに、大学での学修の基礎を養ってください。

2年生・3年生

- 2年次以降は、それぞれの領域の学びを中心とした専門的な学修が始まります。各学年に設定された「歴史文化研究法ゼミ」（2年）、「発展研究ゼミ」（3年）により、学修内容の定着、実践的な力への深化を図りながら、専門的な学修を進めてください。

地域文化領域：日本や世界を対象に、遺跡や遺物、地図や地形、生業のあり様などに注目して、人間と環境の相互作用から特定の範囲に成立する地域性と結びついた文化について、フィールドワークを重視しつつ考えます。

民俗文化領域：日本や世界において人々の日常生活や社会生活を基盤として成立した慣習、民間の風俗、伝承、知識などを研究する民俗学、文化人類学、神話・伝承学をもとに、フィールドワーク資料を重視しつつ文化の成立過程や変遷などから文化とは何かを考えます。

芸術文化領域：日本や東洋の芸術を中心に、絵画、彫刻、工芸、舞台芸能、民俗芸能等の芸術文化について、背景となる思想や文化を理解する能力を身につけるとともに、対象となる作例を正確に見る力を重視しつつ考えます。

- 自らが選択した領域（主専攻）について、歴史文化を探る力を段階的に養うことを目的とした「基礎演習」および「演習」、専門領域の知識や研究方法を学ぶ「特講」科目、「フィールドワーク演習」科目を履修します。

- 「演習」は学修内容のレベルに応じ基礎演習、演習が設定されています。選択した領域にかかわる歴史文化資料の読解・分析する力を領域に分かれ段階的に学びます。
- 多角的な視点からの学修を進めるとともに、異なる領域に関する最低限の知識や技能の習得を目指し、選択した領域以外の一つの領域（副専攻）についても、「基礎演習」、「特講」科目を学びます。
より高度な学修を目指す方のために、発展科目を設定していますので、大学院への進学を検討する方やさらに学修を深めたい方は履修して下さい。
- 幅広い教養と高度な能力の習得を目指し、自らの興味や関心に従い選択履修できる「関連科目」が設定されています。専門学修が進む中で自らの学修の進展に応じて、あるいは卒業後のキャリアを見据えて高度で実践的な学修を進めてください。

4年生

- 大学での学修の集大成として、「卒業研究ゼミ」での学修を中心に、自らが設定した課題に取り組み「卒業論文」を執筆します。「卒業論文」は複数の教員による審査によって、学修の総括とともに学部および学科のディプロマ・ポリシーに記した諸事項の習得を確認します。

その他

- 各学年で、自らの学修を振り返り、卒業後のキャリアを見据えることを目指したキャリア教育が設定されています。
- キャリアへの対応として、「教育職員免許状」、「博物館学芸員資格」、「図書館司書」、「学校図書館司書教諭」、「GIS学術士」などの免許・資格にかかわる科目が設定されています。履修には一定の基準が設けられていますので、専門科目の学修を確実に進めることが必要です。
- フィールドワークはそれぞれの領域の特徴を重視し、より実践的な力が身につくように工夫しています。
- 領域の特徴を生かした学修内容ですので、同一名称科目であっても、内容に違いがあります。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位				
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計	
共通 教育 課程	共通教養科目より30単位							
	仏教・自校教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の2単位 ・ブツと法然 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			2単位	2単位	小計を満たし 2単位以上		
	グローバル科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 「必修外国語」科目の1語種8単位 ・IntensiveReading1 ・IntensiveReading2 ・IntegratedCommunicationSkills1 ・IntegratedCommunicationSkills2 ・IntegratedCommunicationSkills3 ・IntegratedCommunicationSkills4 ・IntermediateReading1 ・IntermediateReading2 ・中国語1 ・中国語2 ・中国語3 ・中国語4 ・中国語5 ・中国語6 ・中国語7 ・中国語8 ・韓国語1 ・韓国語2 ・韓国語3 ・韓国語4 ・韓国語5 ・韓国語6 ・韓国語7 ・韓国語8			8単位	1語種から 8単位	小計を満たし 10単位以上		
	<input type="checkbox"/> 「選択外国語」科目 科目の選択については pp.55-56 を必ず参照のこと 1語種から <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 2単位 ※ 必修外国語とは別語種							
	<input type="checkbox"/> 「国際教養」科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 「海外研修」科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上							
	データサイエンス科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の2単位 ・ICTリテラシー 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			2単位	2単位	小計を満たし 2単位以上		
	初年次教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の4単位 ・スタディ・スキルズ 2単位 ・キャリア・スキルズ1 1単位 ・キャリア・スキルズ2 1単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			4単位	4単位	小計を満たし 4単位以上		
	キャリアスタディ科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上		
	プロジェクト科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上		
	自己形成科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 文化と芸術を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 地域と社会を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 人間と自然を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					6単位以上		
	スポーツ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上		
	大学コンソーシアム <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上		
	専門 科目	専門科目より34単位以上						
		学歴修得科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の10単位 ・原史学概論 2単位 ・原史文化概論 2単位 ・日本史概論 2単位 ・西洋史概論 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 2単位以上			10単位	10単位	小計を 満たし 10 単位 以上	
		学歴基礎科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の16単位 ・アカデミック・スキルズ 2単位 ・原史文化研究法ゼミ1 2単位 ・原史文化研究法ゼミ2 2単位 ・地域文化概論 2単位 ・民俗文化概論 2単位 ・芸術文化概論 2単位 ・原史文化圏地研修 2単位 ・ライバルドワーク基礎論 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 4単位以上			16単位	16単位	小計を 満たし 26 単位 以上	
		学歴専攻科目 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての領域において履修が必要な14単位 ・原史研究ゼミ1 2単位 ・原史研究ゼミ2 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上			14単位	14単位	小計・ 中計を 満たし 40 単位 以上	
		<input type="checkbox"/> 地域文化特講2 2単位 <input type="checkbox"/> ライバルドワーク演習（地域文化） 2単位						
		<input checked="" type="checkbox"/> ①民俗文化領域 ・民俗文化基礎演習 2単位 ・民俗文化演習1 2単位 ・民俗文化演習2 2単位 ・民俗文化特講1 2単位 ・民俗文化特講2 2単位 <input type="checkbox"/> ライバルドワーク演習（民俗文化） 2単位					小計を 満たし 54 単位 以上	
		<input checked="" type="checkbox"/> ②芸術文化領域 ・芸術文化基礎演習 2単位 ・芸術文化演習1 2単位 ・芸術文化演習2 2単位 ・芸術文化特講1 2単位 ・芸術文化特講2 2単位 <input type="checkbox"/> ライバルドワーク演習（芸術文化） 2単位					小計を 満たし 54 単位 以上	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③選択科目を任意で選択 ・選択した領域以外の「基礎演習」 2単位以上 ・選択した領域以外の「特講」 2単位以上 <input type="checkbox"/> 卒業 0単位以上 <input type="checkbox"/> 関連科目 0単位以上						
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上			
<input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上					0単位以上			
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 専門科目については次頁参照 </div>								

共通
教育
課程

専門
科目

小計・
中計を
満たし
30単位
※卒業所要
単位には
30単位ま
でしか算
入できま
せん。
科目は
pp.56-57参照

小計・
中計・
大計を
満たし
124単位
以上

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
専門科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目						
	■必修科目の 10 単位			10単位	小計を 満たし 12 単位 以上		
	・歴史学概論	2単位					
	・歴史文化概論	2単位					
	・日本史概論	2単位					
	・東洋史概論	2単位					
	・西洋史概論	2単位					
	■任意で選択の科目		2単位以上				
	学科基礎科目						
■必修科目の 16 単位			16単位	小計を 満たし 20 単位 以上			
・アカデミック・スキルズ	2単位						
・歴史文化研究法ゼミ 1	2単位						
・歴史文化研究法ゼミ 2	2単位						
・地域文化概論	2単位						
・民俗文化概論	2単位						
・芸術文化概論	2単位						
・歴史文化臨地研修	2単位						
・フィールドワーク基礎論	2単位						
■任意で選択の科目		4単位以上					
学科専攻科目							
■全ての領域において履修が必要な 14 単位			14単位	小計を 満たし 94 単位 以上			
・発展研究ゼミ 1	2単位						
・発展研究ゼミ 2	2単位						
・卒業研究ゼミ 1	2単位						
・卒業研究ゼミ 2	2単位						
・卒業論文	6単位						
①地域文化領域			14単位	小計を 満たし 34 単位 以上			
・地域文化基礎演習	2単位						
・地域文化演習 1	2単位						
・地域文化演習 2	2単位						
・地域文化特講 1	2単位						
・地域文化特講 2	2単位						
・フィールドワーク演習 (地域文化)	2単位						
②民俗文化領域			14単位	小計を 満たし 34 単位 以上			
・民俗文化基礎演習	2単位						
・民俗文化演習 1	2単位						
・民俗文化演習 2	2単位						
・民俗文化特講 1	2単位						
・民俗文化特講 2	2単位						
・フィールドワーク演習 (民俗文化)	2単位						
③芸術文化領域			14単位	小計を 満たし 34 単位 以上			
・芸術文化基礎演習	2単位						
・芸術文化演習 1	2単位						
・芸術文化演習 2	2単位						
・芸術文化特講 1	2単位						
・芸術文化特講 2	2単位						
・フィールドワーク演習 (芸術文化)	2単位						
■選択科目を任意で選択					①から③の選 択した領域か ら12単位、 異なる領域の 基礎演習2単 位、特講2単 位を含み20 単位以上		
・選択した領域以外の「基礎演習」	2単位以上				※発展は含 みません		
・選択した領域以外の「特講」	2単位以上						
□発展		0単位以上					
関連科目							
■任意で選択の科目		8単位以上		8単位以上	小計・ 中計を 満たし 124 単位 以上		

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

歴史文化学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別 必修 選択 自由	履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考	
専 門 科 目	学部 基幹 科目	歴史学概論	2 必	1		必修科目5科目10単位および選択科目のうち1科目2単位以上、合計6科目12単位以上を履修すること。	
		外国の歴史と文化	2 選	2			
		歴史学とコンピュータ	2 選	2			
		歴史文化概論	2 必	1			
		日本史概論	2 必	1			
		東洋史概論	2 必	3			
		西洋史概論	2 必	3			
	歴史地理学	2 選	2				
	学科 基礎 科目	アカデミック・スキルズ	2 必	2		必修科目8科目16単位および選択科目のうち2科目4単位以上、合計10科目20単位以上を履修すること。	
		歴史文化研究法ゼミ1	2 必	3			
		歴史文化研究法ゼミ2	2 必	4			
		地域文化概論	2 必	2			
		民俗文化概論	2 必	2			
		芸術文化概論	2 必	2			
		歴史文化臨地研修	2 必	2			
		考古学	2 選	4			
		民俗学	2 選	3			
		文化人類学	2 選	4			
		芸術史	2 選	3			
		宗教文化	2 選	4			
		フィールドワーク基礎論	2 必	3			
		人文地理学1	2 選	3			
		人文地理学2	2 選	4			
		経済地理学	2 選	3			
	学 科	共 通	発展研究ゼミ1	2 必	5	5科目14単位を履修すること。	
			発展研究ゼミ2	2 必	6		
			卒業研究ゼミ1	2 必	7		
			卒業研究ゼミ2	2 必	8		
			卒業論文	6 必	8		
		地域文化領域	地域文化基礎演習	2 選	3		「地域文化領域」・「民俗文化領域」・「芸術文化領域」のうち1領域を選択したうえで、選択した領域の6科目12単位、異なる領域の基礎演習1科目2単位および特講のうち1科目2単位以上を含み、合計10科目20単位以上を履修すること。
			地域文化演習1	2 選	4		
			地域文化演習2	2 選	5		
			地域文化特講1	2 選	3		
地域文化特講2			2 選	4			
フィールドワーク演習（地域文化）	2 選	5					
民俗文化領域	民俗文化基礎演習	2 選	3	5科目14単位を履修すること。			
	民俗文化演習1	2 選	4				
	民俗文化演習2	2 選	5				
	民俗文化特講1	2 選	3				
	民俗文化特講2	2 選	4				
フィールドワーク演習（民俗文化）	2 選	5					
芸術文化領域	芸術文化基礎演習	2 選	3		5科目14単位を履修すること。		
	芸術文化演習1	2 選	4				
	芸術文化演習2	2 選	5				
	芸術文化特講1	2 選	3				
	芸術文化特講2	2 選	4				
フィールドワーク演習（芸術文化）	2 選	5					
目 録	発 展	歴史文化発展演習1	2 選	6			
		歴史文化発展演習2	2 選	7			
		フィールドワーク発展演習（地域文化）	2 選	6			
		フィールドワーク発展演習（民俗文化）	2 選	6			
		フィールドワーク発展演習（芸術文化）	2 選	6			
		日本史古文書演習1	2 選	6			
		日本史古文書演習2	2 選	7			
		東洋史発展史料講読1	2 選	6			
		東洋史発展史料講読2	2 選	7			
		西洋史史料講読（外書）1	2 選	6			
		西洋史史料講読（外書）2	2 選	7			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

歴史文化学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。
- ・第4学年第8セメスターの履修登録時に「卒業研究ゼミ1」の単位を修得済みでないと「卒業研究ゼミ2」の履修登録と「卒業論文」の履修登録ができません。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き		ワープロ使用時の用紙書式		
歴史文化 学科	横書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判縦 (左綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	400字詰 原稿用紙	50枚程度	A4判横 (上綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

- ・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

- ・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

- ・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。
- ・正本は卒業式当日に返却します。

教育学部 教育学科

教育学科の教育方針

人材養成の目的

教育学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の発達成長における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2** 教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3** 社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができる
- D4** 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実習、演習などを適切に組み合わせる科目を提供します。

＜教育課程実施の方針＞

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②教育学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」等の科目を提供する
- ③社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する
- ④社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する

社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

教育学科の教育内容

オリジナルでユニークなプログラムを編成し、魅力あるカリキュラムになっています。

このカリキュラムでは将来の進路に応じて、次の4つの領域を設定しています。

初等教育	感性豊かな学級経営力と確実な教科指導力を身につけた小学校教諭を養成します
中等教育	感性豊かな学級経営力と各専門教科の高い指導力を身につけた中学校（社会・数学）・高校（数学）教諭を養成します
特別支援教育	障害のある幼児・児童・生徒やその保護者を対象とする、専門的な知識と技能を備えた特別支援学校教諭を養成します ※幼・小・中・高、いずれかの教育職員免許状の取得が条件
教育学	教育を取り巻くさまざまな課題の考察を通してその本質を追究し、公務員や企業、研究者への道を拓きます ※社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得も可能

1. 教員をめざすみなさんへ

現場で求められている教員像

- ①現場の課題に適切に対応できる教員。高度な実践力と協働性を持つ教員
- ②得意分野を持ち、それを活かした指導を実践することができる個性豊かな教員



～対応したプログラム～

- ・教育委員会との連携等にもとづく教育体験学習
- ・通学課程で小学校、中学校社会科、中・高等学校数学科、特別支援学校教諭の教育職員免許状が取得可能



本学の大きな特色である通信教育課程との併修や副免プログラムへの参加により、上記以外の教育職員免許状も取得可能

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

今教育現場で求められている教員像には大きく2つあります。①現場の課題に適切に対応できる力量がある教員。つまり、高度な実践力と協同性を持つ教員。②得意分野を持つ個性豊かな教員。例えば、近年小学校でも、音楽や保健体育だけではなく、算数や理科等の教科担任制を導入する動きがありますし、特別支援を要する子どもたちへの対応ニーズの増大や英語の教科化など、教師に求められる資質・能力はより多様化、専門化しています。

教育学科のカリキュラムには、こうした教員像にマッチしたプログラムが備わっていることは言うまでもありません。例えば、①については教育委員会との連携等にもとづく教育体験学習プログラムを幅広く展開しています。②についても、通学課程で中学校社会科、中・高等学校数学科の教育職員免許状に加え、特別支援学校の教育職員免許状も取得可能です。また、本学の大きな特色である通信教育課程との併修により、中・高等学校の国語科や英語科などそれ以外の教育職員免許状を取得する道も用意されています。

2. 小学校教諭、中学校・高等学校教諭、特別支援学校教諭をめざすみなさんへ

教育職員免許状を取得するために必要な科目を計画的に履修することはいうまでもありませんが、教員採用試験に現役合格していくためにも、教育職インターンシップの履修、学校ボランティアへの参加、状況に応じて併修制度にも積極的に取り組み、教員としての能力を伸ばして卒業することが大切です。

教育学科では、今日の教育事情・動向をふまえ、社会的要請に応えるべく様々な教育職員免許状や諸資格が取得可能なプログラムを整備してきました。皆さんの多くは、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭のいずれかを目指しているはずですが、本学では、小学校教諭免許状、中学校教諭免許状「社会」、中学校教諭免許状「数学」、高等学校教諭免許状「数学」が取得可能です。また近年、教育現場では ASD（自閉スペクトラム症）・LD・ADHD 等様々な障害のある子どもたちへの支援の要請が高まっています。また、知的障害・肢体不自由・病弱虚弱・視覚障害・聴覚障害等障害の種類や程度に応じて細かく対応する技量も、求められています。特別支援学校教諭免許状は小学校あるいは中学校の教員免許を基礎としています。

3. 教育学・生涯教育に関わる職をめざす皆さんへ

学校教育だけではなく図書館や博物館など生涯教育の分野において社会に貢献したいと考えている人もいるでしょう。従来から現代社会は「生涯学習の時代」と言われています。生涯学習は、生まれてから死ぬまで、学校も含めた様々な場で学ぶことができる、これからの高齢化時代にもまさしく適合する学びのスタイルです。こうした生涯学習のコーディネーターを目指して、「社会教育主事」の資格を取得することができます。また、生涯学習の基本的な場である図書館や博物館の専門職員をめざして、図書館司書や博物館学芸員の資格取得にもチャレンジしてみても良いでしょう。

※ 教育学部「初等教育」副免許取得プログラムについて

小学校教諭免許状と幼稚園教諭免許状の取得を希望する方を対象に「初等教育」副免許取得プログラムを用意しています。詳細は、B-net にて案内します。

4年間の学びの流れ

1年生

共通教養科目で、建学の精神に基づく科目や人間力の基盤をなすリテラシーに関する科目、心に関する科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な学力の獲得をめざします。アカデミックスキルを身に付ける「アカデミック・スキルズ」や「スタディ・スキルズ」は必修で、4年間の学びの基礎をつくります。「アカデミック・スキルズ」では合宿研修を行い、教師になるための心構えや、教師にとって必要な同僚性の礎を築きます。また教育学の根幹をなす「教育原論」「教育心理学」「教育社会学」の科目が必修として設けられています。

2年生

本格的に専門科目の履修が始まります。「初等外国語教育法」「中等教科教育法数学」などの教科の教育法で教科・領域の指導法を学びます。また「教育学基礎演習」では少人数で特定の領域について深く学びます。さらに「特別な教育的ニーズの理解とその支援」「ICTの活用及び教育」「国際理解教育演習」をはじめ、現代的教育課題を学ぶ科目も複数設けられています。

3年生

教職につくための大切な現場での学び「教育実習」が始まります。その前後には「教育実習指導」が設けられており、事前、事後の指導を通して現場に直結した学びを深めます。2年生までの知識を活かしながら、実践的教育課題に多角的に対応できる力量の形成をめざします。また、4年生での卒業論文の作成に向け「教育学演習」では、文献の読み込みや研究発表を通じて研究力に磨きをかけます。

4年生

これまでに培った論理的思考力、課題発見能力、幅広い教養を基に、「卒業論文演習」では、教員に個別指導を受けながら卒業論文を仕上げます。その過程では、研究成果をまとめて発表するという経験を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めます。また教職につくための4年間の総括として、「教職実践演習」などが設けられています。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

その他

小学校教諭、中学校教諭(社会科・数学科)、高等学校教諭(数学科)、特別支援学校教諭に加え、社会教育主事やレクリエーションインストラクター等の免許・資格に必要な科目も用意しています。

大学院修士課程(教育学研究科)を開設し、専修免許状の取得も可能です。さらに、博士後期課程も開設しています。

この他に教育学科のカリキュラムの特色としては以下のことが指摘できます。

- a) 実技教科は言うに及ばず、すべての教科教育の授業を少人数編成で行うことにより実践力の養成を目指します。
- b) 公立小学校と連携して、小学校に行き、現場の生きた実践から学びます。そして、それらの現場体験と大学での講義・演習を結びつけることにより、理論と実践とを相互作用的に積み上げていきます。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	総計
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位						
	仏教・自校教育科目群						
	■必修科目の 2 単位			2 単位	小計を満たし 2 単位以上		
	・ブツと法然		2 単位				
	□任意で選択の科目			0 単位以上			
	グローバル科目群						
	■「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位				小計を満たし 8 単位以上		
	・IntensiveReading1						
	・IntensiveReading2						
	・IntegratedCommunicationSkills1						
	・IntegratedCommunicationSkills2						
	・IntegratedCommunicationSkills3						
	・IntegratedCommunicationSkills4						
	・IntermediateReading1						
	・IntermediateReading2						
	・中国語 1						
	・中国語 2						
	・中国語 3						
	・中国語 4						
	・中国語 5						
	・中国語 6						
	・中国語 7						
	・中国語 8						
・韓国語 1							
・韓国語 2							
・韓国語 3							
・韓国語 4							
・韓国語 5							
・韓国語 6							
・韓国語 7							
・韓国語 8							
□「選択外国語」科目			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
□「国際教養」科目			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
□「海外研修」科目			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
データサイエンス科目群							
■必修科目の 2 単位			2 単位	小計を満たし 2 単位以上			
・ICT リテラシー		2 単位					
□任意で選択の科目			0 単位以上				
初年次教育科目群							
■必修科目の 4 単位			4 単位	小計を満たし 4 単位以上			
・スタディ・スキルズ		2 単位					
・キャリア・スキルズ 1		1 単位					
・キャリア・スキルズ 2		1 単位					
□任意で選択の科目			0 単位以上				
キャリアスタディ科目群							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
プロジェクト科目群							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
自己形成科目群							
■文化と芸術を学ぶ			0 単位以上	6 単位以上			
□任意で選択の科目			0 単位以上				
■地域と社会を学ぶ			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
■人間と自然を学ぶ			0 単位以上				
□任意で選択の科目			0 単位以上				
スポーツ							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
大学コンソーシアム							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
専門 科目	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目						
	■必修科目の 5 単位			5 単位	小計を満たし 64 単位以上		
	・教育原論		2 単位				
	・教育相談の理論及び方法		2 単位				
	・特別な教育的ニーズの理解とその支援		1 単位				
	学科基礎科目						
	■必修科目の 10 単位			10 単位			
	・アカデミック・スキルズ		2 単位				
	・教育学基礎演習 1		2 単位				
	・教育学基礎演習 2		2 単位				
・教育心理学		2 単位					
・教育社会学		2 単位					
■任意で選択の科目			10 単位以上				
学科専攻科目							
■必修科目の 14 単位			14 単位				
・教育学演習 1		2 単位					
・教育学演習 2		2 単位					
・卒業論文演習 1		2 単位					
・卒業論文演習 2		2 単位					
・卒業論文		6 単位					
■任意で選択の科目			16 単位以上				
関連科目							
□任意で選択の科目			0 単位以上	0 単位以上			
				小計・中計を満たし 30 単位			
				※卒業所要 単位には 30 単位ま でしか算 入できま せん。			
				科目は pp.56-57 参照			
				小計・ 中計・ 大計を 満たし 124 単 位以上			

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

福祉

その他

IV

規程

教育学科 履修科目表 (1/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	学 部 基 礎 科 目	教育原論	2	必		1		必修科目3科目5単位を履修すること。
	教育相談の理論及び方法	2	必		3			
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	必		3			
	アカデミック・スキルズ	2	必		2		必修科目5科目10単位および選択科目のうち5科目10単位以上、合計10科目20単位以上を履修すること。	
	教育学基礎演習1	2	必		3			
	教育学基礎演習2	2	必		4			
	教育心理学	2	必		1			
	教育心理学2	2		選	2			
	教育社会学	2	必		1			
	教育社会学2	2		選	2			
	教育哲学	2		選	2			
	教育史	2		選	1			
	教育人間学	2		選	3			
	教育行政学	2		選	1			
	教育行政学2	2		選	2			
	臨床教育学	2		選	3			
	学校経営論	2		選	3			
	学級経営論	2		選	3			
	発達心理学	2		選	3			
	比較教育学	2		選	3			
	教育法規	2		選	3			
	教育評価論	2		選	3			
	学校教育職入門	2		選	1			
	特別支援教育総論	2		選	3			
	教育学演習1	2	必		5		必修科目5科目14単位を含み30単位以上を履修すること。	
	教育学演習2	2	必		6			
	卒業論文演習1	2	必		7			
	卒業論文演習2	2	必		8			
	卒業論文	6	必		8			
	人権（同和）教育	2		選	3			
	ICTの活用及び教育	2		選	3			
	学校教育課程論	2		選	3			
	教育方法論（ICT活用含む）	2		選	3			
	教育方法論（ICT活用含む）2	2		選	4			
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2		選	2			
	特別活動の指導法	2		選	3			
	道徳の理論及び指導法	2		選	3			
	総合的な学習の時間の指導法	2		選	3			
	国際理解教育演習	2		選	3			
	初等教育内容国語	2		選	1			
	初等教育内容社会	2		選	1			
	初等教育内容算数	2		選	1			
	初等教育内容理科	2		選	1			
	初等教育内容生活	2		選	1			
	初等教育内容音楽	2		選	1			
初等教育内容図画工作	2		選	1				
初等教育内容家庭	2		選	1				
初等教育内容体育	2		選	1				
初等教育内容外国語	2		選	1				
初等国語教育法	2		選	3				
初等社会教育法	2		選	3				
初等算数教育法	2		選	3				
初等理科教育法	2		選	3				
初等生活教育法	2		選	3				
初等音楽教育法	2		選	3				
初等図画工作教育法	2		選	3				
初等家庭教育法	2		選	3				
初等体育教育法	2		選	3				
初等外国語教育法	2		選	3				
中等教科教育法社会1	2		選	3				
中等教科教育法社会2	2		選	4				
中等教科教育法社会3	2		選	3				
中等教科教育法社会4	2		選	4				
中等教科教育法数学1	2		選	3				
中等教科教育法数学2	2		選	4				

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

教育学科 履修科目表 (2/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択 必修	選択 選択	自由別 自由	履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
専攻科目	中等教科教育法数学 3	2		選		3		
	中等教科教育法数学 4	2		選		4		
	日本史概論	2		選		1		
	日本史特論	2		選		2		
	東洋史概論	2		選		1		
	西洋史概論	2		選		1		
	法律学概論 1	2		選		1		
	法律学概論 2	2		選		2		
	国際政治学	2		選		1		
	社会学概論	2		選		1		
	経済学概論	2		選		1		
	哲学概論	2		選		2		
	宗教学概論	2		選		1		
	倫理学概論	2		選		1		
	数学基礎	2		選		1		
	代数学概論 1	2		選		1		
	代数学概論 2	2		選		2		
	代数学特論 1	2		選		3		
	代数学特論 2	2		選		4		
	代数学演習	2		選		3		
	幾何学概論 1	2		選		1		
	幾何学概論 2	2		選		2		
	幾何学特論 1	2		選		3		
	幾何学特論 2	2		選		4		
	幾何学演習	2		選		3		
	解析学概論 1	2		選		1		
	解析学概論 2	2		選		2		
	解析学特論 1	2		選		3		
	解析学特論 2	2		選		4		
	解析学演習	2		選		3		
	確率論 1	2		選		1		
	確率論 2	2		選		2		
	基礎統計学 1	2		選		3		
	基礎統計学 2	2		選		4		
	確率論演習	2		選		3		
	基礎統計学演習	2		選		5		
	プログラミング 1	2		選		3		
	プログラミング 2	2		選		3		
	データ解析演習	2		選		4		
	数学特別演習	2		選		5		
	特別支援教育基礎理論	2		選		3		
	特別支援教育基礎理論 2	2		選		3		
	知的障害児の心理	2		選		3		
	知的障害児の生理・病理	2		選		3		
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2		選		3		
	病弱虚弱児の心理・生理・病理	2		選		3		
	知的障害教育 I	2		選		3		
	知的障害教育 II	2		選		3		
	肢体不自由児の指導法	2		選		3		
	病弱虚弱児の指導法	2		選		3		
	視覚障害教育総論	2		選		3		
	聴覚障害教育総論	2		選		3		
重複障害・発達障害児の指導法	2		選		3			
教育原論 2	2		選		2			
現場体験実習 1	1		選		1			
現場体験実習 2	1		選		2			
現場体験実習 3	1		選		3			
現場体験実習 4	1		選		4			
教職実践演習 (教諭)	2		選		8			
臨床心理学	2		選		3			
ピアノ指導 1	1		選		1			
ピアノ指導 2	1		選		2			
ピアノ指導 3	1		選		3			
ピアノ指導 4	1		選		4			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

教育学科 履修科目表 (3/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	生涯学習概論	2		選		2		
	生涯学習概論 2	2		選		3		
	社会教育演習	2		選		5		
	社会教育課題研究	2		選		3		
	社会教育特殊講義	2		選		3		
	男女共同参画論	2		選		3		
	NPO 法人マネジメント論	2		選		3		
	図書館概論	2		選		3		
	博物館学 I	2		選		3		
	図書館情報技術論	2		選		3		
	図書館制度・経営論	2		選		3		
	図書館サービス概論	2		選		3		
	情報サービス論	2		選		3		
	児童サービス論	2		選		3		
	情報サービス演習 1	2		選		5		
	情報サービス演習 2	2		選		5		
	図書館情報資源概論	2		選		3		
	情報資源組織論	2		選		3		
	情報資源組織演習 1	2		選		5		
	情報資源組織演習 2	2		選		5		
	図書・図書館史	2		選		3		
	図書館情報資源特論	2		選		3		
	図書館サービス特論	2		選		3		
	図書館総合演習	2		選		5		
	図書館基礎特論	1		選		7		
	学校経営と学校図書館	2		選		3		
	学校図書館メディアの構成	2		選		3		
	学習指導と学校図書館	2		選		3		
	読書と豊かな人間性	2		選		3		
	情報メディアの活用	2		選		3		
	レクリエーション実技	1		選		3		
	レクリエーション指導実習	1		選		3	×	
	レクリエーション概論	2		選		3		
	宗教教育論	2		選		3		
	視聴覚教育メディア論	2		選		3		
	仏教音楽教育論	2		選		1		
	教育実習 (幼・小) 1	2			自	5	×	自由科目で修得した単位は卒業所要単位には算入できません。
	教育実習 (幼・小) 2	2			自	5	×	
	教育実習指導 (幼・小)	1			自	5	×	
	教育実習 (小・中) 1	2			自	5	×	
	教育実習 (小・中) 2	2			自	5	×	
	教育実習指導 (小・中)	1			自	5	×	
教育実習 (中・高) 1	2			自	6	×		
教育実習 (中・高) 2	2			自	6	×		
教育実習指導 (中・高)	1			自	5	×		
教育実習 (特支)	2			自	6	×		
教育実習指導 (特支)	1			自	5	×		
社会教育実習	1			自	5	×		
図書館実習	1			自	7	×		
介護等体験指導	1			自	3	×		
介護等体験	1			自	4	×		

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

教育学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
教育学科	横書き	不可	A4判縦 (左綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	不可	A4判横 (上綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正 本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副 本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。

・正本は卒業式当日に返却します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

教育学部 幼児教育学科

幼児教育学科の教育方針

人材養成の目的

幼児教育学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育・保育職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子どもの発達成長における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、幼児教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2** 幼児教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①幼児教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②幼児教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている
 - ③社会（特に園）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
 - ④社会（特に園）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3** 社会（特に園）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、幼児教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子どもの発達成長に貢献することができる
- D4** 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・保育者）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

幼児教育学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往環」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（配当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

＜教育課程実施の方針＞

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、幼児教育学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

幼児教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①幼児教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②幼児教育学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」等の科目を提供する
- ③社会（特に園）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する
- ④社会（特に園）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」等の科目を提供する

社会（特に園）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、幼児教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子どもの発達成長に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

幼児教育学科の教育内容

理論知と実践知を融合した幼児教育・保育現場に有用な教育内容を構成し、将来を見据えた魅力あるカリキュラムを編成しています。

このカリキュラムを、卒業後の進路に即して説明しましょう。

保育者（幼稚園教諭・保育士）をめざすみなさんへ

現場で求められている保育者像

どちらに就職するにしても幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を持っていることが求められる。また自治体によっては、幼稚園教諭の募集要件として、小学校教諭免許状を持っていることを求められることもある。

～対応したプログラム～

- ・幼稚園教諭免許状【一種】と保育士資格の両方を取得。
- ・幼稚園教諭免許状【一種】と小学校教諭免許状【一種】の両方を取得。
- ・4年制大学であるメリットを生かした、確かな人間観（子ども観）と教育観（保育観）の提供と豊かな教育・保育実習経験・ていねいな指導。

保育の世界では、現在、こども園の増加に象徴されるように、幼稚園と保育所のあいだの垣根がますます低くなってきています。実際、どちらに就職するにしても、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を持っていることが求められる時代になっているのです。また、幼小連携などの観点から、幼稚園教諭の採用試験受験資格において、小学校教諭免許状を取得していることを条件とする自治体もあります。幼児教育学科では、それらの動向に対応できるよう教育学部「初等教

育」副免取得プログラム^{※1}が用意されています。一種免許状を取得できる4年制大学のメリットを生かして、単なる保育技術の所有者ではなく、確かな人間観（子ども観）と教育観（保育観）に裏打ちされた大きな構想力・発想力を備えた保育者、現場での保育経験を通して、子どもと共にみずからも育っていくような保育者の育成をめざしています。

※1 教育学部「初等教育」副免取得プログラムについて

小学校教諭免許状と幼稚園教諭免許状の取得を希望する方を対象に「初等教育」副免取得プログラムを用意しています。詳細は、B-netにて案内します。

4年間の学びの流れ

1年生

共通教養科目で、建学の精神に基づく科目や人間力の基盤をなすリテラシーに関する科目、心に関する科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な学力の獲得をめざします。アカデミックスキルを身につける「スタディ・スキルズ」や「アカデミック・スキルズ」は必修で、4年間の学びの基礎をつくります。「キャリア・スキルズ」では、保育現場に出向き、保育者になるための心構えや、保育者にとって必要な同僚性の礎を築きます。また幼児教育・保育学の根幹をなす「教育原論」「教育心理学」「教師・保育者論」の科目が必修として設けられています。

2年生

本格的に専門科目の履修が始まります。「子どもの保健」「保育内容の理論と方法」などで保育内容・領域の指導法を学びます。「社会福祉援助技術論1」「子ども家庭支援の心理学」といった福祉系科目を学ぶことにより、教育系と福祉系を横断する融合的な視点から子どもの健全な発達を捉え、親子関係や家族関係に関する現代的課題解決のための基礎知識の習得をめざします。また、「特別な教育ニーズの理解とその支援」「ICTの活用及び教育」「国際理解教育演習」をはじめ、現代的教育課題を学ぶ科目も複数設けられています。

3年生

保育職につくための大切な現場での学び「教育実習」「保育実習」が始まります。その前後には「教育実習指導」「保育実習指導」が設けられており、事前、事後の指導を通して現場に直結した学びを深めます。2年生までの知識を活かしながら、実践的保育課題に多角的に対応できる力量の形成をめざします。また、4年生での卒業論文の作成に向け「教育学演習」では、文献の読み込みや研究発表を通じて研究力に磨きをかけます。

4年生

これまで培った論理的思考力、課題発見能力、幅広い教養を基に、「卒業論文演習」では、教員に個別指導を受けながら卒業論文を仕上げます。その過程では、研究成果をまとめて発表するという経験を通じて、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めます。また保育職につくための4年間の総括として、「教職実践演習」「保育・教職実践演習」などが設けられています。

幼児教育学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別	履修開始	GPA	備考
			必修 選択 自由	Semester	対象	
専門科目	教育原論	2	必		1	必修科目3科目5単位を履修すること。
	教育相談の理論及び方法	2	必		3	
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	必		3	必修科目8科目16単位および選択科目のうち2科目4単位以上、合計10科目20単位以上を履修すること。
	アカデミック・スキルズ	2	必		2	
	教育学基礎演習1	2	必		3	
	教育学基礎演習2	2	必		4	
	教育心理学	2	必		1	
	教育心理学2	2		選	2	
	教育社会学	2	必		1	
	教育社会学2	2		選	2	
	教師・保育者論	2	必		2	
	幼児教育・保育課程論	2	必		2	
	幼児理解及び保育相談	2	必		3	
	保育原理	2		選	1	
	教育哲学	2		選	2	
	教育史	2		選	1	
	教育人間学	2		選	3	
	教育行政学	2		選	1	
	教育行政学2	2		選	2	
	臨床教育学	2		選	3	
	学校経営論	2		選	3	
	学級経営論	2		選	3	
	発達心理学	2		選	3	
	比較教育学	2		選	3	
	教育法規	2		選	3	
	教育評価論	2		選	3	
	特別支援教育総論	2		選	3	
	教育学演習1	2	必		5	
	教育学演習2	2	必		6	必修科目12科目28単位および○印科目のうち5科目10単位を含み38単位以上を履修すること。
	卒業論文演習1	2	必		7	
	卒業論文演習2	2	必		8	
	卒業論文	6	必		8	
	保育の内容及び方法	2	必		3	
	○ 幼児と健康	2		選	1	
	○ 幼児と人間関係	2		選	1	
	○ 幼児と環境	2		選	1	
	○ 幼児と言葉	2		選	1	
	○ 幼児と表現 (造形)	2		選	1	
	○ 幼児と表現 (音楽)	2		選	1	
	○ 幼児と表現 (身体)	2		選	1	
	保育内容の理論と方法「健康」	2	必		3	
	保育内容の理論と方法「人間関係」	2	必		3	
	保育内容の理論と方法「環境」	2	必		3	
保育内容の理論と方法「言葉」	2	必		3		
保育内容の理論と方法「造形表現」	2	必		3		
保育内容の理論と方法「音楽表現」	2	必		3		
保育内容の理論と方法「身体表現」	2		選	3		
人権(同和)教育	2		選	3		
ICTの活用及び教育	2		選	3		
国際理解教育演習	2		選	3		
子ども家庭福祉	2		選	2		
社会福祉援助技術論1	2		選	3		
子ども家庭支援論	2		選	5		
社会的養護1	2		選	3		
子ども家庭支援の心理学	2		選	3		
子どもの保健	2		選	3		
子どもの食と栄養	2		選	5		
乳児保育1	2		選	3		
乳児保育2	1		選	5		
子どもの健康と安全	1		選	5		
障害児保育	2		選	3		
社会的養護2	1		選	5		
子育て支援	1		選	3		
保育実習1A	2		選	6		×
保育実習1B	2		選	6	×	

- I
教育目標
- II
履修一般
- III
教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV
規程

幼児教育学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	保育実習指導 1 (事前)	1		選		5		
	保育実習指導 1 (事後)	1		選		6		
	保育実践演習	2		選		8		
	ピアノ指導 1	1		選		1		
	ピアノ指導 2	1		選		2		
	ピアノ指導 3	1		選		3		
	ピアノ指導 4	1		選		4		
	保育実習 2	2		選		7	×	
	保育実習指導 2	1		選		7		
	保育実習 3	2		選		7	×	
	保育実習指導 3	1		選		7		
	教育原論 2	2		選		2		
	教育実習 (幼・小) 1	2		選		5	×	
	教育実習 (幼・小) 2	2		選		5	×	
	教育実習指導 (幼・小)	1		選		5		
	教職実践演習 (教諭)	2		選		8		
	保育・教職実践演習 (教諭)	2		選		8		
	現場体験実習 1	1		選		1		
	現場体験実習 2	1		選		2		
	現場体験実習 3	1		選		3		
	現場体験実習 4	1		選		4		
	レクリエーション実技	1		選		3		
	レクリエーション指導実習	1		選		3	×	
レクリエーション概論	2		選		3			
宗教教育論	2		選		3			
視聴覚教育メディア論	2		選		3			
仏教音楽教育論	2		選		1			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

幼児教育学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
幼児教育 学科	横書き	不可	A4判縦 (左綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可
	縦書き	不可	A4判横 (上綴じ)	17枚程度	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字手書き可

・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈正 本〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈副 本〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。

・正本は卒業式当日に返却します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

教育学部 臨床心理学科

臨床心理学科の教育方針

人材養成の目的

臨床心理学科は、建学の理念である仏教精神の4つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、「こころ」の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に心の健康における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができる
- D2** 臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる
- ①臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
- ②臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得をしている
- ③社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
- ④社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる
- D3** 社会（特に教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業などの分野）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、心にかかわる諸問題の解決・支援に貢献することができる
- D4** 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

臨床心理学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往環」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度に

については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期（担当セメスター）などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

＜教育課程実施の方針＞

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
- ②臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「臨床心理学基礎ゼミ」等の科目を提供する
- ③社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する
- ④社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科専攻科目として「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する

社会（特に臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、心の健康に貢献することができるようにするために、学習方法に演習・実験やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

<学修成果の評価方針>

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実験・実習等の取り組み状況による評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

臨床心理学科の教育内容

1年生

「スタディ・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「キャリア・スキルズ」を通して大学での学びの土台作りをします。その一方で、共通教養科目の必修科目（仏教、外国語、リテラシー）に加え、専門科目への準備として、共通教養科目「心の世界を考える」等の履修をします。1年生の専門科目では、心理学をはじめて学ぶ学生に必要な3つの基礎を習得します。つまり心理学の基礎「心理学概論」「心理学史」「基礎心理学」・臨床心理学の基礎「臨床心理学史」「臨床心理学概論」・臨床心理学研究法の基礎「心理学統計法」「心理学研究法」によって、心理学と臨床心理学の全体像や研究姿勢の基礎資質を身につけます。

2年生

臨床心理学に関する様々な考え方に基づく科目が幅広く用意されています。必修となる「臨床心理学基礎ゼミ」に加え、学科専攻科目を軸に様々な科目を履修するようにしてください。臨床心理士・公認心理師資格取得のためには、大学院進学が基本となります。そして、公認心理師の国家試験受験資格のためには、指定科目を全て履修することが必須です。特に、3年生からの心理実習に関しては履修者選考があります。対象の科目を必ず確認し、2年生の間に単位を取得するようにしてください。また、教員免許取得を希望する場合、専門科目群から教職の必修科目および「少年法」「家族関係論」などの教職の専門科目を履修してください。

3年生

「質問紙法実習」「心理学実験2」「臨床心理学ゼミ」で卒業研究の準備を進めます。また心理臨床の理論に関して、「カウンセリング論」「心理学的支援法（行動的アプローチ）」などの科目で学びます。研究テーマと進路選択を絞って、進路準備のための履修を計画してください。公務員や民間企業就職のためには、専門科目に加え、共通教養科目（キャリアスタディ科目群）などを選択して履修してください。3年生から4年生にかけては、「心理演習」「心理実習」（原則として公認心理師の国家試験受験資格取得希望者が履修）など心理臨床実践の実習を行い、また「教育・学校心理学」「地域支援論」「心理療法論（箱庭療法論）」「心理療法論（応用行動分析）」など、専門領域に特化した講義科目を選択できます。

4年生

これまでの研究の総決算として学士卒業研究にあたる「卒業論文」を作成します。その指導は「卒業研究ゼミ」において少人数制で行います。

履修モデル

・オリエンテーション時に指導します。

第2学年～第4学年：臨床心理士・公認心理師関連大学院を受験する場合のモデル

学年	セメスター	共通教養科目	学科基礎科目	学科専攻科目
2	3 4	外国語やICTリテラシーなど必修科目を中心に履修する	第1学年次から履修する	臨床心理学基礎ゼミ 1・2
3	5 6			臨床心理学ゼミ 1・2
4	7 8			卒業研究ゼミ 1・2 卒業論文
				心理学実験 1、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、感情・人格心理学、神経・生理心理学、社会・集団・家族心理学、発達心理学、心理的アセスメント、心理学的支援法（力動的アプローチ）、健康・医療心理学、産業・組織心理学、人体の構造と機能及び疾患、関係行政論、心理演習 1 など
				公認心理師の職責、心理学実験 2、障害者・障害児心理学、心理学的支援法（行動的アプローチ）、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、精神疾患とその治療、心理演習 2、心理実習 1・2 など
				* 学科専攻科目の全てを履修するのが望ましい

第1学年～第4学年：教員免許（中学「社会」、高校「公民」、特別支援学校教諭）を取得する場合のモデル

学年	セメスター	共通教養科目	学科基礎科目	学科専攻科目	教員免許の取得に関わる科目	
1	1 2	外国語やICTリテラシーなど必修科目を中心に履修する	第1学年次から履修する	アカデミック・スキルズ、心理学史、基礎心理学、臨床心理学史、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学統計法 1・2、心理学概論	教育原論、日本国憲法、スポーツ理論、スポーツ実技など	
2	3 4			臨床心理学基礎ゼミ 1・2	心理学実験 1、発達心理学、心理的アセスメント、思春期の心、非行臨床心理学、心理学外書講読など	学部学科の専門科目に加え、自由科目からも必要な科目を修得する
3	5 6			臨床心理学ゼミ 1・2	福祉心理学、教育・学校心理学、心理演習 2 など	
4	7 8			卒業研究ゼミ 1・2 卒業論文		教育実習（中・高） 教育実習指導（中・高） 教職実践演習（教諭） 教育実習（特支） 教育実習指導（特支）

※幼稚園教諭、小学校教諭などの免許状を通信教育課程の併修履修により取得する場合、第2～第4学年で必要な科目（教育実習含む）を修得する必要があります。

対象学部 仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

学部における公認心理師になるために必要な科目

公認心理師の国家試験受験資格を取得希望する学生は、下記の表を参照してください（なお、学部のみでの履修では公認心理師の国家試験受験資格を得ることはできません）。

法定基準		本学基準		
指定科目名		授業科目	単位 ※ 2	
			必修	選択
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	
2	心理学概論	心理学概論	2	
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	
4	心理学研究法	心理学研究法	2	
5	心理学統計法	心理学統計法 1	2	
		心理学統計法 2	2	
6	心理学実験	心理学実験 1	1	
		心理学実験 2	1	
7	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	
8	学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	
10	神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	
11	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	
12	発達心理学	発達心理学	2	
13	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	
15	心理学的支援法 ※ 1	心理学的支援法（力動的アプローチ）		2
		心理学的支援法（行動的アプローチ）		2
16	健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	
17	福祉心理学	福祉心理学	2	
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	
19	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	
22	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	
23	関係行政論	関係行政論	2	
24	心理演習	心理演習 1	1	
		心理演習 2	1	
25	心理実習	心理実習 1	1	
		心理実習 2	1	

※1 心理学的支援法（力動的アプローチ）又は心理学的支援法（行動的アプローチ）のうち、1科目2単位以上を選択し履修すること。

※2 ここでの必修単位・選択単位とは、卒業のための必修・選択の単位とは異なり、公認心理師の国家試験受験資格を得るための単位となります。

臨床心理学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考		
			必修	選択	自由					
学部 基 礎 目 録	教育原論	2	必			1		必修科目3科目5単位を履修すること。		
	教育相談の理論及び方法	2	必			3				
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	1	必			3				
学 科 基 礎 目 録	アカデミック・スキルズ	2	必			2		11科目22単位を履修すること。		
	心理学史	2	必			1				
	基礎心理学	2	必			1				
	心理学概論	2	必			1				
	臨床心理学史	2	必			1				
	臨床心理学概論	2	必			1				
	心理学研究法	2	必			1				
	心理学統計法 1	2	必			1				
	心理学統計法 2	2	必			2				
	臨床心理学基礎ゼミ 1	2	必			3				
	臨床心理学基礎ゼミ 2	2	必			4				
	専 門 学 科 目 録	公認心理師の職責	2		選		5			必修科目14単位を含み67単位以上を履修すること。
		心理学実験 1	1		選		3			
		心理学実験 2	1		選		5			
		知覚・認知心理学	2		選		3			
		学習・言語心理学	2		選		3			
		感情・人格心理学	2		選		3			
		神経・生理心理学	2		選		3			
		社会・集団・家族心理学	2		選		3			
		発達心理学	2		選		3			
		障害者・障害児心理学	2		選		5			
		心理的アセスメント	2		選		3			
心理学的支援法 (力動的アプローチ)		2		選		3				
心理学的支援法 (行動的アプローチ)		2		選		5				
健康・医療心理学		2		選		3				
福祉心理学		2		選		5				
教育・学校心理学		2		選		5				
司法・犯罪心理学		2		選		5				
産業・組織心理学		2		選		3				
人体の構造と機能及び疾病		2		選		3				
精神疾患とその治療		2		選		5				
関係行政論		2		選		3				
心理演習 1		1		選		3				
心理演習 2		1		選		5				
心理演習 3		1		選		5				
心理演習 4		1		選		5				
心理実習 1		1		選		6				
心理実習 2		1		選		7				
少年法		2		選		3				
家族関係論		2		選		3				
地域支援論		2		選		5				
カウンセリング論		2		選		5				
思春期の心		2		選		3				
非行臨床心理学		2		選		3				
子どもの心理臨床	2		選		3					
心理療法論 (箱庭療法論)	2		選		5					
心理療法論 (応用行動分析)	2		選		5					
臨床心理学特殊講義	2		選		5					
質問紙法実習	1		選		5					
統計リメディアル	2		選		7					
心理学外書講読	2		選		3					
臨床心理学ゼミ 1	2	必			5					
臨床心理学ゼミ 2	2	必			6					
卒業研究ゼミ 1	2	必			7					
卒業研究ゼミ 2	2	必			8					
卒業論文	6	必			8					

Ⅰ 教育目標

Ⅱ 履修一般

Ⅲ 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

Ⅳ

規程

臨床心理学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専門 科目 目	日本史概論	2		選		1		
	東洋史概論	2		選		1		
	西洋史概論	2		選		1		
	日本史特論	2		選		2		
	法律学概論 1	2		選		1		
	法律学概論 2	2		選		2		
	倫理学概論	2		選		1		
	哲学概論	2		選		2		
	宗教学概論	2		選		1		
	国際政治学	2		選		1		
	社会学概論	2		選		1		
	経済学概論	2		選		1		
	自然地理学 1	2		選		3		
	自然地理学 2	2		選		4		
地誌学 1	2		選		3			
地誌学 2	2		選		4			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

臨床心理学科 卒業論文提出までの手続き

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業論文」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7セメスターの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。
- ・第4学年第8セメスターの履修登録時に「卒業研究ゼミ1」の単位を修得済みでないと「卒業研究ゼミ2」の履修登録と「卒業論文」の履修登録ができません。

卒業論文題目 登録

題目登録の手続きについては、指導教員から「論文題目登録届」提出の指導を受け、所定の方法で「題目登録」手続きを行う必要があります。

学年暦で登録期限を確認するとともに、提出までの流れについて指導教員に確認することが必要です。

卒業論文 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式		
臨床心理 学科	横書き	不可	A4判縦 (左綴じ)	17枚以内	1200字(40字×30行)/1枚 文字:10.5ポイント 余白(mm):上30・下30・左30・右30 外字作成すること(手書き不可)

- ・原則として黒インクを使用し、ページ数を必ず記入

【指定表紙】・コクヨ・フラットファイル(フ-V10M) ※グレー色

【作 成】・正本と副本の2部作成が必要です。

- 〈 正 本 〉 1. 指導教員の提出許可を受けたら、「論文提出票」に捺印を受ける。
2. 清書した論文を指定表紙にとじ込み、表紙に「論文提出票」を貼付する。
- 〈 副 本 〉 1. 清書した論文の複写を正本と同様にとじ込む。
2. 清書に貼付した「論文提出票」の記載事項に準じて表紙に、年度・学期・開講科目名(卒業論文)、論文題目、学籍番号、氏名等を記入する。

【提 出】・正本は、「受理票」を添えて期限(学年暦参照)までに学生支援課へ提出してください。

- ・副本は、指導教員へ直接提出してください。

卒業論文 口頭試問

口頭試問は、提出された論文に対して主査(指導教員)および副査の教員で行う口述試験(30分程度)です。したがって口頭試問に不合格の場合、または口頭試問を欠席した場合は、卒業論文の単位を修得することができません。

- ・実施日時および会場は、3月卒業の場合1月下旬、9月卒業の場合8月上旬にB-netにてお知らせします。なお、日時の変更はできません。
- ・正本は卒業式当日に返却します。

社会学部 現代社会学科

現代社会学科の教育方針

人材養成の目的

現代社会学科は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、社会学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 社会学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ①変転する現代社会の多様な現象や問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができるよう、社会学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
 - ②グローバル化し多文化が共存する世界の中で、異なる文化や宗教に開かれた態度をとり、地域の課題に的確な判断を下すことができるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
 - ③差別やマイノリティをめぐる課題など、多様な社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与できるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
 - ④現代社会で必要な情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手および送り手としてコミュニケーションできるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができる
- D2** 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる
- D3** 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

現代社会学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。学科専攻科目では文化・国際コース、共生・臨床社会コース、情報・メディアコースの3コースを設けています。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

社会学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「社会学史(古典)」「社会学史(現代)」、学科専攻科目「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」を提供し、文化・国際コース、共生・臨床社会コース、情報・メディアコースからなる専門教育を体系的に編成します。

- ①変転する現代社会の多様な現象や問題に対して、自己を見失わず常識にとらわれない柔軟な見方ができるよう、社会学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得するため、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」および学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「社会学史(古典)」「社会学史(現代)」を提供する
- ②グローバル化し多文化が共存する世界の中で、異なる文化や宗教に開かれた態度をとり、地域の課題に的確な判断を下すことができるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史(古典)」「社会学史(現代)」および学科専攻科目として「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」「文化社会学」「国際社会論」を提供する
- ③差別やマイノリティをめぐる課題など、多様な社会問題について幅広い知見を有し、共生社会の実現に寄与できるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史(古典)」「社会学史(現代)」および学科専攻科目として「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」「共生の社会学」「臨床社会学」を提供する
- ④現代社会で必要な情報リテラシーを身につけ、情報の賢明な受け手および送り手としてコミュニケーションできるよう、社会学の領域の深い知識や技能を修得・活用し、分析・表現することができるようにするために、学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「社会学史(古典)」「社会学史(現代)」および「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、学科専攻科目として「情報・メディアとコミュニケーション」「情報社会論」を提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うプロジェクト科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③プレゼンテーションによる評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

現代社会学科の教育内容

1年生

共通教養科目で建学の精神に基づく科目や人間力の基礎をなすリテラシーに関する科目、語学に関する科目を受講し、幅広い教養と基礎的な語学力の獲得を目指します。アカデミックスキルを身につける「アカデミック・スキルズ」や「スタディ・スキルズ」は必修で、専門分野を学ぶための基礎をつくります。そのほか、必修である「現代社会論」と「公共性と社会」を含む学部基幹科目を受講し、社会学部に共通する基礎的知識・視点を身につけます。

2年生

本格的に専門科目の履修が始まります。必修となっている「社会学史」の受講により社会学の基礎的知識を身につけ、学科基礎科目や「文化・国際」「共生・臨床社会」「情報・メディア」の3コースから関心のあるコースを中心に専門的な学科専攻科目を受講します。関連科目の「プロジェクト演習」は少人数クラスで、複数の研究テーマの中から任意のプロジェクトを選択して、問題発見や課題解決のための方法を学びます。「京都の産業」では地域社会の現況について洞察を深めます。

3年生

「現代社会学ゼミ」の履修が始まります。テキストの読解、グループ・ワーク、各自が調べたことの発表など、ゼミの授業形態は教員によって様々ですが、ゼミの履修をとおして各自の問題意識を深め、主体的に学習する態度を身につけます。それと並んで、学科専攻科目や「グローバル人材PBL」、「社会調査士」等の資格関係の科目も受講し、現代社会の状況・諸課題、それへの対応策などを学び、社会学の理解をより深めます。

4年生

これまでに身につけてきた、幅広い教養、課題発見能力、論理的思考力を活用し、「現代社会学卒業研究ゼミ」で教員の指導を受けながら、卒業レポートを完成させます。研究成果を発表する機会もあり、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の涵養に役立ちます。

系列区分	卒業所要単位修得にかかる要件		修得 単位	卒業所要単位			総計
	必要科目等	必要単位		小計	中計	大計	
共通 教養 科目	共通教養科目より 30 単位						
	仏教・自校教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・フッタと法然 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	グローバル科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 「必修外国語」科目の 1 語種 8 単位 ・IntensiveReading1 ・IntensiveReading2 ・IntegratedCommunicationSkills1 ・IntegratedCommunicationSkills2 ・IntegratedCommunicationSkills3 ・IntegratedCommunicationSkills4 ・IntermediateReading1 ・IntermediateReading2 ・中国語1 ・中国語2 ・中国語3 ・中国語4 ・中国語5 ・中国語6 ・中国語7 ・中国語8 ・韓国語1 ・韓国語2 ・韓国語3 ・韓国語4 ・韓国語5 ・韓国語6 ・韓国語7 ・韓国語8 <input type="checkbox"/> 「選択外国語」科目 科目の選択については p.56 を必ず参照のこと 0単位以上 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 「国際教養」科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 「海外研修」科目 0単位以上 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	データサイエンス科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 2 単位 ・ICT リテラシー 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	初年次教育科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 4 単位 ・スタディ・スキルズ 2単位 ・キャリア・スキルズ1 1単位 ・キャリア・スキルズ2 1単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	キャリアスタディ科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	プロジェクト科目群 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	自己形成科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 文化と芸術を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 地域と社会を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> 人間と自然を学ぶ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	スポーツ <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	大学コンソーシアム <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	専門科目より 94 単位以上						
	学部基幹科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 4 単位 ・現代社会論 2単位 ・公共性と社会 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 4単位以上						
	学科基礎科目 <input checked="" type="checkbox"/> 必修科目の 6 単位 ・アカデミック・スキルズ 2単位 ・社会学史(古典) 2単位 ・社会学史(現代) 2単位 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 12単位以上						
	学科専攻科目 <input checked="" type="checkbox"/> 全てのコースにおいて履修が必要な 12 単位 ・現代社会学ゼミ1 2単位 ・現代社会学ゼミ2 2単位 ・現代社会学卒業研究ゼミ1 2単位 ・現代社会学卒業研究ゼミ2 2単位 ・卒業レポート 4単位 ①文化・国際コース ・文化社会学 4単位 ・国際社会論 4単位 ・任意で選択の科目 12単位以上 ②共生・臨床社会コース ・共生の社会学 4単位 ・臨床社会学 4単位 ・任意で選択の科目 12単位以上 ③情報・メディアコース ・情報・メディアとコミュニケーション 4単位 ・情報社会論 4単位 ・任意で選択の科目 12単位以上 <input checked="" type="checkbox"/> ①②③のコースすべてから任意で選択の科目 10単位以上						
	関連科目 <input type="checkbox"/> 任意で選択の科目 0単位以上						
	小計・中計を 満たし 30単位 ※卒業所要 単位には 30単位ま でしか算 入できま せん。 科目は pp.56-57参照						
	小計・ 中計・ 大計を 満たし 124単位 以上						
	専門 科目						
	小計・ 中計を 満たし 94 単位 以上						
	小計を 満たし 38 単位 以上						

※自由科目は卒業所要単位に算入できません。

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

現代社会学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別 必修 選択 自由	履修開始 Semester	GPA 対象	備考	
学部 基幹 科目	現代社会論	2	必		2	必修科目2科目4単位および選択科目のうち2科目4単位以上、合計4科目8単位以上を履修すること。	
	公共性と社会	2	必		1		
	現代思想	2		選	1		
	環境社会システム論	2		選	1		
	現代日本社会史	2		選	2		
	現代市民論	2		選	2		
	20世紀の歴史	2		選	1		
	アカデミック・スキルズ	2	必		2		必修科目3科目6単位および選択科目のうち2科目4単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。
	社会学史 (古典)	2	必		3		
	社会学史 (現代)	2	必		4		
	現代社会学講読	2		選	3		
	社会学原論	2		選	3		
	社会思想史	2		選	3		
	社会心理学	2		選	3		
	家族社会学	2		選	3		
	文化人類学	2		選	3		
	コミュニケーションと社会	2		選	3		
	学 科 基 礎 科 目	社会調査論 1	2		選	3	必修科目3科目6単位および選択科目のうち2科目4単位以上、合計9科目18単位以上を履修すること。
		社会調査論 2	2		選	4	
		現代社会学特殊講義 1	2		選	3	
現代社会学特殊講義 2		2		選	4		
現代社会学外国文献研究 1		2		選	3		
現代社会学外国文献研究 2		2		選	4		
現代社会学ゼミ 1		2	必		5	5科目12単位を履修すること。	
現代社会学ゼミ 2		2	必		6		
現代社会学卒業研究ゼミ 1		2	必		7		
現代社会学卒業研究ゼミ 2		2	必		8		
卒業レポート		4	必		8		
専 門 科 目		○文化社会学	2		選	3	「文化・国際コース」・「共生・臨床社会コース」・「情報・メディアコース」のいずれか1コースを選択し、選択したコースのうち○印科目を含み8科目16単位以上を履修したうえで、合計13科目26単位以上を履修すること。
		現代文化論	2		選	3	
		消費文化論	2		選	3	
		社会意識論	2		選	3	
		宗教社会学	2		選	3	
		現代宗教論	2		選	3	
		○国際社会論	2		選	3	
		現代国家論	2		選	3	
		異文化理解	2		選	3	
	エリアスタディ	2		選	3		
	学 科 専 攻 科 目	グローバル化論	2		選	3	「文化・国際コース」・「共生・臨床社会コース」・「情報・メディアコース」のいずれか1コースを選択し、選択したコースのうち○印科目を含み8科目16単位以上を履修したうえで、合計13科目26単位以上を履修すること。
		文化・国際特殊講義 1	2		選	3	
		文化・国際特殊講義 2	2		選	3	
		文化・国際特殊講義 3	2		選	3	
		文化・国際特殊講義 4	2		選	3	
		○共生の社会学	2		選	3	
		社会階層論	2		選	3	
		ジェンダー論	2		選	3	
		マイノリティ論	2		選	3	
		○臨床社会学	2		選	3	
専 門 科 目	社会病理学	2		選	3	「文化・国際コース」・「共生・臨床社会コース」・「情報・メディアコース」のいずれか1コースを選択し、選択したコースのうち○印科目を含み8科目16単位以上を履修したうえで、合計13科目26単位以上を履修すること。	
	逸脱行動論	2		選	3		
	家族病理と臨床	2		選	3		
	学校病理と臨床	2		選	3		
	地域病理と臨床	2		選	3		
	保健医療社会学	2		選	3		
	カウンセリング論	2		選	3		
	共生・臨床社会特殊講義 1	2		選	3		
	共生・臨床社会特殊講義 2	2		選	3		
	共生・臨床社会特殊講義 3	2		選	3		
共生・臨床社会特殊講義 4	2		選	3			
情報・ メディア コース	○情報・メディアとコミュニケーション	2		選	3	「文化・国際コース」・「共生・臨床社会コース」・「情報・メディアコース」のいずれか1コースを選択し、選択したコースのうち○印科目を含み8科目16単位以上を履修したうえで、合計13科目26単位以上を履修すること。	
	○情報社会論	2		選	3		
	マスコミ論	2		選	3		
	地域情報論	2		選	3		
	広告・広報論	2		選	3		
	メディア・リテラシー	2		選	3		

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

福祉

その他

IV
規程

現代社会学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別 必修 選択 自由	履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
専 門 科 目	情報・メディアコース					
	デジタル・メディア論	2	選	3		
	メディア文化論	2	選	3		
	情報通信ネットワーク論	2	選	3		
	情報システム論	2	選	3		
	情報・メディア特殊講義 1	2	選	3		
	情報・メディア特殊講義 2	2	選	3		
	情報・メディア特殊講義 3	2	選	3		
	情報・メディア特殊講義 4	2	選	3		
	情報・メディア実習 1	1	選	3		
	情報・メディア実習 2	1	選	4		
	日本史概論	2	選	1		
	東洋史概論	2	選	1		
	西洋史概論	2	選	1		
	日本史特論	2	選	2		
	人文地理学 1	2	選	3		
	人文地理学 2	2	選	4		
	自然地理学 1	2	選	3		
	自然地理学 2	2	選	4		
	地誌学 1	2	選	3		
	地誌学 2	2	選	4		
	社会学概論	2	選	1		
	法学概論 1	2	選	1		
	法学概論 2	2	選	2		
	倫理学概論	2	選	1		
	哲学概論	2	選	2		
	宗教学概論	2	選	1		
	経済学概論	2	選	1		
	プロジェクト演習	2	選	3		
	社会調査法演習 1	2	選	5		
	社会調査法演習 2	2	選	5		
	基礎統計学 1	2	選	3		
	基礎統計学 2	2	選	4		
	データ解析演習	2	選	6		
	調査研究演習 1	2	選	5		
	調査研究演習 2	2	選	6		
	調査研究演習 3	1	選	5		
	グローバル人材 PBL	2	選	5		
	地域経済論	2	選	3		
	NPO 法人マネジメント論	2	選	3		
	中小企業論	2	選	3		
	女性史	2	選	3		
	現代社会と女性	2	選	3		
	情報産業と職業	2	選	3		
	情報メディアと社会	2	選	3		
	ジャーナリズム論	2	選	3		
放送論	2	選	3			
情報システム実習	1	選	5			
情報ビジネス	2	選	5			
情報犯罪論	2	選	3			
情報通信ネットワーク実習	1	選	5			
コンピュータ論	2	選	1			
京都の産業	2	選	3			
国際政治学	2	選	1			
日本仏教史 (古代・中世)	2	選	1			
日本仏教史 (近世・近代)	2	選	2			
中国仏教史	2	選	2			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

現代社会学科 卒業レポート提出までの手続き

履修登録

第4学年第8 Semesterにおいて「卒業レポート」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7 Semesterの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「現代社会学卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。

卒業レポート 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式	
現代社会学科	横書き	不可	A4 判縦 (上綴じ)	1,200字(40×30行)/1枚 10枚(12,000字)～17枚(20,000字) 文字ポイント・余白・外字等の詳細は、 指導教員の指示を受けること

- ・作成にあたっては、指導教員の指示にしたがってください。

- 【提出】**
- ・レポートの体裁は、「レポート提出票」を表紙とし（p.40参照）、期限（学年暦参照）までに学生支援課へ提出してください。
 - ・口頭試問は実施しません。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

社会学部 公共政策学科

公共政策学科の教育方針

人材養成の目的

公共政策学科は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、公共政策をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力を持ち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 公共政策学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
- ①社会、特に地域社会の課題に取り組むために、公共政策の領域に必要な政治学、経済学、法学および関連する学問に関する基礎的な知識や視点を修得している
 - ②地域社会の担い手としての自覚をもって地域の課題に積極的に取り組む意志と実行力を備えるために、公共政策の領域の深い知識や技能を修得し、活用できる
 - ③己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動できるよう、公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
 - ④社会、特に地域社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる
- D2** 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる
- D3** 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成方針＞

公共政策学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。学科専攻科目では地域政治コース、地域経済コースの2コースを設けています。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性、および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系性、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)などを考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

公共政策学の領域における専門的な知識・技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決のために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

- ①社会、特に地域社会の課題に取り組むために、公共政策学の領域に必要な政治学、経済学、法学および関連する学問に関する基礎的な知識や視点を修得できるよう、学部基幹科目「現代社会論」「公共性と社会」および学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」を提供する
- ②地域社会の担い手としての自覚をもって地域の課題に積極的に取り組む意志と実行力を備えるために、公共政策の領域の深い知識や技能を修得し、活用できるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および地域政治コース・地域経済コースの学科専攻科目を提供する
- ③己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動できるよう、公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および学科専攻科目「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、地域政治コース、地域経済コースを提供する
- ④社会、特に地域社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができるようにするため、学科基礎科目「アカデミック・スキルズ」「公共政策学(概論)」「公共政策学(各論)」および学科専攻科目「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、地域政治コース、地域経済コースを提供する

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習・実習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合うプロジェクト科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

<学修成果の評価方針>

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③プレゼンテーションによる評価
- ④授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

公共政策学科の教育内容

1年生

共通教養科目で建学の精神に基づく科目や人間力の基礎をなすリテラシーに関する科目、語学に関する科目などを受講し、幅広い教養と基礎的な語学力の獲得を目指します。アカデミックスキルを身に付ける「アカデミック・スキルズ」や「スタディ・スキルズ」は必修で、専門分野を学ぶための4年間の学びの基礎をつくりまします。そのほか専門科目「法学入門1」「法学入門2」「経済学入門1」「経済学入門2」などで政治学ないし経済学のための基礎を学びます。

2年生

本格的に専門科目の履修が始まります。4年生までに、学科専攻科目の2コースから任意で選択科目26単位以上、ただし選択したコースから「地域政策論」または「地域経済論」を含む20単位以上の履修が必要です。希望する進路に対応したキャリア形成のために、「公務員演習」や「社会調査論」を履修することができるようになります。関連科目の「プロジェクト演習」は少人数クラスで、複数の研究テーマの中から任意のプロジェクトを選択して、問題発見や課題解決のための方法を学びます。「京都の産業」では地域社会の現況について洞察を深めます。

3年生

専門性を深めるため、引き続き学科専攻科目を履修します。2年生までに獲得した幅広い知識を基礎に、特殊講義科目や「グローバル人材PBL」を履修することによって、総合的かつグローバルな視点から地域社会の問題発見や課題解決に取り組むことができます。「公共政策学ゼミ」では、より専門的な立場から現代社会の課題発見や政策形成のための学修に努め、プレゼンテーションのために必要な知識や能力を修得することができます。

4年生

引き続き専門科目の履修に努めます。「公共政策学卒業研究ゼミ」では、これまでに培った専門的知識や課題発見能力を基に卒業レポートを作成します。これによって論理的思考力や説得力をさらに身に付け、社会人として必要な、専門性に裏付けられた幅広い教養と技能の獲得が促されることとなります。

公共政策学科 履修科目表 (1/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 Semester	GPA 対象	備 考		
			必修	選択	自由					
Ⅰ 教育 目標 Ⅱ 履修 一般 Ⅲ 教育 課程 共通 仏教 日文 中国 英米 歴史 歴史文 教育 幼教 臨床 現社 公共 社福 その他 Ⅳ 規程	学部 基幹 科目	現代社会論	2	必		2		必修科目2科目4単位および選択科目のうち2科目4単位以上を履修すること。		
		公共性と社会	2	必		1				
		現代思想	2		選		1			
		環境社会システム論	2		選		1			
		現代日本社会史	2		選		2			
		現代市民論	2		選		2			
	学 科 基 礎 科 目	20世紀の歴史	2		選		1			
		アカデミック・スキルズ	2	必		2		必修科目3科目6単位および選択科目のうち6科目12単位以上を履修すること。		
		公共政策学(概論)	2	必		3				
		公共政策学(各論)	2	必		4				
		法学入門1	2		選		1			
		法学入門2	2		選		2			
		経済学入門1	2		選		1			
		経済学入門2	2		選		2			
		公共政策学特殊講義1	2		選		3			
		公共政策学特殊講義2	2		選		4			
		公共政策学外国文献研究1	2		選		3			
		公共政策学外国文献研究2	2		選		4			
		公共政策学講読	2		選		3			
		公共政策学フィールドワーク入門	2		選		3			
		公共政策学フィールドワーク実習1	1		選		5			
	公共政策学フィールドワーク実習2	1		選		6				
	専 門 科 学 科 目	共 通	公共政策学ゼミ1	2	必		5		5科目12単位を履修すること。	
			公共政策学ゼミ2	2	必		6			
			公共政策学卒業研究ゼミ1	2	必		7			
			公共政策学卒業研究ゼミ2	2	必		8			
		地 域 政 治 コ ー ス	卒業レポート	4	必		8		「地域政治コース」・「地域経済コース」のいずれかを選択し、選択したコースのうち○印科目を含み20単位以上を履修したうえで、合計13科目26単位以上を履修すること。	
			行政法(総論)	2		選		3		
			行政法(行政救済法・行政組織法)	2		選		3		
			民法(総則・物権)	2		選		3		
			民法(債権・親族・相続)	2		選		3		
			労働法(集団的労働関係法)	2		選		3		
			労働法(個別的労働関係法)	2		選		3		
			社会保障法	2		選		3		
			地域社会学	2		選		3		
			刑法	2		選		5		
商法			2		選		5			
○地域政策論	2		選		3					
地 域 経 済 コ ー ス	地方自治法	2		選		3				
	行政学(概論)	2		選		3				
	行政学(各論)	2		選		3				
	政治社会学	2		選		3				
	政治過程論	2		選		3				
	住民自治論	2		選		3				
	コミュニティ論	2		選		3				
	地域政治特殊講義1	2		選		3				
	地域政治特殊講義2	2		選		3				
	地域政治特殊講義3	2		選		3				
	地域政治特殊講義4	2		選		3				
	ミクロ経済学1	2		選		3				
	ミクロ経済学2	2		選		3				
	マクロ経済学1	2		選		3				
	マクロ経済学2	2		選		3				
地方財政論	2		選		3					
財政学	2		選		3					
公共経済学	2		選		3					
○地域経済論	2		選		3					
社会的企業論	2		選		3					
社会政策	2		選		3					
会計学	2		選		5					
経営学	2		選		5					
環境政策論	2		選		3					
環境社会学	2		選		3					
環境技術論	2		選		3					
地球環境論	2		選		3					

公共政策学科 履修科目表 (2/2)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	地域経済コース	環境評価論	2	選		3		
		都市環境論	2	選		3		
		都市計画論	2	選		3		
		地域経済特殊講義1	2	選		3		
		地域経済特殊講義2	2	選		3		
		地域経済特殊講義3	2	選		3		
		地域経済特殊講義4	2	選		3		
		日本史概論	2	選		1		
		東洋史概論	2	選		1		
		西洋史概論	2	選		1		
		日本史特論	2	選		2		
		人文地理学1	2	選		3		
		人文地理学2	2	選		4		
		自然地理学 1	2	選		3		
		自然地理学 2	2	選		4		
		地誌学1	2	選		3		
		地誌学2	2	選		4		
		法学概論1	2	選		1		
		法学概論2	2	選		2		
		哲学概論	2	選		2		
		宗教学概論	2	選		1		
		倫理学概論	2	選		1		
		政治学概論	2	選		1		
		経済学概論	2	選		1		
		社会学概論	2	選		1		
		公務員演習1 (数的推理・判断推理)	2	選		3		
		公務員演習2 (文章理解・資料解釈)	2	選		3		
		公務員演習3 (社会・人文・自然)	2	選		3		
		中小企業論	2	選		3		
		プロジェクト演習	2	選		3		
		異文化理解	2	選		3		
		グローバル化論	2	選		3		
		コミュニケーションと社会	2	選		3		
		共生の社会学	2	選		3		
		グローバル人材PBL	2	選		5		
		社会調査論1	2	選		3		
		社会調査論2	2	選		4		
		社会調査法演習1	2	選		5		
		社会調査法演習2	2	選		5		
		基礎統計学1	2	選		3		
		基礎統計学2	2	選		4		
		データ解析演習	2	選		6		
		調査研究演習1	2	選		5		
		調査研究演習2	2	選		6		
		調査研究演習3	1	選		5		
		国際政治学	2	選		1		
		NPO法人マネジメント論	2	選		3		
	民法概論	2	選		5			
	労働法概論	2	選		5			
	刑法概論	2	選		5			
	京都の産業	2	選		3			
	日本仏教史 (古代・中世)	2	選		1			
	日本仏教史 (近世・近代)	2	選		2			
	中国仏教史	2	選		2			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史
- 歴史
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

公共政策学科 卒業レポート提出までの手続き

履修登録

第4学年第8 Semesterにおいて「卒業レポート」の履修登録が必要です。ただし、以下の条件があるので留意してください。

- ・第4学年第7 Semesterの履修登録時に卒業見込み（卒業所要単位を80単位以上修得）がないと「公共政策学卒業研究ゼミ1」の履修登録ができません。

卒業レポート 提出

【書式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式	
公共政策学科	横書き	不可	A4 判縦 (上綴じ)	1,200字(40字×30行)/1枚 10枚(12,000字)～17枚(20,000字) 文字ポイント・余白・外字等の詳細は、 指導教員の指示を受けること

- ・作成にあたっては、指導教員の指示にしたがってください。

【提出】・レポートの体裁は、「レポート提出票」を表紙とし（p.40参照）、期限（学年暦参照）までに学生支援課へ提出してください。

- ・口頭試問は実施しません。

社会福祉学部 社会福祉学科

社会福祉学科の教育方針

人材養成の目的

社会福祉学科は、多様な人々と安心して暮らせる地域社会のために、相互理解や権利意識を持ち、福祉の歴史や原理を社会に活かす力を身につけるとともに、自分の価値を大切にしつつ、異なる価値観を持つ相手とも対話を重ね、社会の課題を新たな可能性の機会として捉えられる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

- D1** 多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会の様々な領域で活かすことができる
- ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができる
 - ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができる
 - ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに次の社会を展望できる
- D2** 自らの価値を大切にしながら、価値が相違する相手とも丁寧に対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができる
- ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができる
 - ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができる
 - ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができる
- D3** 誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができる

以上に示す社会福祉学部社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<教育課程の編成方針>

社会福祉学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系的のある教育課程（カリキュラム）として編成します。

その際、カリキュラムの構造を分かりやすく示すだけでなく、科目の順次性および科目内容の難易度については科目ナンバリングを、科目間の関連性やカリキュラムの構造についてはカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップなどのツールを提供し、学生が自らの学修目的にあわせて、カリキュラムの順次性、体系的、および各科目の特性や内容、科目の開講時期(配当セメスター)など

Ⅰ

教育
目標

Ⅱ

履修
一般

Ⅲ

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

Ⅳ

規程

を考慮しながら主体的に履修できるよう配慮します。

また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。

<教育課程実施の方針>

多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会のさまざまな領域で活かすことができるよう、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目等からなる専門教育課程を体系的に編成します。

- ①自分とは異なる立場の考え方を理解することができるよう、学部基幹科目として「現代の社会問題とアクション」「福祉とケアの倫理」を提供する
- ②社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができるよう、学部基幹科目として「人権と福祉」、学科基礎科目として「社会保障論」を提供する
- ③培われてきた福祉の歴史や原理をもとに社会を展望できるよう、学科基礎科目として「社会福祉史」「社会福祉原論」を提供する

自らの価値を大切にすると同時に、価値が異なる相手とも丁寧な対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができるよう、社会福祉の実践に基づいた教育課程を提供します。

- ①自らの意思や感情を他者に応じて表現することができるよう、学科基礎科目として「地域共創演習」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する
- ②生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができるよう、学科基礎科目として「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」、学科専攻科目として「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する
- ③社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができるよう、学科基礎科目として「若者支援論」「ソーシャル・ビジネス論」、学科専攻科目として「地域共創演習」をそれぞれ提供する
- ④誰もが平等に扱われ自由に安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができるよう、学科基礎科目・学科専攻科目・関連科目において各資格・免許状に応じた科目を提供する

<学修成果の評価方針>

授業を通じて修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下の4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。

- ①筆記試験による評価
- ②レポート試験による評価
- ③実技試験または実習による評価
- ④授業への取り組み状況や授業内小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

社会福祉学科の教育内容

社会福祉学部社会福祉学科のカリキュラムは、世の中（私たちが生きる社会）とそこで生活する人々への「まなざし」を深めつつ、専門的な学びが積み重なるよう設定しています。以下、学びの道すじを示しますので、4年間での自分自身の成長や変化を期待したり、立ちどまって見つめ直したりする際の手がかりにしてください。

1年生

すべての学生が「学部基幹科目」（3科目）を必ず履修し、社会問題と人権のつながりを福祉の観点でとらえながら、個人の生活を守り支えていくための基本的視点を学びます。あわせて福祉の対象が、実に広くかつ生活と密接につながっていることを、「学科基礎科目」の履修を通じて理解していきます。また少人数クラスのゼミでは、大学での学びの土台になる物事を読み解く力（リテラシー）とその内容を的確に表現する方法を確立していきます。こうした学部学科独自の学びを支えるものとして、「共通教養科目」を履修します。

2年生

1年生での学びの成果をもとにしながら、一人ひとりの関心を掘り下げていきます。「学科基礎科目」の履修では分野ごとの大前提となる内容や考え方を押さえ、「学科専攻科目」の履修では領域ごとの重点事項を具体的な方法論とあわせる形で学んでいきます。また少人数クラスのゼミではフィールドワーク等を通じて、地域課題の発見から解決に向けた実践的アプローチを学んだり（「地域共創演習1・2」）、個人の豊かな生活を保障する福祉援助職に求められる資質を身につけたりします（「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）1」）。なお、学部学科で取得可能な資格や免許を志望する人は、現場での実習および事前・事後の学習をもとに、責任と実感の伴った専門的な認識を確かにしていきます。

3年生

1・2年生での学びを基盤にした上で、一人ひとりの学びの全体像を内容ごとの関連性から意識できるよう「学科基礎科目」と「学科専攻科目」を履修していきます。あわせて「共通教養科目（自己形成科目群）」を受講する中で、学部学科での専門的な学びとそれを支える見識のつながりを一段階上の水準に高めていきます。また少人数クラスのゼミでは一人ひとりの進路の見通しに応じて、2年生までの到達点を踏まえた専門的学習を進めていきます（「地域共創演習3」または「ソーシャルワーク演習（専門）2」）。なお、学部学科で取得可能な資格や免許を志望する人は、現場での実習および事前・事後の学習をもとに、責任と実感の伴った専門的な認識を確かにしていきます。

Ⅰ

教育
目標

Ⅱ

履修
一般

Ⅲ

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

Ⅳ

規程

4年生

1年生で学んだ基本的事項（「社会問題と人権のつながりを福祉の観点でとらえながら、個人の生活を守り支えていくための基本的視点」、「福祉の対象が、実に広くかつ生活と密接につながっていること」）が、相互に関連し合う専門的な学習を通じて、社会で生活する個人の権利を尊重する一市民としての成長につながっていくよう、一人ひとりの進路に沿った4年生での学びを進めていきます。また少人数クラスのゼミ（卒業研究ゼミ1・2）では、社会福祉学部社会福祉学科での学びの成果を、各自の関心に応じながら卒業研究にまとめるなど論理的かつ具体的な形で深めていきます。なお、学部学科で取得可能な資格や免許を志望する人は、現場での実習および事前・事後の学習をもとに、責任と実感の伴った専門的な認識を確かにしていきます。

免許・資格の取得について（『履修要項（免許・資格）』の該当ページを参照のこと）

あなたは何のために免許・資格の取得を考えていますか。とりあえずといった安易な気持ちでの履修や、多くの免許・資格の取得だけが目的の履修は避けてください。どのような福祉専門職や教員として活躍したいのかという専門職像・教師像を抱きながら履修するよう努めてください。

社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の資格は、学部学科の学びを深めながら取得を目指すことができます。これらの資格には現場での実習が必須です。その上で、保育士資格は所定の課程において単位を修得すれば、卒業と同時に資格を取得することができます。社会福祉士、精神保健福祉士は、さらに国家試験に合格して初めて資格を取得することができます。したがって明確な目的意識がない場合には、資格取得のための履修継続が困難となることが予想されます。なお、精神保健福祉士と保育士の両方を取得することはできません。

教員免許（中学「社会」、高校「地理・歴史」「公民」「福祉」、特別支援）も、学部学科の学びを深めながら取得を目指すことができます。これらの免許には現場での教育実習が必須です。その上で、所定の課程において単位を修得すれば、卒業と同時に免許を取得することができますが、各自自治体で実施される教員採用試験に合格しなければ学校現場で継続的に働くことは困難となります。

なお、それぞれの免許・資格に応じて各種ガイダンスが実施されますので、各自で連絡事項を確認し必ず参加するようにしてください。

社会福祉学科 履修科目表 (1/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別	履修開始	GPA	備考				
			必修 選択 自由	Semester	対象					
I 教育目標	現代の社会問題とアクション	2	必		1	3科目6単位を履修すること。				
	人権と福祉	2	必		1					
	福祉とケアの倫理	2	必		1					
	アカデミック・スキルズ	2	必		2					
	II 履修一般	社会福祉原論	2	必			2	必修科目3科目6単位および選択科目のうち「地域共創演習1.2」または「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習(専門)1」のいずれか2科目4単位を含み9科目18単位以上、合計12科目24単位以上を履修すること。		
		社会福祉史	2	必			2			
		ソーシャルワークの基盤と専門職	2		選		1			
		精神保健福祉の原理1	2		選		1			
		精神保健の課題と支援1	2		選		1			
		保育の心理学	2		選		1			
		教育原論	2		選		1			
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2		選		2			
		児童・家庭福祉論	2		選		2			
		障害児者福祉論	2		選		2			
		高齢者福祉論	2		選		2			
		精神保健福祉の原理2	2		選		2			
		精神保健の課題と支援2	2		選		2			
		人間発達論	2		選		2			
		現代家族論	2		選		2			
		国際福祉論	2		選		2			
		仏教福祉論	2		選		2			
		保育原理	2		選		2			
		地域共創演習1	2		選		3			
		ソーシャルワーク演習	2		選		3			
		ソーシャルワークの理論と方法1	2		選		3			
		社会保障論1	2		選		3			
		貧困に対する支援	2		選		3			
		社会的養護1	2		選		3			
		若者支援論	2		選		3			
		社会福祉法	2		選		3			
		地域共創演習2	2		選		4			
		ソーシャルワーク演習(専門)1	2		選		4			
		ソーシャルワークの理論と方法2	2		選		4			
		社会保障論2	2		選		4			
		教育と福祉	2		選		4			
		ソーシャル・ビジネス論	2		選		4			
		III 教育課程	卒業研究ゼミ1	2	必				7	必修科目2科目4単位および選択科目のうち「地域共創演習3」または「ソーシャルワーク演習(専門)2」のいずれか1科目2単位を含み9科目18単位以上、合計11科目22単位以上を履修すること。
			卒業研究ゼミ2	2	必				8	
			卒業レポート	4			選		8	
			地域福祉と包括的支援体制1	2			選		3	
			保健医療と福祉	2			選		3	
			福祉行財政と自治体福祉政策	2			選		3	
日本社会福祉史			2		選	3				
欧米社会福祉史			2		選	3				
心身ケアとウェルビーイング			2		選	3				
児童ケア論			2		選	3				
障害児者ケア論	2			選	3					
高齢者ケア論	2			選	3					
社会政策論	2			選	3					
精神医学1	2			選	3					
障害児臨床論	2			選	3					
社会福祉調査の基礎	2			選	3					
地域福祉と包括的支援体制2	2			選	4					
精神医学2	2			選	4					
介護概論	2			選	4					
地域共創演習3	2			選	5					
ソーシャルワーク演習(専門)2	2			選	5					
ソーシャルワークの理論と方法3	2			選	5					
ソーシャルワークの理論と方法(専門)1	2			選	5					
医学概論	2			選	5					
福祉サービスの組織と経営	2			選	5					
権利擁護を支える法制度	2			選	5					
刑事司法と福祉	2			選	5					
精神保健福祉制度論	2			選	5					
教育福祉演習	2			選	6					
ソーシャルワーク演習(専門)3	2			選	7					
社会福祉の原理と政策1	2			選	7					
ソーシャルワークの理論と方法4	2			選	7					

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

社会福祉学科 履修科目表 (2/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) 2	2		選		7		
	精神障害リハビリテーション論	2		選		7		
	ソーシャルワーク演習 (専門) 4	2		選		8		
	社会福祉の原理と政策2	2		選		8		
	精神保健福祉援助演習1	2		選		5		
	精神保健福祉援助演習2	2		選		6		
	精神保健福祉援助演習3	2		選		7		
	保育内容の理解と方法 [音楽表現]	1		選		2		
	保育内容の理解と方法 [身体表現]	1		選		2		
	保育者論	2		選		3		
	子どもの保健	2		選		3		
	保育内容総論	1		選		3		
	保育内容演習 [環境]	1		選		3		
	保育内容演習 [人間関係]	1		選		3		
	保育内容演習 [言葉]	1		選		3		
	障害児保育	2		選		3		
	子どもの健康と安全	1		選		3		
	子ども家庭支援の心理学	2		選		3		
	乳児保育1	2		選		3		
	保育内容の理解と方法 [造形表現]	1		選		3		
	保育内容の理解と方法 [児童文化]	1		選		3		
	保育内容演習 [健康]	1		選		3		
	保育内容演習 [表現]	1		選		3		
	子どもの理解と援助	1		選		3		
	子育て支援	1		選		3		
	保育の計画と評価	2		選		5		
	子ども家庭支援論	2		選		5		
	子どもの食と栄養	2		選		5		
	乳児保育2	1		選		5		
	社会的養護2	1		選		5		
	保育実践演習	2		選		8		
	教育心理学	2		選		1		
	発達心理学	2		選		3		
	心理学と心理的支援	2		選		3		
	社会学と社会システム	2		選		3		
	国際社会福祉特殊講義	2		選		3	×	
	国際社会福祉研修	2		選		3	×	
	職業指導	2		選		3		
	子どもの権利演習	2		選		3		
	音楽演習1	2		選		3		
	音楽演習2	1		選		4		
	介護技術指導	1		選		5		
	社会福祉総合実習	2		選		5	×	
	社会福祉総合実習指導	2		選		5	×	
	地域共創フィールドワーク	2		選		6		
	社会福祉特別講義	2		選		7	×	
	日本史概論	2		選		1		
日本史特論	2		選		2			
東洋史概論	2		選		1			
西洋史概論	2		選		1			
地誌学1	2		選		3			
地誌学2	2		選		4			
自然地理学1	2		選		3			
自然地理学2	2		選		4			
人文地理学1	2		選		3			
人文地理学2	2		選		4			
法律学概論1	2		選		1			
法律学概論2	2		選		2			
国際政治学	2		選		1			
社会学概論	2		選		1			
経済学概論	2		選		1			
哲学概論	2		選		2			
宗教学概論	2		選		1			
倫理学概論	2		選		1			
社会心理学	2		選		3			
日本仏教史 (古代・中世)	2		選		1			
日本仏教史 (近世・近代)	2		選		2			
中国仏教史	2		選		2			

- I 教育目標
- II 履修一般
- III 教育課程
- 共通
- 仏教
- 日文
- 中国
- 英米
- 歴史
- 歴史文
- 教育
- 幼教
- 臨床
- 現社
- 公共
- 社福
- その他
- IV 規程

社会福祉学科 履修科目表 (3/3)

系列区分	授業科目	単位	必修・選択・自由別			履修開始 セメスター	GPA 対象	備 考
			必修	選択	自由			
専 門 科 目	ソーシャルワーク実習指導1	2			自	4	×	自由科目で修得した単位は卒業所要単位には算入できません。
	ソーシャルワーク実習1	2			自	4	×	
	ソーシャルワーク実習指導2	2			自	5	×	
	ソーシャルワーク実習2	4			自	5	×	
	ソーシャルワーク実習指導3	2			自	6	×	
	精神保健福祉援助実習指導1	2			自	5	×	
	精神保健福祉援助実習1	3			自	6	×	
	精神保健福祉援助実習指導2	2			自	7	×	
	精神保健福祉援助実習2	2			自	7	×	
	精神保健福祉援助実習指導3	2			自	8	×	
	保育実習指導1 (事前)	1			自	5	×	
	保育実習1A	2			自	6	×	
	保育実習1B	2			自	6	×	
	保育実習指導1 (事後)	1			自	6	×	
	保育実習指導2	1			自	7	×	
	保育実習指導3	1			自	7	×	
	保育実習2	2			自	7	×	
保育実習3	2			自	7	×		

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

社会福祉学科 卒業レポート提出までの手続き

大学院進学希望者は、「卒業レポート」が必修です。

履修登録

第4学年第8セメスターにおいて「卒業レポート」の履修登録が必要です。

卒業レポート 提出

【書 式】

学科	文字方向	手書き	ワープロ使用時の用紙書式	
社会福祉学科	横書き	不可	A4判縦 (上綴じ)	1,200字(40字×30行)/1枚 10枚(12,000字)以上 文字ポイント・余白・外字等の詳細は、 指導教員の指示を受けること

・作成にあたっては、指導教員の指示にしたがってください。

- 【提出】**・レポートの体裁は、「レポート提出票」を表紙とし（p.40参照）、期限（学年暦参照）までに学生支援課へ提出してください。
- ・口頭試問は実施しません。

対象学部 仏教学部 文学部 歴史学部 教育学部 社会学部 社会福祉学部

Ⅰ
教育
目標

Ⅱ
履修
一般

Ⅲ
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

Ⅳ
規程

第4学年に
おいて修得した
単位は、本学の卒業
所要単位として認定
することは
できません。

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」

単位互換制度とは、他大学の科目を履修し、その単位を所属大学の単位として認定する制度です。学生の幅広い関心と興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学など、ほぼ全ての学問分野にわたる科目が9テーマに分類され提供されています。自分の専攻を深めたい人、いろいろな可能性にチャレンジしてみたい人、自分の大学にない分野の科目を学んでみたい人など、毎年様々な動機で多くの学生が履修しています。本学の学生もこの制度により他大学の単位互換科目を受講することができます。受講料は無料（ただし科目により、所定の実習費等実費が必要となる場合があります）です。詳細については、『単位互換・京カレッジポータルサイト』（(財)大学コンソーシアム京都）を参照してください。

なお、本学における出願要項は次のとおりです。

出願要項

出願期間 (追加出願期間)	B-netにてお知らせします。(3月下旬~4月初旬)
出願先	本学学生支援課
出願方法	出願期間内に大学コンソーシアム京都のホームページ内「単位互換・京カレッジポータルサイト」にて出願票を作成し、学生支援課に提出する。
履修許可	受け入れ大学(以下「科目開設大学」)で出願が受理された学生に、履修が許可されます。申込みが多数の場合は、科目開設大学で書類選考等が行われます。なお、履修許可された授業科目の単位数は、「履修登録上限」の単位数に含めません。
履修許可通知	「単位互換・京カレッジポータルサイト」にて登録したメールアドレス宛に、履修可否を通知します。 ※出願された科目について、履修可否の通知までは、科目開設大学にて仮受講を許可していますので、必ず出席してください。
履修手続き	履修許可を受けた学生は、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。
身分証明書	手続きを完了した学生に、科目開設大学から身分証明書(単位互換履修生証等)が交付されます。 ※大学によっては、交付されない場合がありますので、科目開設大学の指示にしたがってください。
履修方法	科目開設大学の指示に従ってください。 受講日等は「単位互換制度特設サイト」で確認してください。
単位の認定	大学コンソーシアム京都単位互換履修生として修得した単位は、8単位を上限として、本学の共通教養科目の単位として認定します。なお、単位認定は年度末となります。但し、 <u>第4学年次において修得した単位は、本学の卒業所要単位として認定することはできません。</u>
その他	出願の際には、提供科目の開講日時が本学のオリエンテーション期間や、大学行事等に重ならないように留意してください。万一、重なった場合も、オリエンテーションや大学行事等への不参加の理由として認められません。

単位互換科目に関する諸連絡について

単位互換に関する諸連絡および科目開設大学から履修生への諸連絡(授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等)については、出願時に登録したメールアドレスへ通知されます。詳細は以下のホームページにて、各自で確認してください。

大学コンソーシアム京都 単位互換・京カレッジポータルサイト

検索

(参考 URL)

<https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

<http://www.consortium.or.jp/project/tg/details>

短期海外語学研修

国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではありません。しかし、一言で国際感覚と言っても、その内容は多岐にわたります。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することで日本との相違を認識し、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素です。そのためには、生きた外国語の修得が求められることは言うまでもなく、実際に海外で地域文化に直に触れ、現地の人々とコミュニケーションをとることによって見聞を広めることは、国際感覚を磨くための体験として重要です。

本学が実施する短期海外語学研修は全学部の学生を対象としており、研修先は共通教養科目の必修外国語科目である「英語」、「中国語」、「韓国語」に対応した各国です。語学研修は「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、現地講師の授業だけでなく、さまざまなアクティビティが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られる機会を提供しています。

短期海外語学研修一覧（予定）

言語	国・地域	研修先	研修期間（日数）
英語	マルタ共和国	マルタ大学	8月上旬～8月下旬（約15日間）
	ニュージーランド	カンタベリー大学	8月上旬～8月下旬（約25日間）
	カナダ	ナイアガラカレッジ	8月上旬～8月下旬（約20日間）
	アメリカ	College of the Desert (C.O.D.)	3月上旬～3月下旬（約20日間）
	オーストラリア	ディーキン大学	2月上旬～3月中旬（約40日間）
中国語	台湾	慈濟大学	2月中旬～2月下旬（約20日間）
韓国語	韓国	東國大学校	8月上旬～8月下旬（約15日間）

○各プログラムの詳細は、B-net および掲示にてお知らせします。

※応募人数や国際情勢により、これらのプログラムを中止、もしくは内容を変更する場合があります。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

I

教育
目標

II

履修
一般

III

教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV

規程

派遣留学・交換留学

本学が海外の大学との間で交わした学術交流協定に基づき、実施する留学制度です。全学部生が対象です。

派遣留学・交換留学一覧

国・地域	留学先	期間※
韓国	圓光大学校	2月～翌年3月
	東國大学校	2月～翌年3月
	江南大学校	2月～翌年3月
中国	西北大学	2月～翌年3月
台湾	東海大学	9月～翌年6月
	慈済大学	9月～翌年6月
ベトナム	ホーチミン市外国語情報技術大学 (HUFLIT)	9月～翌年6月
アメリカ	College of the Desert (C.O.D.)	8月～翌年6月

※留学中は留学先の履修に専念し、本学開講科目（オンライン・免許併修含む）を履修することはできません。

対象学部

仏教学部

文学部

歴史学部

教育学部

社会学部

社会福祉学部

通信教育課程との併修履修制度（「免許併修」）

担当：免許・資格課

「免許併修」とは

通学課程で在籍する学部・学科では取得できない教員免許状を、通信教育課程で履修することにより取得する制度です。在籍する通学課程の学部・学科で取得できる教員免許状は、通信教育課程の履修では取得できません。

- ①「免許併修」で取得可能な教員免許状は、下表の【「免許併修」で取得可能な教員免許状一覧】に掲載されている中から一種類となります。
- ②「免許併修」は、第2学年もしくは第3学年の4月から履修開始となります。入学手続きを履修開始前年度の所定期間に行うことが必要です。
- ③「免許併修」の履修開始前年度に以下のとおり説明会を行います。
 - 【6月】履修方法や諸経費等に関する説明
 - 【12月】入学手続きに関する説明
 ※日時はB-netでお知らせします。
- ④第3学年から「免許併修」を開始する場合は、履修期間が実質1年半程度しかありません。通学課程の学修と両立させながら通信教育課程の学修を進めるためには、入念な履修計画を立て、科目の合格を目指すことが必要です。
- ⑤「免許併修」において修得した単位は、通学課程の自由科目として単位認定されるため、卒業要件には算入できません。また、「免許併修」の履修単位は、通学課程の年間の履修登録上限単位数には含まれません。
- ⑥通学課程における学籍異動がある場合、「免許併修」の学籍は以下のようになります。
 - イ)「免許併修」には休学制度がありませんので、通学課程を休学する場合でも「免許併修」の学籍は継続（在学）となります。
 - ロ) 通学課程を退学・除籍となった場合は、「免許併修」の学籍も退学となります。
 - ハ)「免許併修」で取得可能な教員免許状は通学課程の在籍する学部・学科によって限られているため、転学部・転学科を希望する場合には注意が必要です。
- ⑦通学課程を卒業すると「免許併修」の学籍は退学となります。「免許併修」で教員免許状の取得に必要な科目を履修できずに通学課程を卒業した場合、卒業後新たに通信教育課程に入学し、教員免許状の取得に向けて科目を履修することができます。

【「免許併修」で取得可能な教員免許状一覧】

免許の種類	通学在籍学科	仏教	日本文学	中国語	英語	歴史	歴史文化	教育	幼児教育	臨床心理	現代社会	公共政策	社会福祉
幼稚園1種		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
小学校1種		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
国語／中学校1種・高校1種		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会／中学校1種 地理歴史／高校1種			○	○	○				○				
社会／中学校1種 公民／高校1種			○	○	○				○				
地理歴史・公民／高校1種			○	○	○			○	○				
地理歴史／高校1種			○	○	○			○	○	○			
公民／高校1種			○	○	○			○	○				
数学／中学校1種・高校1種		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
英語／中学校1種・高校1種		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
中国語／中学校1種・高校1種		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教／中学校1種・高校1種			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
書道／高校1種		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報／高校1種		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
福祉／高校1種		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

Ⅰ 教育目標

Ⅱ 履修一般

Ⅲ 教育課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

Ⅳ 規程

IV. 規程



(趣旨)

第1条 佛教大学学則第3章および第4章の施行のために本規程を定める。

- 2 授業科目の履修方法等については、法令、学則またはこれらに基き特別の定めがあるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の登録)

第2条 履修しようとする授業科目は、指定された期間・方法で学生支援課に届出なければならない。

- 2 病気その他止むを得ない正当な事由により、指定された期間内に授業科目の登録または卒業論文題目の届出ができない場合は、直ちに延期事由を証明する書類を添えて、延期願（任意の書式）を学生支援課に提出し、指示を受けなければならない。
- 3 授業科目登録後の追加・変更は、原則として認めない。
- 4 定員制等により予備登録を必要とする授業科目は、予備登録の手続きを経てその登録が許可された者のみ履修登録することができる。
- 5 クラス指定されている授業科目は、原則としてその指定されたクラスのみ履修登録することができる。
- 6 指定された期間内に届出（登録）を完了しない場合は、当該セメスターにおける受講資格を失う。

(授業科目の履修取消し)

第2条の2 学部が正当な理由があると認めた場合は、履修登録を取消することができる。

- 2 履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、原則として、必修科目、自由科目は履修取消しができない。
- 3 申請は指定された期間・方法で学生支援課に届け出なければならない。
- 4 申請期間以外の申請は原則認めない。但し、病気等その他止むを得ない正当な事由により申請ができなかった場合や、「実習科目」、「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業レポート」は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがある。
- 5 本条各項に規定する授業科目の履修取消制度は、2019年度以降第1学年次入学者より適用する。

(授業科目の履修)

第3条 授業科目の授業総時間数の3分の1以上欠席した場合は、その科目の単位を修得できないことがある。

- 2 教育職員免許状を取得する者は、学則所定の教育職員免許状取得に関わる科目等に加え、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目に規定する本学基準開講科目を修得しなければならない。

(試験)

第4条 試験の種類は、定期試験、追試験および再試験とする。

- 2 試験は、筆記試験、レポート（論文）試験、口述試験、実技試験またはその他の方法によって行ない、その方法については別に定める。
- 3 履修登録をしていない科目は、受験することができない。
- 4 学費未納者は、受験資格を失う。
- 5 追試験および再試験の実施にあたり、大学が指定した試験期日に受験しなかった場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失う。

- 6 追試験は、止むを得ない正当な事由により定期試験を受験できなかった者を対象として、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。
- 7 前項における正当な事由とは、次の各号のいずれかに該当しなければならない。受験資格取得にかかわる課程の履修に関する事項について定める。
 - (1) 教育実習、博物館実習、図書館実習、介護等体験、ソーシャルワーク実習、社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助実習、保育実習、心理実習、社会教育実習、臨床基礎実習、臨床評価実習、総合臨床実習、基礎看護学実習、コミュニティ実習、クリティカルケア看護学実習、慢性看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護学実習、在宅看護学実習、公衆衛生看護学実習、統合実践看護実習、臨床心理実習および伝宗伝戒道場（加行）のいずれかを受講中の場合（本学の当該免許・資格取得課程受講者に限る）
 - (2) 病気、けがの場合（医師の診断書を添付）
 - (3) 不慮の事故または災害による被害者の場合（事故証明書、被災者証明書を添付）
 - (4) その他正当と認められる事由がある場合（事由が証明できる書類を添付）
- 8 追試験受験希望者は、事由を証明する書類を添えて、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、受験手数料を納付しなければならない。
- 9 春学期の追試験は8月に、秋学期の追試験は2月に実施する。
- 10 再試験は、最終学年における3月および9月卒業予定者で単位不足により卒業できない場合、当該年度に登録履修した授業科目のうち4科目以内を合格すれば卒業の要件を充たす場合にのみ、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。但し、次の各号に該当する科目は、再試験の対象としない。なお、保健医療技術学部および看護学部の期末再試験については別に定める。
 - (1) 卒業論文、卒業研究または卒業レポート（以下、「卒業論文等」という。）
 - (2) 定期試験を受験しなかった科目
 - (3) 出席不良により不合格となった科目
- 11 再試験受験希望者は、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、所定の再試験料を納付しなければならない。
- 12 再試験における合格者の成績評価は、全て60点とする。
- 13 試験において次の場合は、不正行為とみなし学則により懲戒処分を行なう。さらに当該科目および当該学期に履修登録した全部もしくは一部の科目の登録を無効とする。
 - (1) 私語や態度について注意を与えても改めないとき。
 - (2) 許可なくして物品や教科書・ノート類を貸借したとき。
 - (3) 許可された以外の物を参照したとき。
 - (4) 代人受験をなし、またはなさしめたとき。
 - (5) その他監督者の指示に直ちに従わないとき。

（成績評価）

第5条 成績評価は点数をもって行い、次の評語で表示する。また、本学が入学前の既修得単位によって認定した授業科目については、「認定」の評語で表示する。

(2019年度以降第1学年次入学者)

(2018年度以前第1学年次入学者)

- S 100点～90点
- A 89点～80点
- B 79点～70点
- C 69点～60点
- D 59点以下
- X 未受験
- N 評価対象外

- A 100点～80点
- B 79点～70点
- C 69点～60点
- D 59点以下
- X 未受験
- N 評価対象外

- 2 成績評価は60点(評語C)以上を合格とし、59点以下(評語D)、未受験(評語X)、評価対象外(評語N)は不合格とする。
- 3 学業成績を測る基準として、GPA (grade point average) (以下、「GPA」という)を使用する。GPAは、該当履修期間中の履修科目の成績評価を4点～0点のGP (grade point) に換算し、各GPに各科目の単位数を掛けて、それを履修科目の総単位数で割ったものをGPAとして、計算値は小数点第3位を四捨五入して表記する。

点数	成績評価	GP
100～90	S	4
89～80	A	3
79～70	B	2
69～60	C	1
59～0	D	0
未受験	X	0
評価対象外	N	0
履修取消	-	ポイントつけず
認定	認定	ポイントつけず

- 4 GPAは学生の学習・履修指導、進級・卒業判定、退学勧告等の基準として活用する。

(成績の疑義申立)

第5条の2 成績について疑義申し立てを行なうことができる。

- 2 疑義申し立てをしようとするものについては、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るものとする。なお、申し出可能期間は、原則として、評価当該学期の成績発表日を含め5日以内とする。

(卒業論文等)

第6条 卒業論文等は、卒業予定セメスターにおいて履修登録しなければならない。

- 2 卒業論文題目は、指導教授の承認を得て、指定された期限までに届出なければならない。
- 3 卒業論文題目の届出を完了している者は、指定された期限までに卒業論文を学生支援課に提出しなければならない。

- 4 仏教学部仏教学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒論ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒論ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業論文」の提出資格を失う。
- 5 文学部日本文学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 6 文学部中国学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 7 歴史学部歴史学科、歴史文化学科、教育学部臨床心理学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒業研究ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業研究ゼミ2」の登録資格、ならびに「卒業論文」の提出資格を失う。
- 8 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」もしくは「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 9 仏教学部仏教学科、文学部日本文学科、中国学科、歴史学部歴史学科、歴史文化学科の2010年度～2018年度第1学年次入学者、および教育学部臨床心理学科の2011年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、卒業論文または卒業研究の提出資格ならびに「卒業研究ゼミ1」および「卒業研究ゼミ2」の登録資格を失う。
- 10 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2013年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」および「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 11 学費未納者は、卒業論文等の提出資格を失う。
- 12 卒業論文または卒業研究提出資格の認定は、第7および第8セメスター在学者を対象として、各学期始めに行なう。
- 13 卒業論文等は、別に定める学科所定の様式によらなければならない。
- 14 病気その他止むを得ない正当な事由により指定された期日までに卒業論文等を提出できない者で、事由を証明する書類を添えて延期願（任意の書式）を提出した者は、最大限2週間までその提出を延期することができる。

（卒業延期）

第7条 佛教大学学則第30条第2項に基き、各セメスター終了時における単位の修得状況により、卒業延期（留年）が確定するものとする。

（規程改廃）

第8条 本規程の改廃は、各学部教授会ならびに大学院各研究科教授会の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

附 則

- 第1条 本規程は、「佛教大学修学規程」(昭和45年4月1日施行)を全面改正し、新規に制定するものとする。
- 第2条 本規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 第3条 本規程は、平成9年4月1日から改正施行する。
- 第4条 本規程は、平成10年4月1日から改正施行する。
- 第5条 本規程は、平成12年4月1日から改正施行する。
- 第6条 本規程は、平成13年4月1日から改正施行する。
- 第7条 本規程は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 第8条 本規程は、平成20年4月1日から改正施行する。
- 第9条 本規程は、平成21年4月1日から改正施行する。
- 第10条 本規程は、平成22年4月1日から改正施行する。
- 第11条 本規程は、平成23年4月1日から改正施行する。
- 第12条 本規程は、平成24年4月1日から改正施行する。
- 第13条 本規程は、平成25年4月1日から改正施行する。
- 第14条 本規程は、平成26年4月1日から改正施行する。
- 第15条 本規程は、平成30年4月1日から改正施行する。
- 第16条 本規程は、平成31年4月1日から改正施行する。
- 第17条 本規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
- 第18条 本規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
- 第19条 本規程は、令和6年4月1日から改正施行する。
- 第20条 本規程は、令和7年4月1日から改正施行する。
- 第21条 本規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴文

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

【学則・規程】

- ・ 佛教大学学則
- ・ 佛教大学大学院学則
- ・ 佛教大学学位規程
- ・ 佛教大学学位規程細則
- ・ 佛教大学別科規程
- ・ 修学規程
- ・ 大学協議会規程
- ・ 学籍異動に関する規程
- ・ 佛教大学転籍規程
- ・ 佛教大学大学院転籍規程
- ・ 佛教大学大学院転籍に関する内規
- ・ 学費等納付規程
- ・ 大学院学費等納付規程
- ・ 佛教大学学生懲戒規程
- ・ 佛教大学奨学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学奨学生奨学金給付規程細則
- ・ 佛教大学大学院奨学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学私費外国人留学生奨学一時金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生授業料減免規程
- ・ 佛教大学生外国留学奨学金規程
- ・ 佛教大学障害学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学奨学生および各種奨学生選考・推薦規程
- ・ 学資給付金規程
- ・ 学資給付金規程細則
- ・ 学資貸付金規程
- ・ 被災者に対する奨学金規程
- ・ 傷害治療費・修理費給付規程
- ・ 佛教大学教育後援会育英奨学金規程
- ・ 佛教大学教育後援会育英奨学生選考・推薦規程
- ・ 佛教大学教育後援会課外活動奨励制度規程
- ・ 佛教大学教育後援会短期貸付金規程
- ・ 遺失物・拾得物取扱規程
- ・ 学生の施設使用に関する規程
- ・ 学友会会則
- ・ 佛教大学におけるハラスメントに関する指針
- ・ ハラスメント相談窓口に関する規程
- ・ 鷹陵館利用規程
- ・ 鹿溪館使用規程
- ・ 鹿溪館使用規程細則
- ・ 佛教大学学生ボランティア支援制度規程
- ・ 就職斡旋規程
- ・ 学生の課外活動に関する規程
- ・ 学生の課外活動に関する規程細則
- ・ 課外活動援助金規程
- ・ 課外活動援助金規程細則
- ・ 課外活動における教室使用細則
- ・ 課外活動における鷹陵館施設使用細則
- ・ 課外活動における岩倉グラウンド施設使用細則
- ・ 課外活動における岩倉グラウンド
セミナーハウス「光照」施設使用細則
- ・ 課外活動における広沢グラウンド施設使用細則
- ・ 課外活動における園部キャンパス・
スポーツゾーン施設使用細則
- ・ 課外活動における園部キャンパス・スポーツゾーン
セミナーハウス「和順」施設使用細則
- ・ 佛教大学情報セキュリティポリシー

各規程の最新の内容は[ホームページ](#)にて確認してください。

※トップページ > 学生生活 > 学生生活サポート > 学生生活基礎知識

I
教育
目標

II
履修
一般

III
教育
課程

共通

仏教

日文

中国

英米

歴史

歴史

教育

幼教

臨床

現社

公共

社福

その他

IV
規程

授業欠席届（複写後切り取って利用してください）

※提出方法等、詳細はp.37にあります。

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

学部 学科 年生

学籍番号

-

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。

※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛敎大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

学部 学科 年生

学籍番号

-

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。

※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛敎大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

学部 学科 年生

学籍番号

-

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。

※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛敎大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

学部 学科 年生

学籍番号

-

氏名

欠席理由

このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。

※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛敎大学

時間割表

※この用紙は時間割作成のために、自由に書き込んで使ってください。提出の必要はありません。

	月		火		水		木		金		土	
	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位
1												
2												
3												
4												
5												
6												
適隠科目	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位	開講科目	担当者 単位
集中												

